

立川市 男女平等参画についての
市民アンケート調査
《 報 告 書 》

令和5（2023）年6月
立川市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査方法	1
(1) 調査の対象及び対象者数	1
(2) 調査方法・調査期間	1
4. 報告書の見方	1
5. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 婚姻状況	2
(4) 就労状況	3
(5) 職業	3
(6) 通勤・通学先	3
II 調査の結果	4
1. ワーク・ライフ・バランスの推進について	4
(1) ワーク・ライフ・バランスの推進についての希望と現実	4
(2) ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なこと	11
(3) 働きやすい社会をつくるために必要なこと	14
(4) 女性が働き続けることの障害になっている理由	17
2. 男女平等参画に関する意識について	20
(1) 男女平等参画に関する意識	20
(2) 結婚、家庭、離婚などの考え方	27
(3) 立川市の男女平等参画に関することからの認知度	29
(4) 男女平等参画に関することばの認知度	32
3. 夫婦間での行為における暴力としての認識について	35
(1) 夫婦間での行為における暴力としての認識	35
4. 男女間の暴力を防止するために必要なことについて	47
(1) 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制	47
5. 男女間の暴力に関する相談窓口について	50
(1) 男女間の暴力に関する相談窓口の認知度	50
(2) 利用したことのある相談窓口	52
(3) 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと	54

6. 配偶者等からの被害経験について	56
(1) 配偶者の有無	56
(1-1) 配偶者からの被害経験	57
(1-2) 配偶者から被害を受けたときの行動	59
(1-3) 配偶者と別れなかった理由	60
(1-4) 相談の有無（配偶者からの被害）	62
(1-5) 相談しなかった理由（配偶者からの被害）	63
(2) 交際相手の有無	65
(2-1) 交際相手からの被害経験	66
(2-2) 交際相手から被害を受けたときの行動	68
(2-3) 交際相手と別れなかった理由	69
(2-4) 相談の有無（交際相手からの被害）	71
(2-5) 相談しなかった理由（交際相手からの被害）	72
7. セクシュアル・マイノリティについて	74
(1) セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度	74
(2) 性のあり方についての悩みの有無	77
(3) セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題	79
8. 防災に関する男女平等参画に向けた取組について	81
(1) 防災に関する男女平等参画に向けた取組	81
9. 立川市の男女平等参画に向けた取組について	83
(1) 立川市の男女平等参画に向けた取組についての重要度と満足度	83
10. 立川市第7次男女平等参画推進計画で掲げた指標と目標値	89
11. 自由意見	90
(1) 自由意見の概要	90
(2) 自由意見の詳細（男女平等参画推進に関する内容）	91
(3) 自由意見の詳細（その他の内容）	99
III. 調査結果の分析	108
1. 立川市第7次男女平等参画推進計画のテーマ別に見るポイント	108
基本テーマⅠ 男女平等参画と人権の意識づくり	109
基本テーマⅡ あらゆる分野での男女平等参画の推進	111
基本テーマⅢ 男女が働きやすい環境づくりの推進	113
基本テーマⅣ 配偶者等からの暴力の防止	115
IV. 調査票	118

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、男女平等参画全般に関する問題について、市民の意識や現状等を把握し、啓発や支援など市の施策のあり方等について検討するための基礎資料作成を目的に実施しました。

2. 調査項目

- (1) ワーク・ライフ・バランスの推進について
- (2) 男女平等参画に関する意識について
- (3) 夫婦間での行為における暴力としての認識について
- (4) 男女間の暴力を防止するために必要なことについて
- (5) 男女間の暴力に関する相談窓口について
- (6) 配偶者等からの被害経験について
- (7) セクシュアル・マイノリティについて
- (8) 防災に関する男女平等参画に向けた取組について
- (9) 立川市の男女平等参画に向けた取組について
- (10) あなたご自身について

3. 調査方法

(1) 調査の対象及び対象者数

調査対象	配布数	回答数	回答率
令和4年9月15日現在、市内にお住まいの18歳以上の方を無作為に抽出	2,000	600	30.0%

(2) 調査方法・調査期間

調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和4年10月7日～10月28日

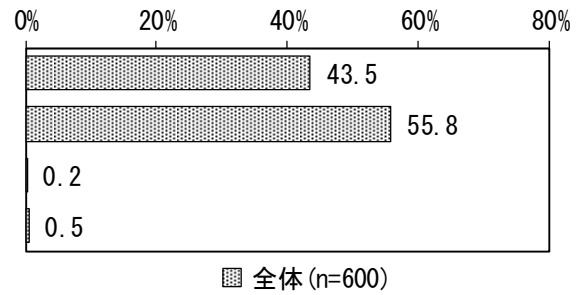
4. 報告書の見方

- ①基数となるべき実数は、n（回答者数）として表示しています。比率は、n（回答者数）を100.0%として算出しています。
- ②回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点第2位を四捨五入していますが、SA（単一回答）の場合は数値の合計が100.0%になるよう調整をしている場合があります。また、MA（複数回答）の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。
- ③本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- ④選択肢「その他」や自由意見として記載された内容は、回答者を尊重して可能な限り原文のまま記載していますが、明らかな誤字・脱字等は修正している場合があります。

5. 回答者の属性

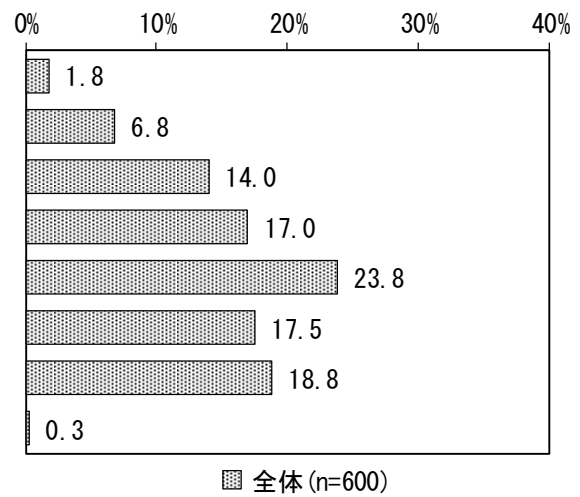
(1) 性別

項目	基数 (n)	構成比 (%)
男性	261	43.5
女性	335	55.8
自由記述	1	0.2
無回答	3	0.5
合計	600	100.0



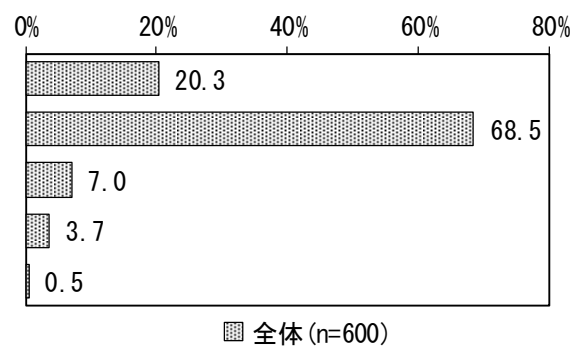
(2) 年齢

項目	基数 (n)	構成比 (%)
19歳以下	11	1.8
20代	41	6.8
30代	84	14.0
40代	102	17.0
50代	142	23.8
60代	105	17.5
70歳以上	113	18.8
無回答	2	0.3
合計	600	100.0



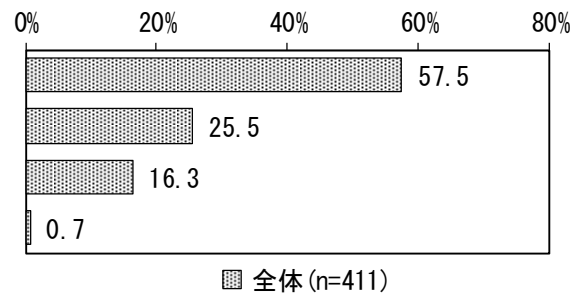
(3) 婚姻状況

項目	基数 (n)	構成比 (%)
未婚	122	20.3
既婚 (事実婚を含む)	411	68.5
離別	42	7.0
死別	22	3.7
無回答	3	0.5
合計	600	100.0



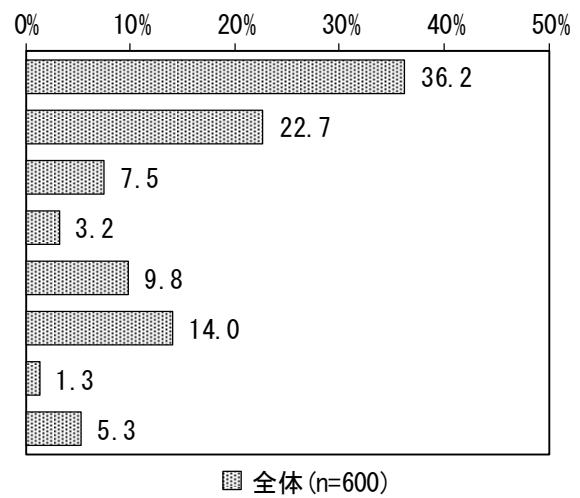
(4) 就労状況

項目	基数 (n)	構成比 (%)
両方就労している	236	57.5
どちらか片方が就労	105	25.5
どちらも就労していない	67	16.3
無回答	3	0.7
合計	411	100.0



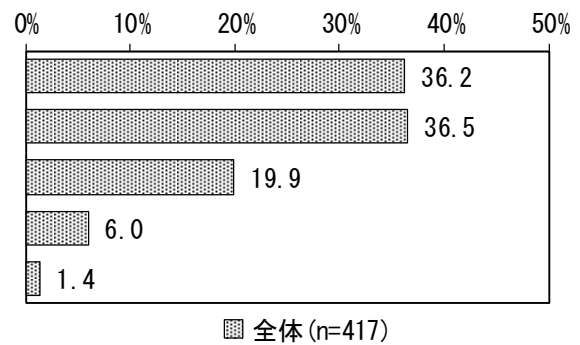
(5) 職業

項目	基数 (n)	構成比 (%)
正規社員 (常勤)	217	36.2
非正規社員	136	22.7
自営業	45	7.5
学生	19	3.2
専業主婦 (夫)	59	9.8
無職	84	14.0
その他の仕事	8	1.3
無回答	32	5.3
合計	600	100.0



(6) 通勤・通学先

項目	基数 (n)	構成比 (%)
立川市内	151	36.2
立川市以外の都内市町村	152	36.5
都内23区	83	19.9
他道府県	25	6.0
無回答	6	1.4
合計	417	100.0



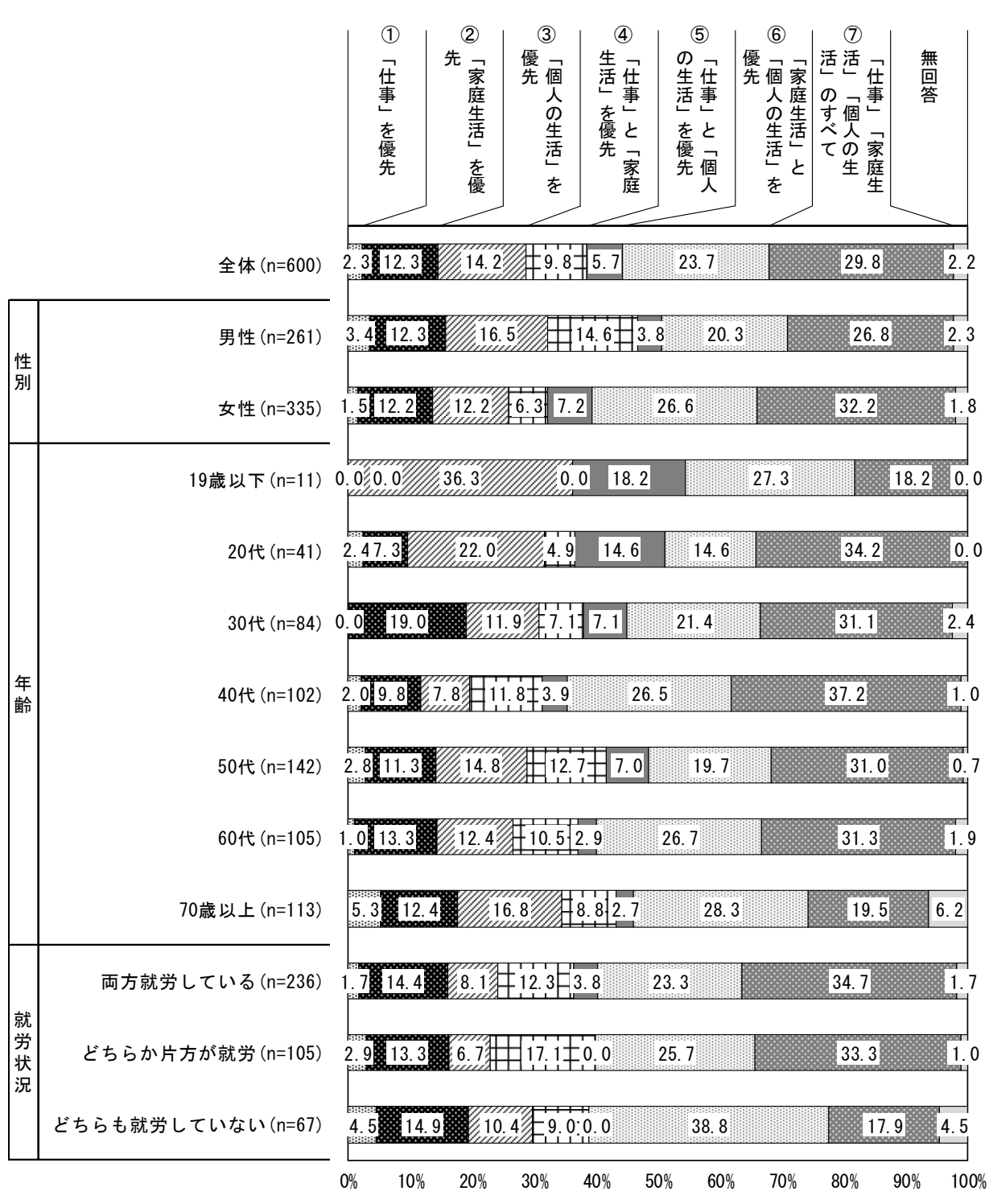
II 調査の結果

1. ワーク・ライフ・バランスの推進について

(1) ワーク・ライフ・バランスの推進についての希望と現実

問1 あなたの生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味、学習等）」の優先度について、あなたの希望及び現実にもっと近いものをそれぞれ選んで口の中に記入してください。（①～⑦それぞれ1つ記入してください。）

図表 【希望】 ①ワーク・ライフ・バランスの推進について



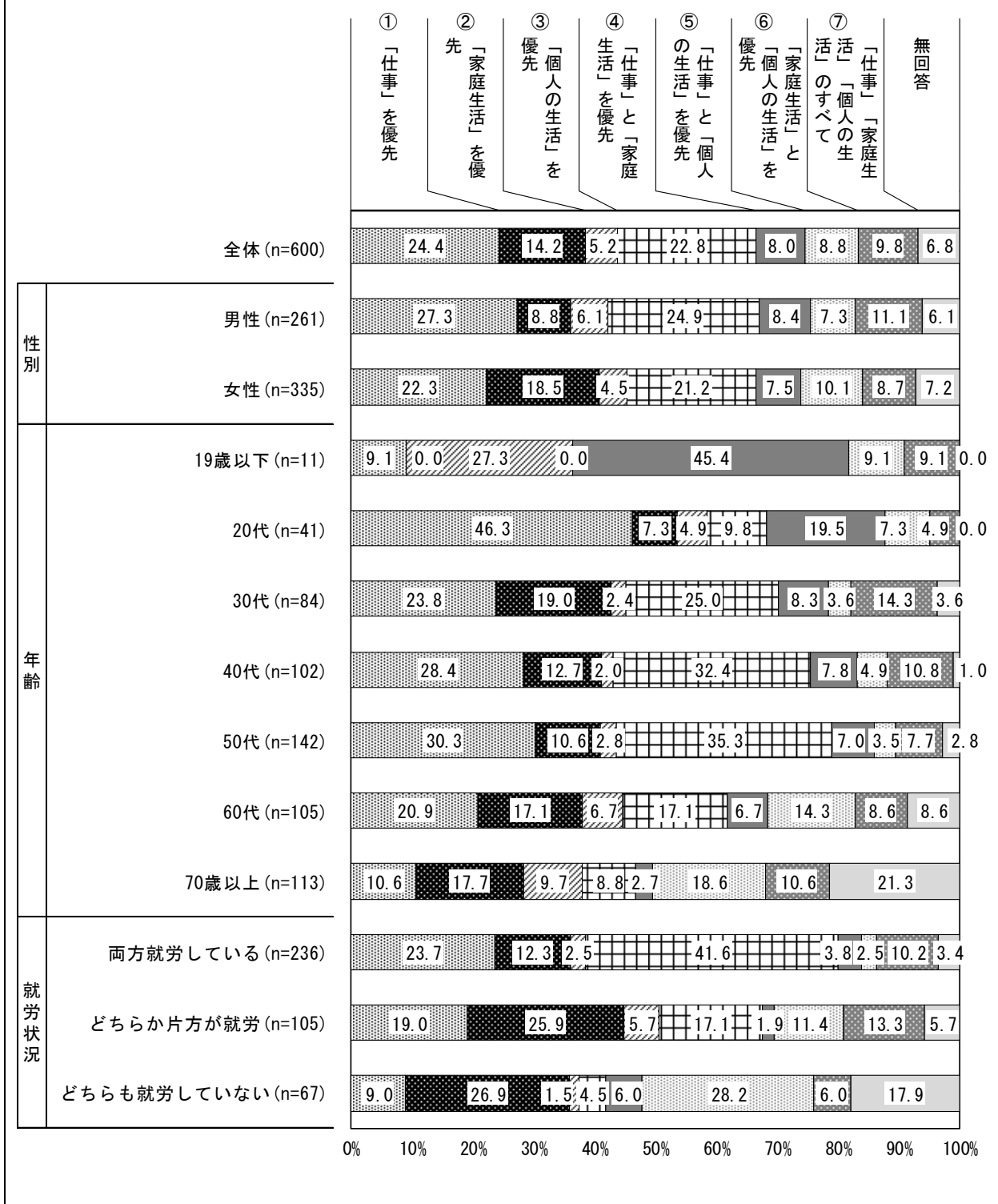
ワーク・ライフ・バランスの推進について【希望】を聞いたところ、「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」が29.8%と最も高く、次いで「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が23.7%と2割を超えています。一方で、「『仕事』を優先」(2.3%)と「『仕事』と『個人の生活』を優先」(5.7%)と「『仕事』と『家庭生活』を優先」(9.8%)は1割未満となっています。

性別で見ると、男性・女性ともに「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」が最も高く、「『仕事』を優先」が最も低くなっています。「『仕事』と『家庭生活』を優先」は男性が14.6%と女性(6.3%)を8.3ポイント上回っています。

年齢で見ると、20代から60代は「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」が最も高くなっています。19歳以下は「『個人の生活』を優先」が36.3%と最も高く、70歳以上は「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が28.3%と最も高くなっています。

就労状況で見ると、両方就労している・どちらか片方が就労は「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」が3割を超えて最も高く、どちらも就労していないは「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が3割を超えて最も高くなっています。

図表 【現実】②ワーク・ライフ・バランスの推進について



ワーク・ライフ・バランスの推進について【現実】を聞いたところ、「『仕事』を優先」が24.4%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が22.8%と2割を超えています。一方で、「『個人の生活』を優先」(5.2%)と「『仕事』と『個人の生活』を優先」(8.0%)と「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」(8.8%)と「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」(9.8%)は1割未満となっています。

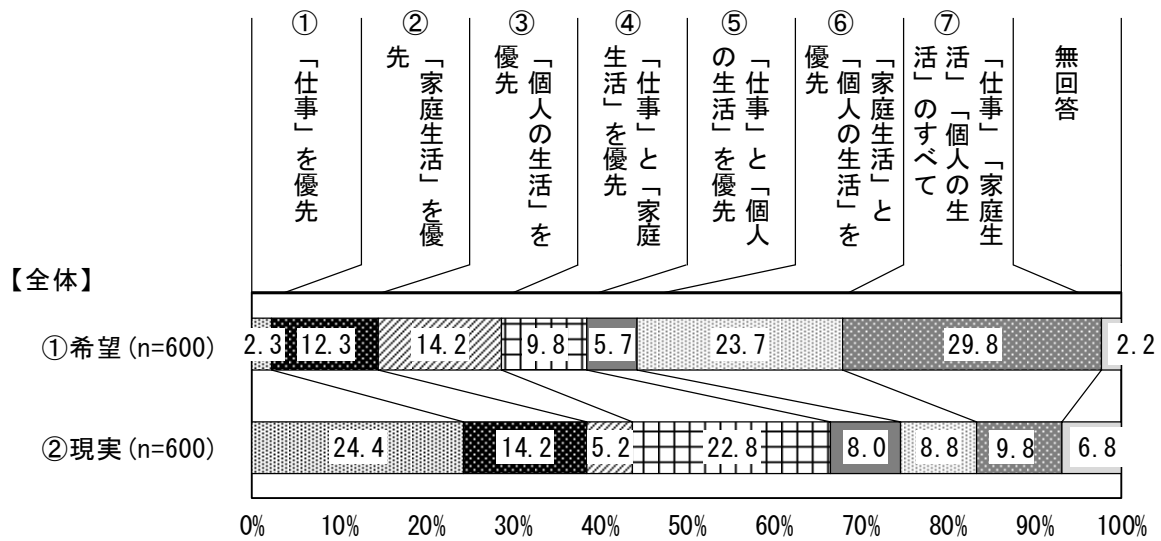
性別で見ると、男性・女性ともに「『仕事』を優先」が最も高く、「『個人の生活』を優先」が最

も低くなっています。『家庭生活』を優先」は女性が18.5%と男性（8.8%）を9.7ポイント上回っています。

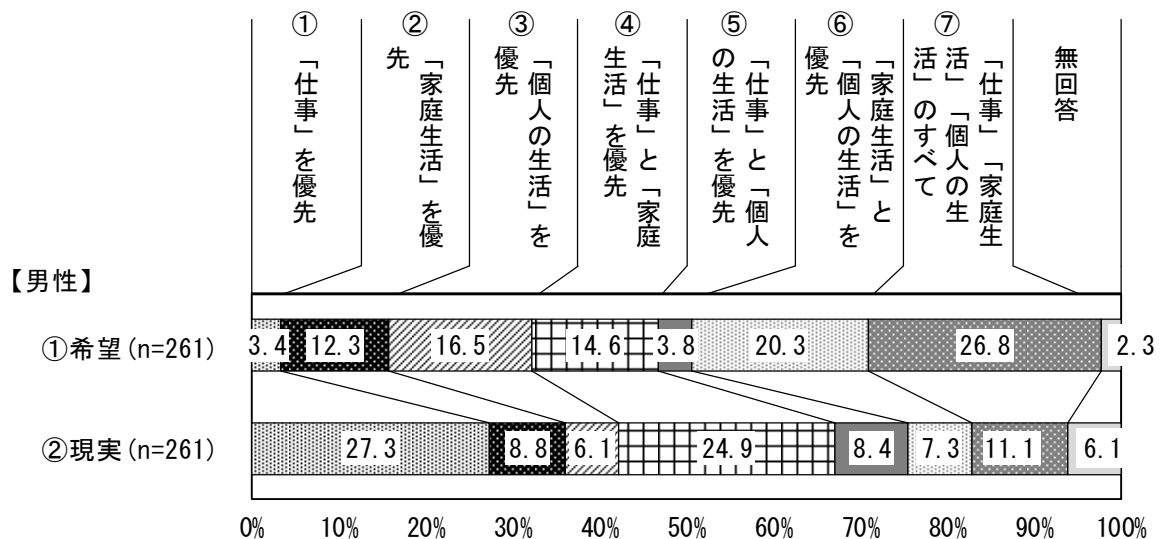
年齢で見ると、20代と60代は『仕事』を優先」が最も高くなっています。特に、20代（46.3%）のみが4割を超えて高くなっています。30代から50代は『仕事』と『家庭生活』を優先」が最も高くなっています。

就労状況で見ると、『仕事』と『家庭生活』を優先」は両方就労している（41.6%）のみが4割を超えて最も高くなっています。

図表 【全体】 ワーク・ライフ・バランスの推進についての希望と現実との差



図表 【男性】 ワーク・ライフ・バランスの推進についての希望と現実との差

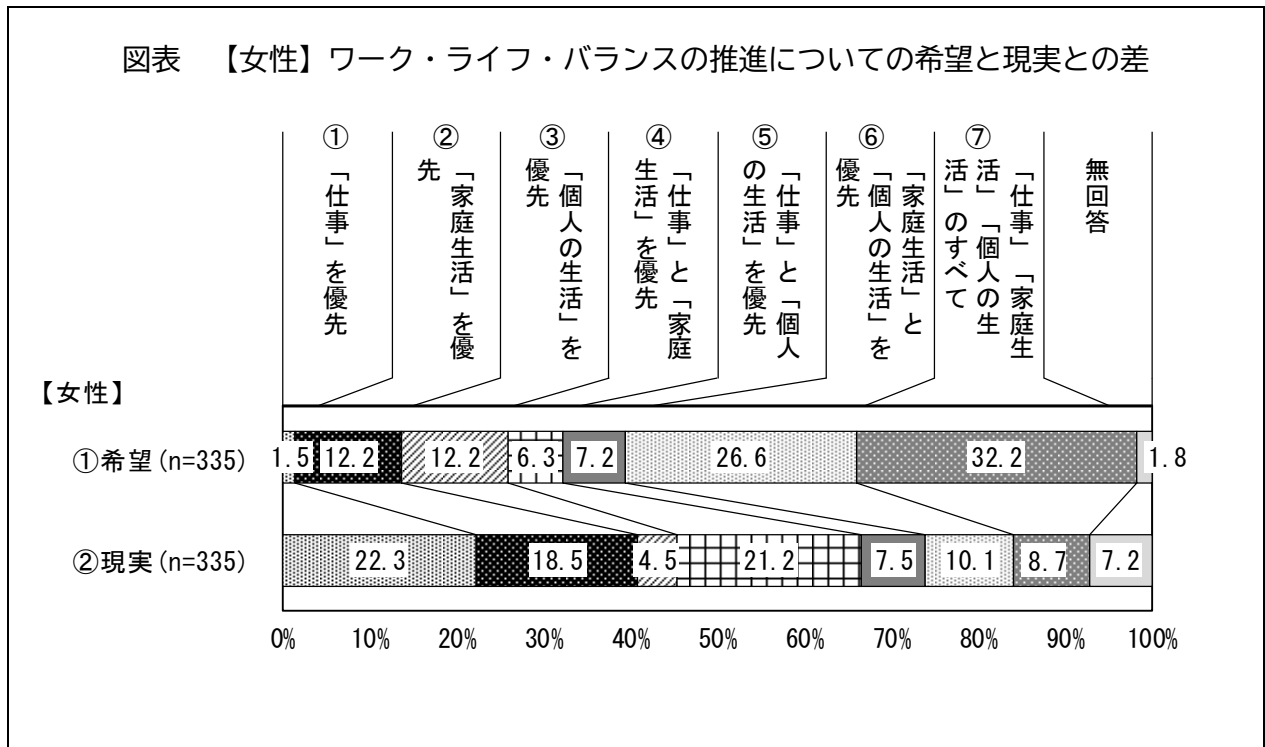


ワーク・ライフ・バランスの推進について、希望と現実とを比較しました。

【全体】を見ると、「『仕事』を優先」は現実が24.4%と、希望（2.3%）を22.1ポイント上回っています。また、「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」は現実が9.8%と、希望（29.8%）を20.0ポイント下回っています。

【男性】を見ると、「『仕事』を優先」は現実が27.3%と、希望（3.4%）を23.9ポイント上回っています。また、「『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべて」は現実が11.1%と、希望（26.8%）を15.7ポイント下回っています。

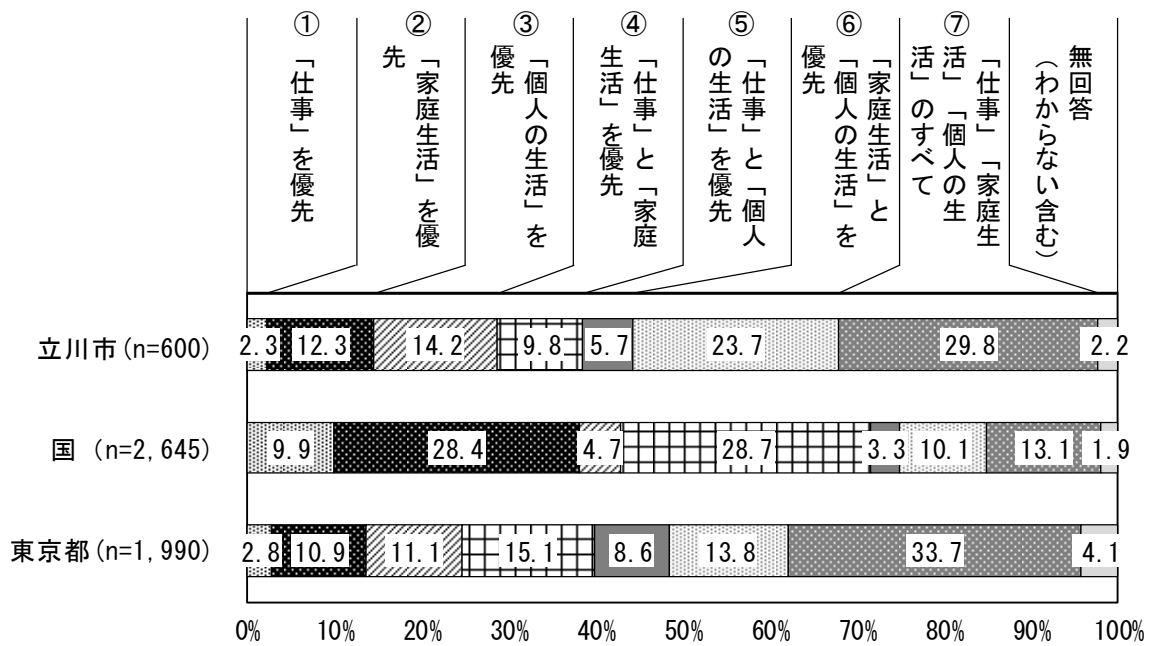
図表 【女性】ワーク・ライフ・バランスの推進についての希望と現実との差



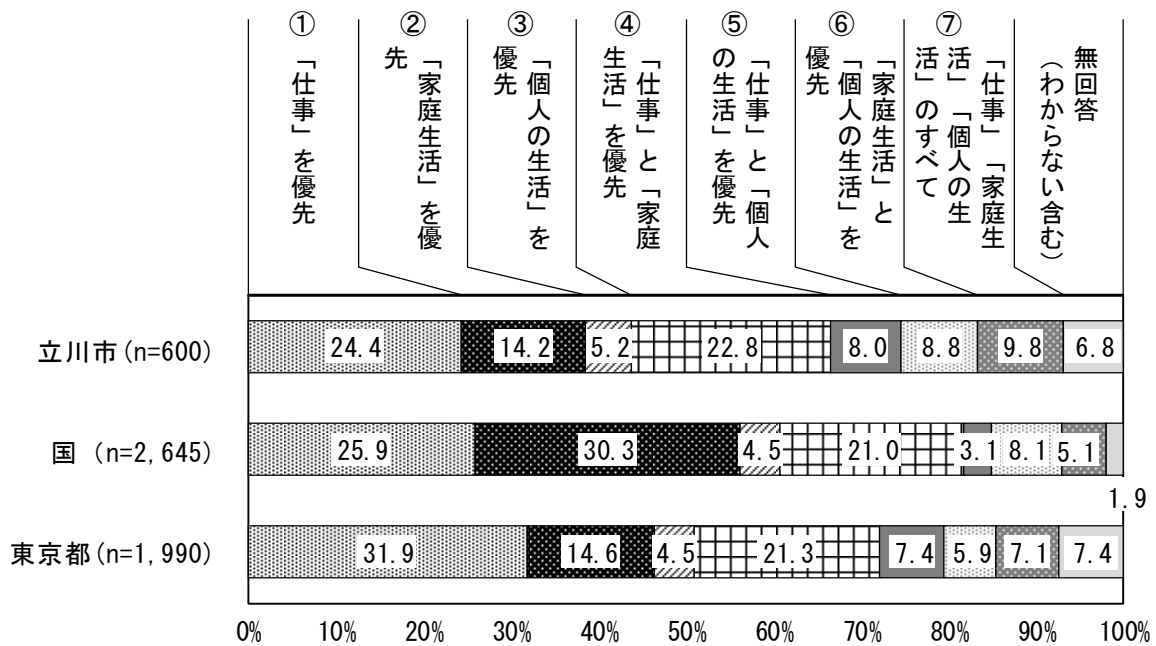
【女性】を見ると、『仕事』を優先は現実が22.3%と、希望(1.5%)を20.8ポイント上回っています。また、『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべては現実が8.7%と、希望(32.2%)を23.5ポイント下回っています。

【男性】と【女性】を比べると、男性・女性ともに希望は『仕事』『家庭生活』『個人の生活』のすべてが最も高く、女性の方が32.2%と、男性(26.8%)を5.4ポイント上回っています。『家庭生活』を優先は男性では希望が高く、女性では現実が高くなっています。

図表 【希望】 ①ワーク・ライフ・バランスの推進について（地域別比較）



図表 【現実】 ②ワーク・ライフ・バランスの推進について（地域別比較）



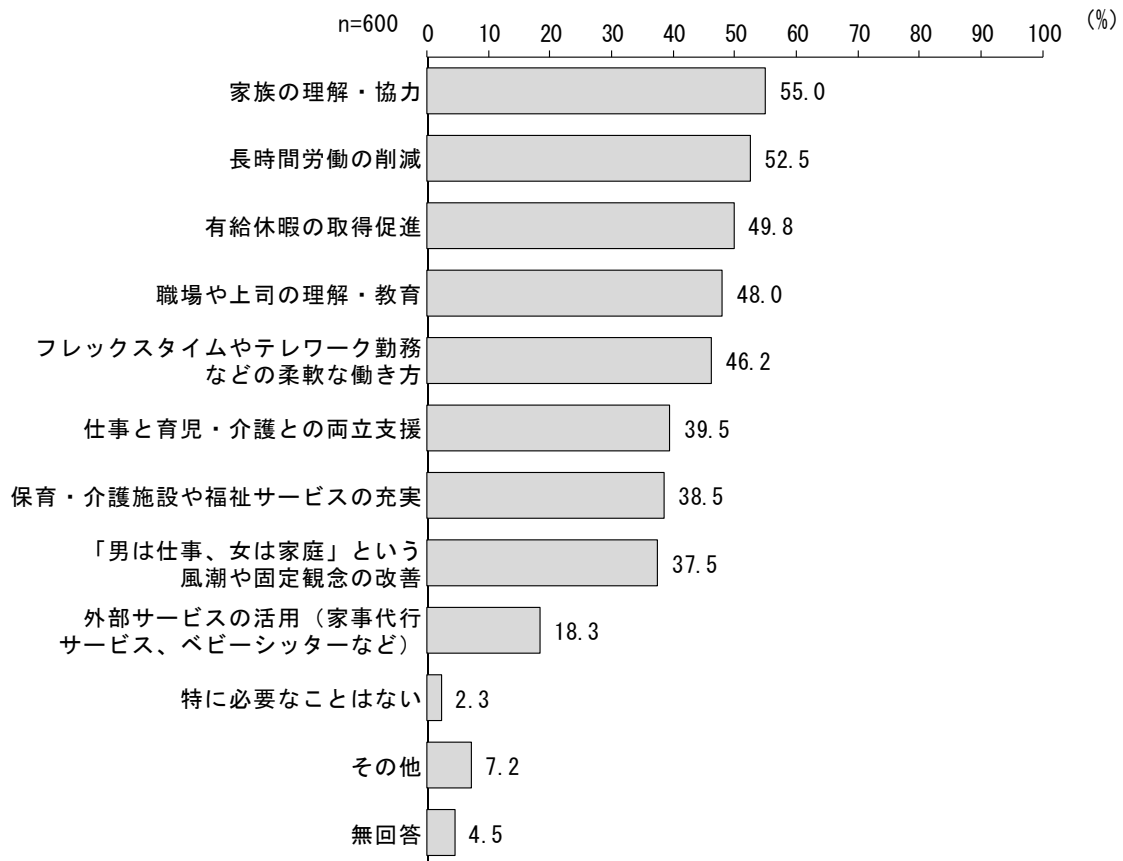
※国は令和元年の「男女共同参画社会に関する世論調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

ワーク・ライフ・バランスの推進について【希望】を地域別に見ると、立川市・東京都は国と比べて『「家庭生活」を優先』が低く、『「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべて』が高くなっています。【現実】を地域別に見ると、立川市・東京都は国と比べて『「家庭生活」を優先』が低くなっています。

(2) ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なこと

問2 「仕事」と「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味、学習等）」のバランスをうまくとるために必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○をしてください。）

図表 ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なこと



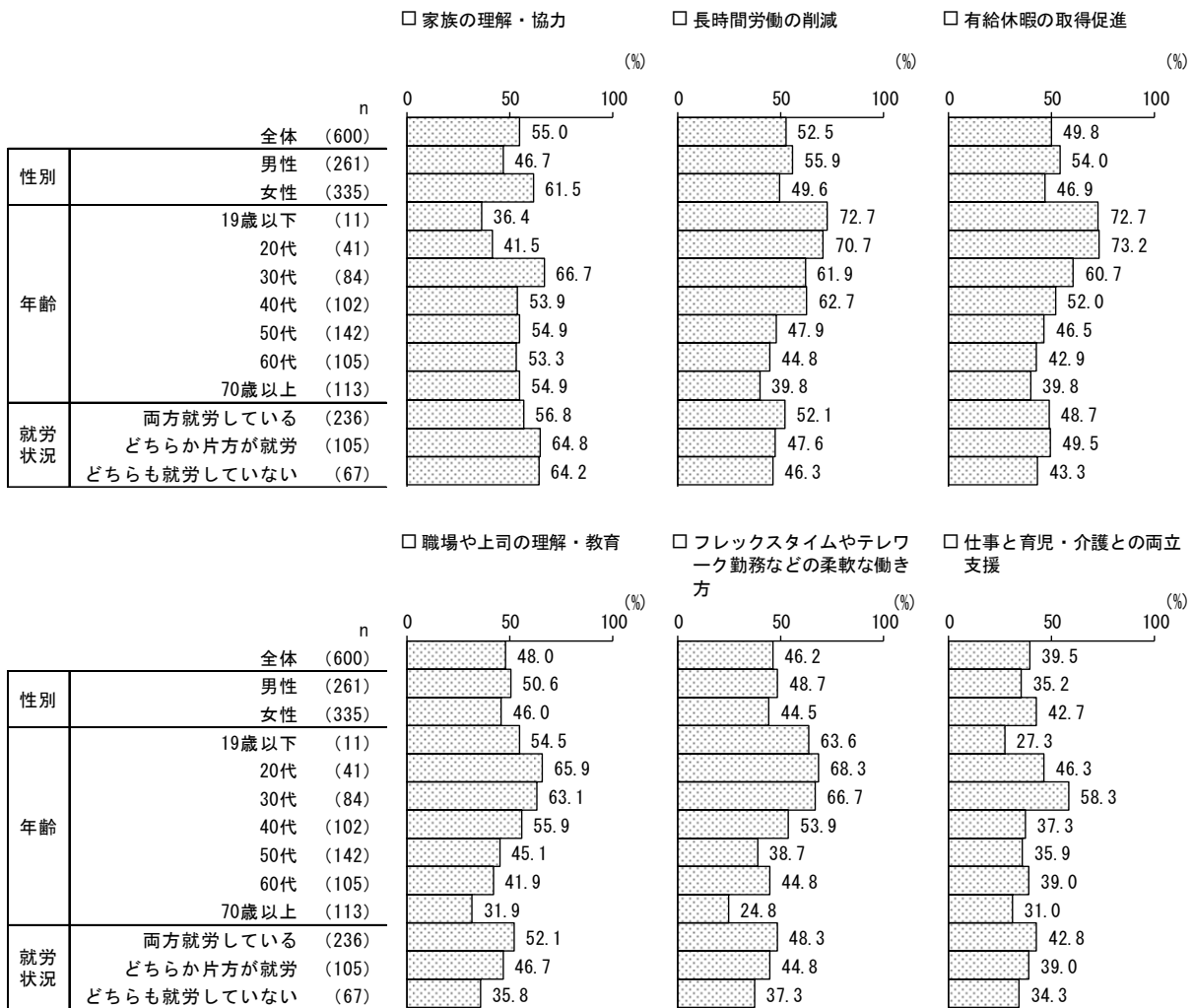
ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なことについて聞いたところ、「家族の理解・協力」が55.0%と最も高く、次いで「長時間労働の削減」が52.5%と5割を超えています。これに「有給休暇の取得促進」が49.8%、「職場や上司の理解・教育」が48.0%、「フレックスタイムやテレワーク勤務などの柔軟な働き方」が46.2%と続いています。

一方で、「特に必要なことはない」は2.3%しか見られません。

【その他の記載内容】

「職場や上司の理解・教育」に似ているが、過剰な上下関係の改善／ある程度の収入も必要だと思います。／サービス残業やサービス出勤の撲滅、年休取得義務化・合法化／どのような条件なら仕事、私事を優先できるのか社会的合意／なるべく近くに両親がいること（祖父母）／ノルマの見直し／バランスをとることは不可能。何をやってもストレスはあり無駄だと思う。／ベーシック・インカム／家庭経済の充実／学童を高学年（6年生）まで入れる様にしてほしい／給与アップ（時給アップ）／給料の大幅UP／給料を上げる／金／金銭的欲求／経済的ゆとり／行政のタテワリがある以上、施策の横の連携が難しく、結果上記が有効的に改善されない。／今は元気でも先々が心配／最低賃金をもっとあげてほしい／時給を上げる（賃金）／自分自身の意識改革、改善／自分自身の力／社会の寛容性／趣味を増やすきっかけ作り／週休3日だとありがたい／所得の引上げ／所得の高さ／障害者への支援／職場の人員増／人が増えること／生活の安定化／生活の為働いているので、仕事優先で勤務先の都合に合わせないと。／相談相手（ご近所、行政、民生委員など）／地域コミュニティの形成／賃金アップ／賃金の上昇による長時間労働の削減／適正な賃金／保障の充実／本人の考え方、行動次第／有給休暇、お休み増えること／労働対価の上昇

図表 ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なこと（上位6項目・属性別）



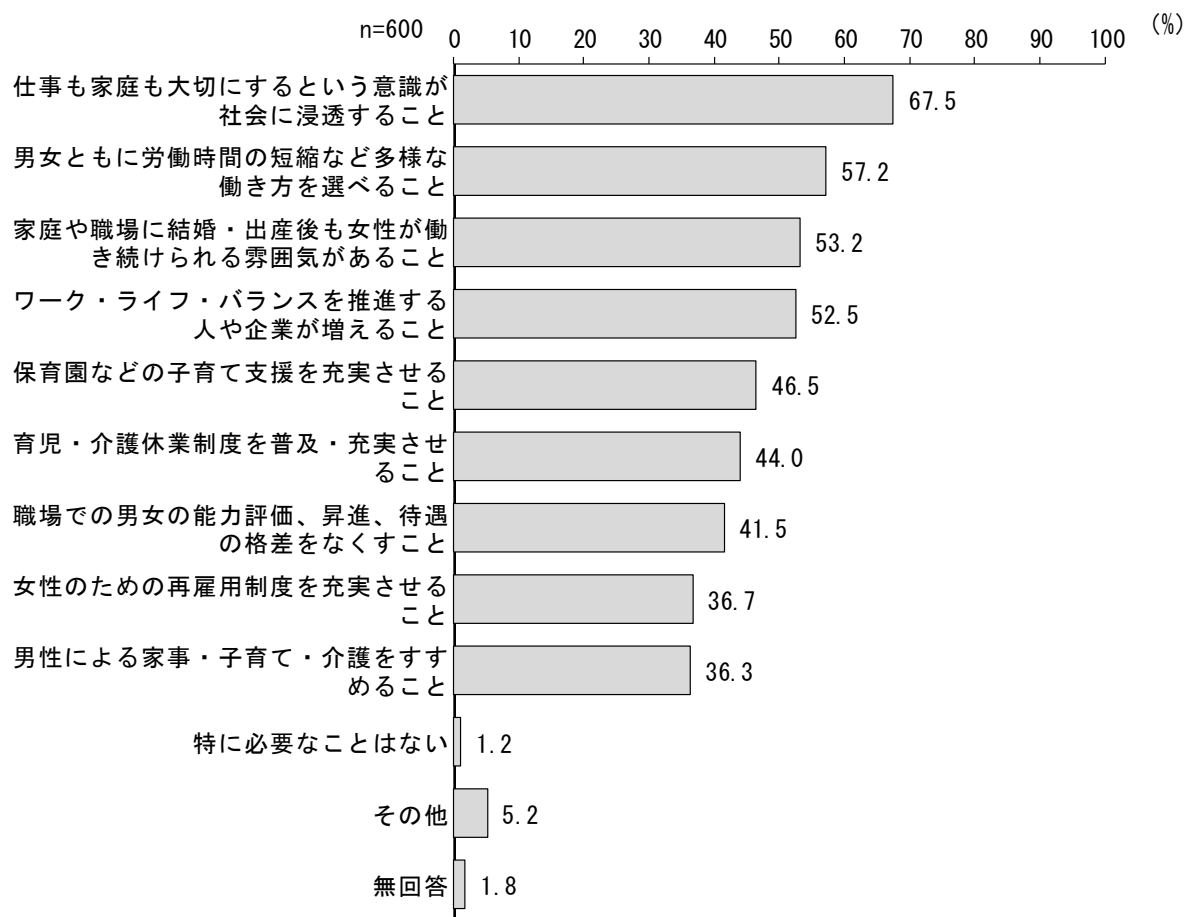
上位6項目を性別で見ると、「家族の理解・協力」は女性が61.5%と、男性（46.7%）を14.8ポイント上回っています。

年齢で見ると、「長時間労働の削減」と「有給休暇の取得促進」は19歳以下から20代が7割を超えて高くなっています。「仕事と育児・介護との両立支援」は30代（58.3%）のみが5割を超えて高くなっています。

(3) 働きやすい社会をつくるために必要なこと

問3 働きやすい社会をつくるために必要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 働きやすい社会をつくるために必要なこと



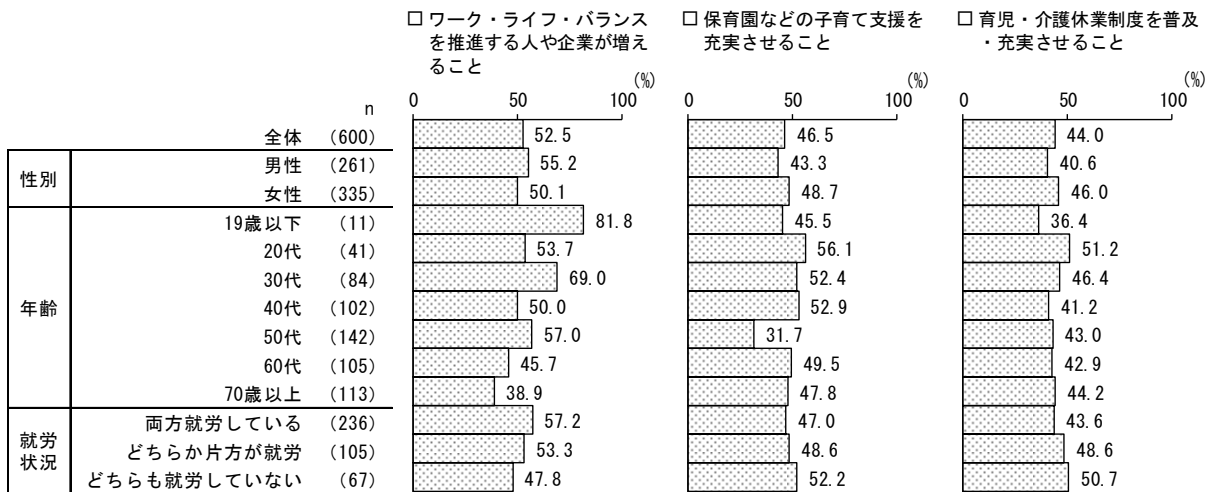
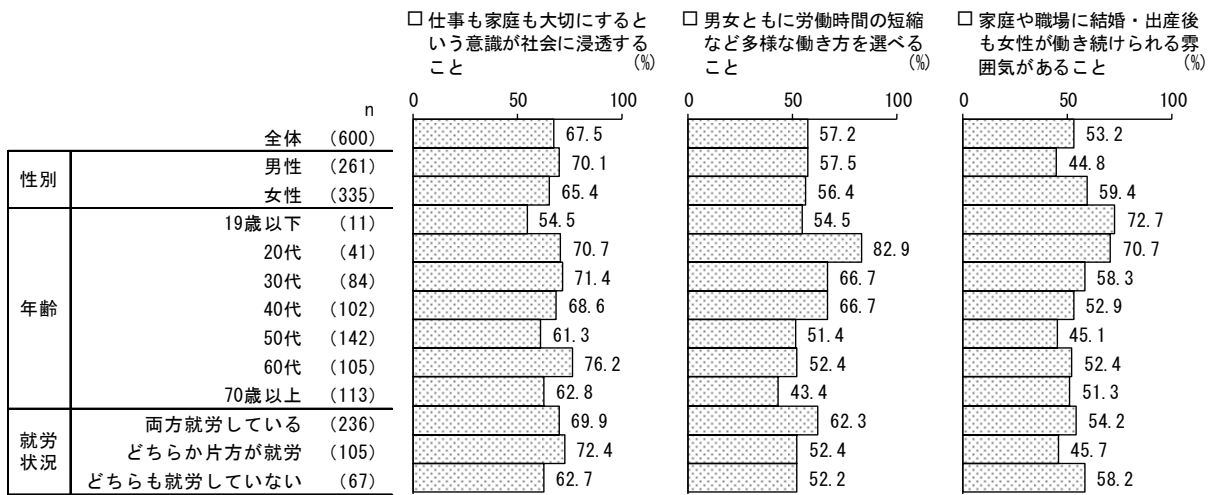
働きやすい社会をつくるために必要なことについて聞いたところ、「仕事も家庭も大切にするという意識が社会に浸透すること」が67.5%と最も高く、次いで「男女ともに労働時間の短縮など多様な働き方を選べること」が57.2%、「家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること」が53.2%、「ワーク・ライフ・バランスを推進する人や企業が増えること」が52.5%と5割を超えています。これに「保育園などの子育て支援を充実させること」が46.5%と続いています。

一方で、「特に必要なことはない」は1.2%しか見られません。

【その他の記載内容】

「女性のための再雇用制度を充実させること」で女性だけではなく、男性、高齢者を含む／・現在の育児休業が、実際の育児・出産、生活に見合っていないと思う部分があるので、そういった差異の解消。特に男性育休。・男性育休の充実。e x) 男性育休は事前に期間を申請をする場合が多いが、実際は出産予定日が早まるo r 超過してしまったり、また出産後の状況などによる不測の事態に対応しにくい。e x) 給料が2/3に減ってしまうことから、長期の育休がとりにくい。共働きの場合、生活スタイルも二人分の給料で計算している場合が多いので、長期の育休は生活が成り立たなくなる。核家族が進んでいる中、男性の育児参加は必須で男性が育児休業をとろうと思っても金銭的な面キャリアの面で育休がとりにくい。(生活面)／選択肢1～9ができるよう職場環境(人員含む)の整備／50歳前後の女性はそもそも良い会社に就職できない／どんな制度があるか支援があるか、知るきっかけづくりを企業や行政からして欲しい。／バランスはあると思いますが、全て必要なことだと思います。／パワハラ、セクハラなどのハラスメントをなくす／ベーシックインカム／まじめに働き、社会へ貢献している人への正当な評価／ワークシェアの導入／安定した収入源があること／休暇を取っても人員に余裕があるなど心配要素をなくす。／休暇を取ることが後ろめたくならないような職場づくり、意識づけ／給与の向上と休暇の取れる仕組み作りを／給料を上げる／金／経済の回復／個人個性の尊重、ハラスメント意識向上／最低賃金の引上げ／思いやり／若い世代には、未来への不安が多くあるから、一つずつ不安要素を無くしていくことが大切かと。／収入／職場環境／人が増えること／選択肢がそもそもアンコンシャスバイアスが大きい。／全体的な給料の大幅UP／男女問わず復職、再雇用時の技能支援／男性の意識改革。社内研修での啓蒙活動など。／男性も家事をする／働くことは辛いことの為、実現不可能だと思う。

図表 働きやすい社会をつくるために必要なこと（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること」は女性が59.4%と高くなっているものの、男性でも44.8%と4割を超えて高くなっています。

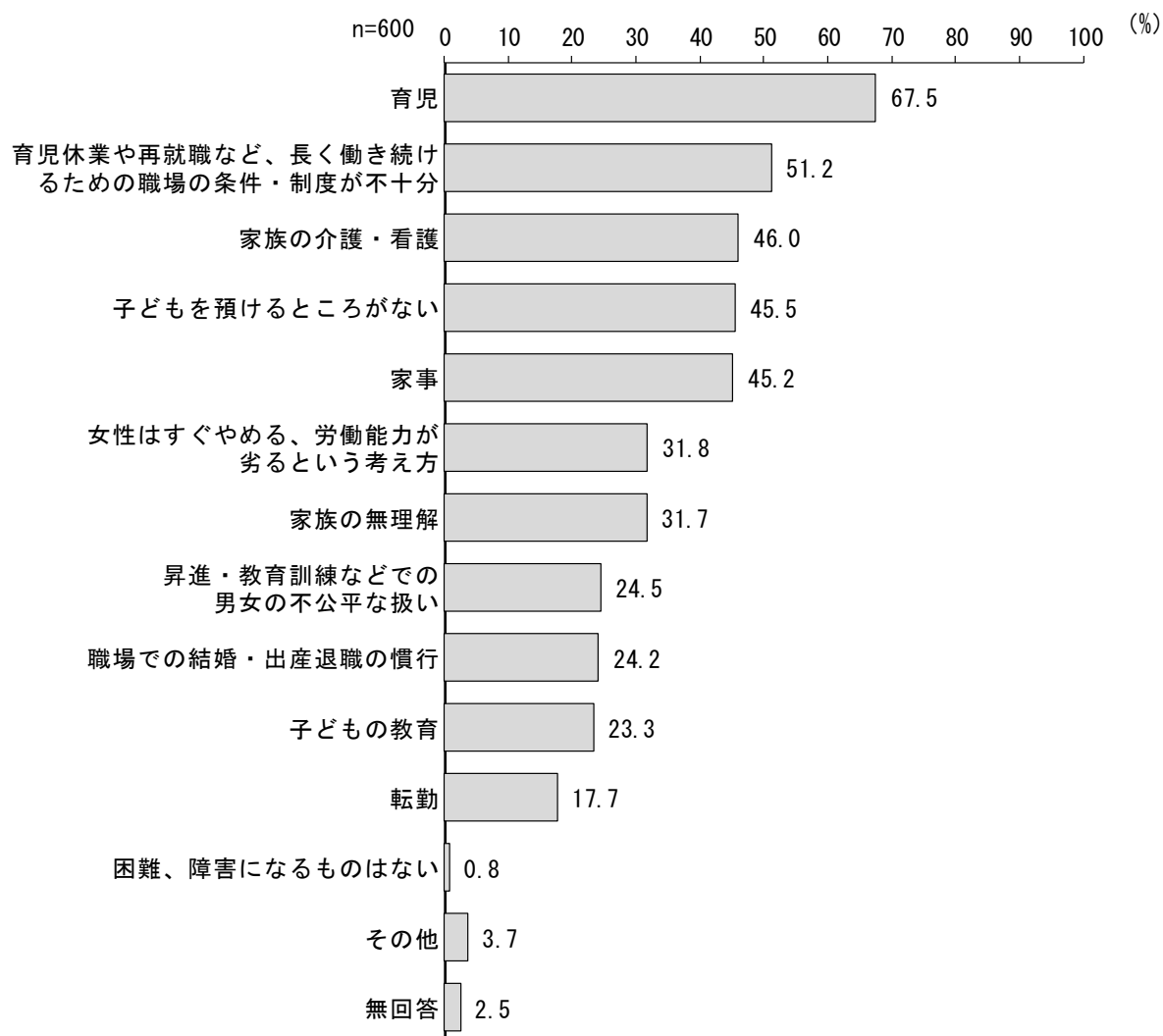
年齢で見ると、「男女ともに労働時間の短縮など多様な働き方を選べること」は20代が82.9%、「ワーク・ライフ・バランスを推進する人や企業が増えること」は19歳以下が81.8%と、それぞれ8割を超えて高くなっています。

就労状況で見ると、「家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること」はどちらも就労していないが58.2%と、どちらか片方が就労（45.7%）を12.5ポイント上回っています。

(4) 女性が働き続けることの障害になっている理由

問4 女性が長く働き続けることを困難に感じたり、障害になっている理由はどんなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 女性が働き続けることの障害になっている理由



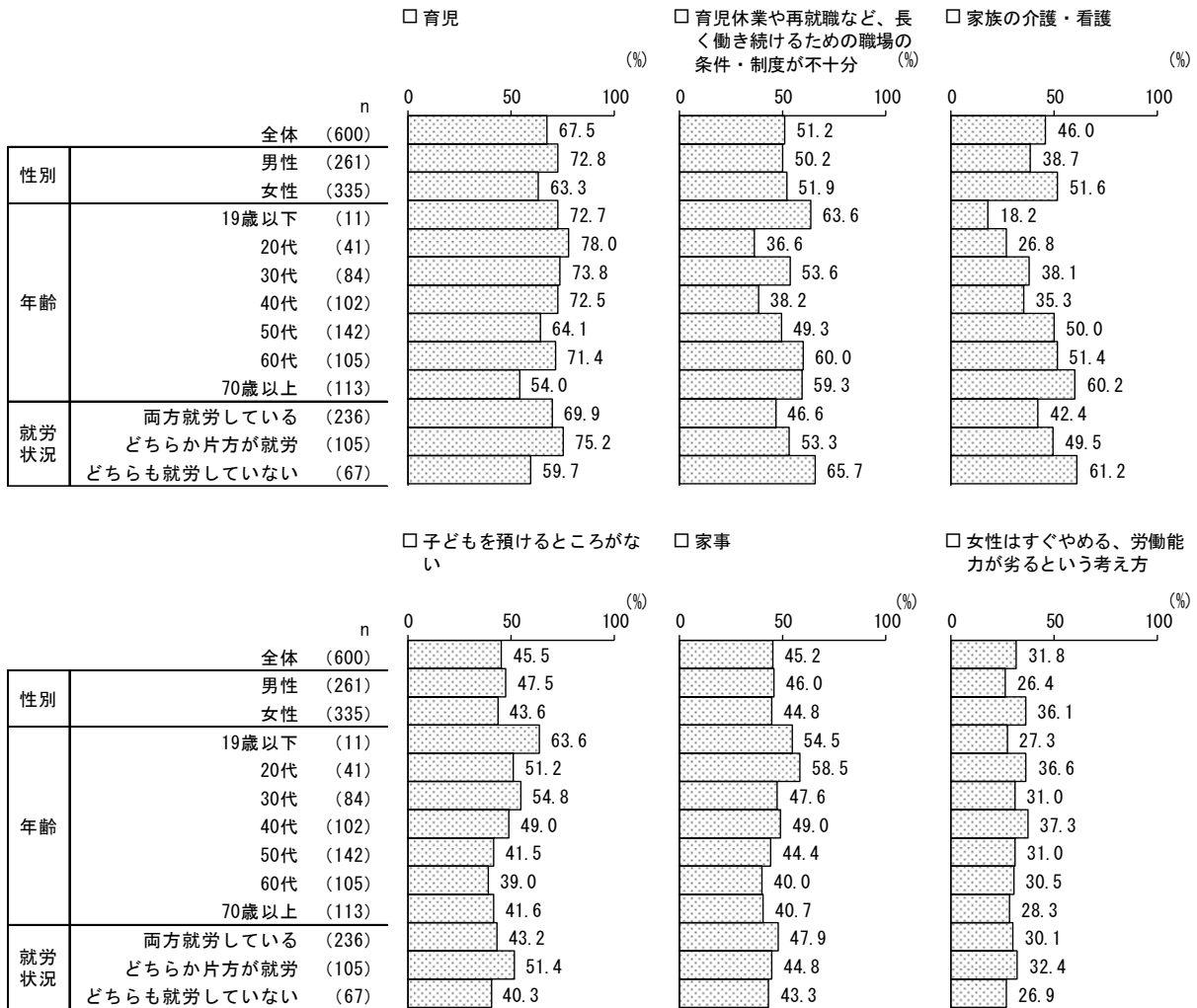
女性が働き続けることの障害になっている理由について聞いたところ、「育児」が67.5%と最も高く、次いで「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」が51.2%と5割を超えています。これに「家族の介護・看護」が46.0%、「子どもを預けるところがない」が45.5%、「家事」が45.2%と続いています。

一方で、「困難、障害になるものはない」は0.8%しか見られません。

【その他の記載内容】

一度仕事をやめると正規雇用で再び仕事に就く事が困難／家と職場との距離／金／仕事は言われたことをきちんとこなすものだという固定概念を持っている人が多いこと。仕事を通して、自分の思いを実現していこうとすれば、自然と長く幸せに働き続けることができそうな気がします。／子供の頃からの教育だと思う。子供は自分の家庭環境が普通だと思っているが、外で沢山の人を見たり話したりする事で、こういう人も居るんだと知り、教育でこうしてもいいんだと学習すると思う。／自身のやる気／社会の無理解／周囲が家事育児には母親が必要だと考え、それが行動に表われている事。例：保育園の保護者会で、保育士が「お母さま方、お集まりいただきありがとうございます…」と話し出した時。母親前提で育児の話が進んでいると感じた。そういう言葉が女性に育児への責任感を与えていると思う。／女性の意識（男性と同等に働くという）／女性は結婚、育児をするものという考えが女性にもあることで、ジレンマを感じたり、負い目を感じたりする。親の考え方、男子の育て方、女子の育て方、こうあるべきという固定的な伝承。／職場の人間関係、平等でない／正社員を1度退職し、出産後仕事をしたくても正社員になるハードルが高い／他人に迷惑がかかる。（人員など）／体力／体力、体調的な理解／体力の違い／男は仕事、女は家庭という昔からの風潮（特に会社）／男女の給料格差、病気等の際のサポート。／男性が育児休業を取りにくい／男性が両立支援制度を使いにくい&女性の仕事のやりがい／夫婦間で奥さんの方が収入が高い、昇進が上だと嫌がる旦那さんが多いと思う。

図表 女性が働き続けることの障害になっている理由（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「家族の介護・看護」は女性が51.6%と、男性（38.7%）を12.9ポイント上回っています。

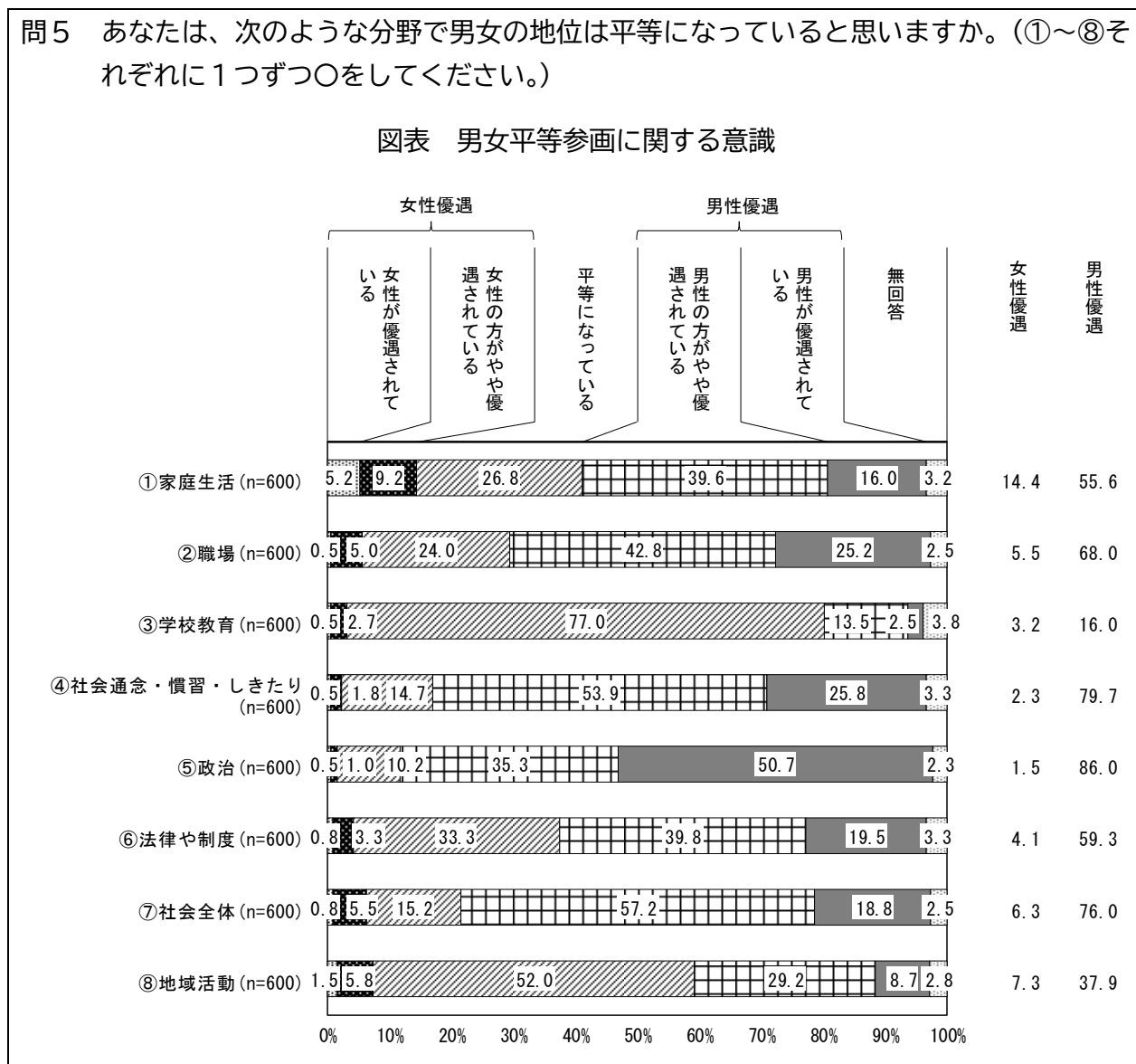
年齢で見ると、「家族の介護・看護」はおおむね年齢が上がると割合が上昇する傾向があり、70歳以上が60.2%と、19歳以下（18.2%）を42.0ポイント上回っています。

就労状況で見ると、「家族の介護・看護」はどちらも就労していないが61.2%と、両方就労している（42.4%）を18.8ポイント上回っています。

2. 男女平等参画に関する意識について

(1) 男女平等参画に関する意識

問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(①～⑧それぞれに1つつつ〇をしてください。)



男女平等参画に関する意識について聞いたところ、全ての項目で『男性優遇』が『女性優遇』を上回っています。

『男性優遇』は【⑤政治】が86.0%と最も高く、次いで【④社会通念・慣習・しきたり】が79.7%、【⑦社会全体】が76.0%と7割を超えています。一方で、【③学校教育】が16.0%、【⑧地域活動】が37.9%と低くなっています。

『女性優遇』は【①家庭生活】のみが14.4%と1割を超えています。

「平等になっている」は【③学校教育】のみが77.0%と7割を超えて高くなっています。

図表 男女平等参画に関する意識（男性優遇の割合・属性別）

(単位：%)

属性	男性優遇							
	① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育	④ 習・社会通念・慣 しきたり	⑤ 政治	⑥ 法律や制度	⑦ 社会全体	⑧ 地域活動
全体 (n=600)	55.6	68.0	16.0	79.7	86.0	59.3	76.0	37.9
性別								
男性 (n=261)	47.5	64.4	11.9	75.5	80.9	47.9	69.0	31.5
女性 (n=335)	61.7	70.7	19.4	83.0	90.1	68.0	81.5	42.6
年齢								
19歳以下 (n=11)	54.5	81.8	27.3	90.9	100.0	63.6	90.9	9.1
20代 (n=41)	29.3	56.1	9.7	70.7	90.2	39.0	65.9	12.2
30代 (n=84)	57.1	63.0	16.7	80.9	85.7	64.3	69.1	28.6
40代 (n=102)	52.0	75.4	13.7	77.4	85.2	57.8	77.5	34.3
50代 (n=142)	52.9	62.0	9.9	82.4	86.6	60.6	74.0	41.6
60代 (n=105)	72.4	71.3	22.9	85.6	90.4	63.8	86.6	44.8
70歳以上 (n=113)	54.9	71.7	20.3	73.4	78.8	56.7	74.4	48.7

図表 男女平等参画に関する意識（平等の割合・属性別）

(単位：%)

属性	平等							
	① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育	④ 習・社会通念・慣 しきたり	⑤ 政治	⑥ 法律や制度	⑦ 社会全体	⑧ 地域活動
全体 (n=600)	26.8	24.0	77.0	14.7	10.2	33.3	15.2	52.0
性別								
男性 (n=261)	33.3	26.4	83.5	19.5	16.1	46.0	20.7	60.4
女性 (n=335)	22.1	22.4	72.2	10.7	5.7	23.6	11.0	45.7
年齢								
19歳以下 (n=11)	9.1	18.2	72.7	0.0	0.0	27.3	0.0	63.6
20代 (n=41)	51.2	36.6	83.0	29.3	9.8	51.3	26.8	85.4
30代 (n=84)	27.4	31.0	80.9	15.5	9.5	25.0	19.0	57.1
40代 (n=102)	24.5	15.7	79.4	15.7	11.8	31.4	8.8	52.0
50代 (n=142)	31.7	29.6	84.5	14.1	10.6	33.8	17.6	50.7
60代 (n=105)	17.1	22.9	74.2	10.5	8.6	35.2	11.4	47.5
70歳以上 (n=113)	24.8	16.8	63.8	14.2	11.5	33.6	15.9	40.7

図表 男女平等参画に関する意識（女性優遇の割合・属性別）

(単位：%)

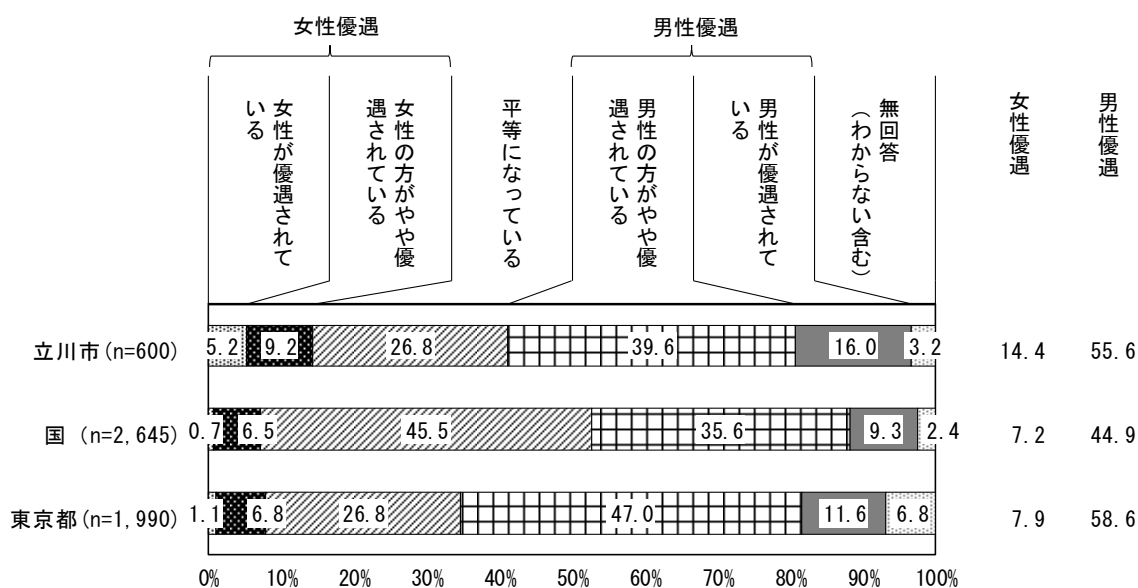
属性	女性優遇							
	① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育	④ 社会通念・慣習・しきたり	⑤ 政治	⑥ 法律や制度	⑦ 社会全体	⑧ 地域活動
全体 (n=600)	14.4	5.5	3.2	2.3	1.5	4.1	6.3	7.3
性別	男性 (n=261)	18.4	9.2	3.5	4.2	2.2	5.7	7.7
	女性 (n=335)	11.4	2.7	2.7	0.9	0.9	3.0	7.2
年齢	19歳以下 (n=11)	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	27.3
	20代 (n=41)	17.1	7.3	4.9	0.0	0.0	4.8	2.4
	30代 (n=84)	15.5	4.8	1.2	2.4	4.8	9.5	14.3
	40代 (n=102)	22.5	7.9	5.9	5.9	2.0	8.8	12.7
	50代 (n=142)	12.6	6.3	2.1	0.7	0.7	3.5	4.2
	60代 (n=105)	8.6	4.8	1.0	2.0	1.0	0.0	6.7
	70歳以上 (n=113)	11.5	3.5	4.4	1.8	0.9	0.0	1.8

『男性優遇』を性別で見ると、【⑥法律や制度】は女性が68.0%と、男性（47.9%）を20.1ポイント上回っています。年齢で見ると、【⑧地域活動】は年齢が上がると割合が上昇する傾向があり、70歳以上が48.7%と、19歳以下（9.1%）を39.6ポイント上回っています。

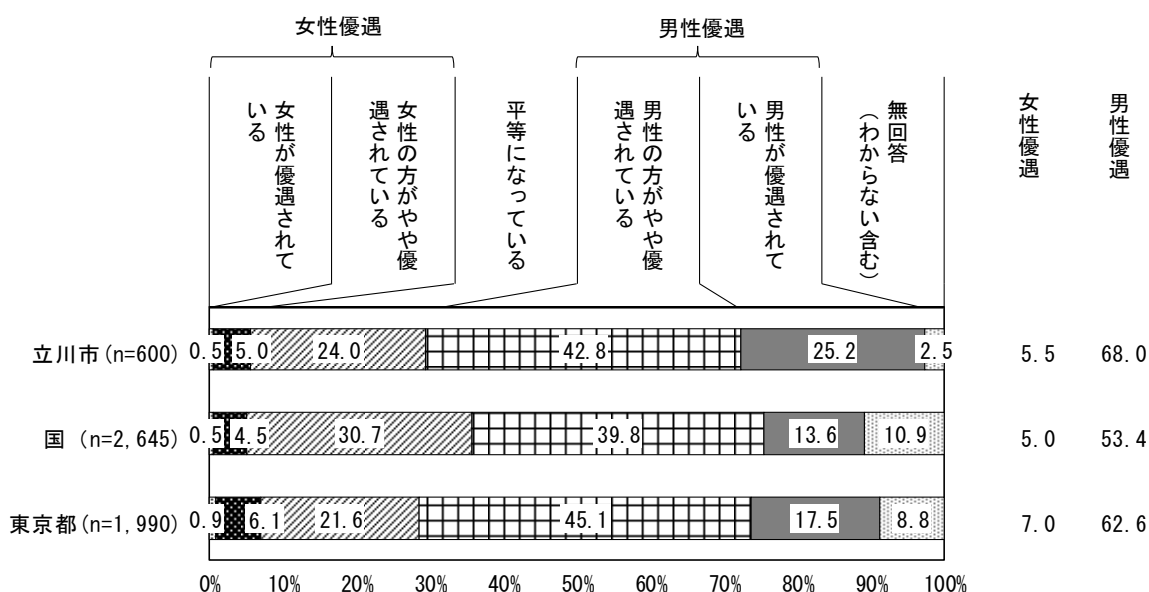
『平等』を性別で見ると、【⑥法律や制度】は男性が46.0%と、女性（23.6%）を22.4ポイント上回っています。年齢で見ると、【③学校教育】は20代（83.0%）と30代（80.9%）と50代（84.5%）が8割を超えて高くなっています。20代で【①家庭生活】（51.2%）、【②職場】（36.6%）、【④社会通念・慣習・しきたり】（29.3%）、【⑥法律や制度】（51.3%）、【⑦社会全体】（26.8%）、【⑧地域活動】（85.4%）の6項目が高くなっています。

『女性優遇』を性別で見ると、【①家庭生活】は男性が18.4%と、女性（11.4%）を7.0ポイント上回っています。年齢で見ると、【①家庭生活】は19歳以下（27.3%）と40代（22.5%）、【⑧地域活動】は19歳以下（27.3%）が2割を超えて高くなっています。

図表 【①家庭生活】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



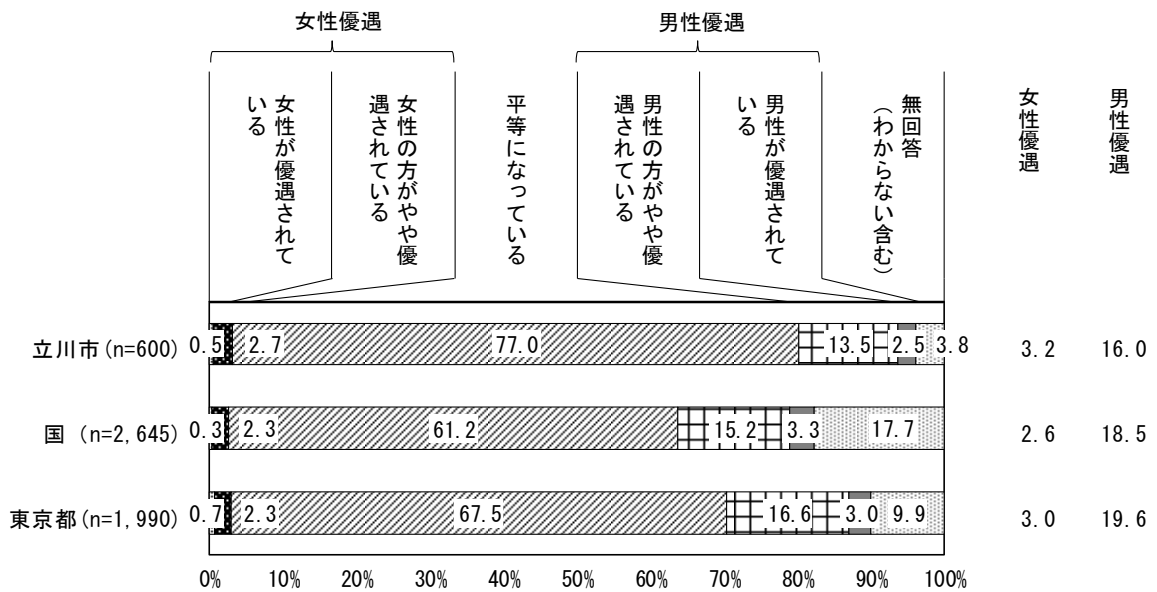
図表 【②職場】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



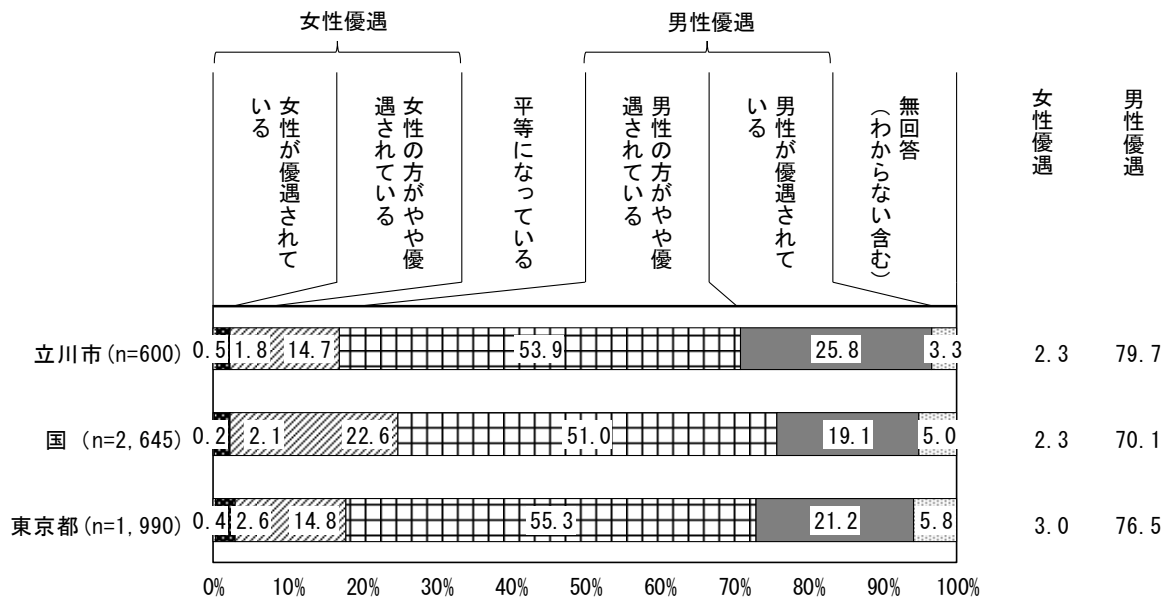
※国は令和元年の「男女共同参画社会に関する世論調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

男女平等参画に関する意識について【①家庭生活】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて『女性優遇』が14.4%と1割を超えて高くなっています。「平等になっている」は国(45.5%)のみが4割を超えて高くなっています。【②職場】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて『男性優遇』が68.0%と最も高くなっています。

図表 【③学校教育】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



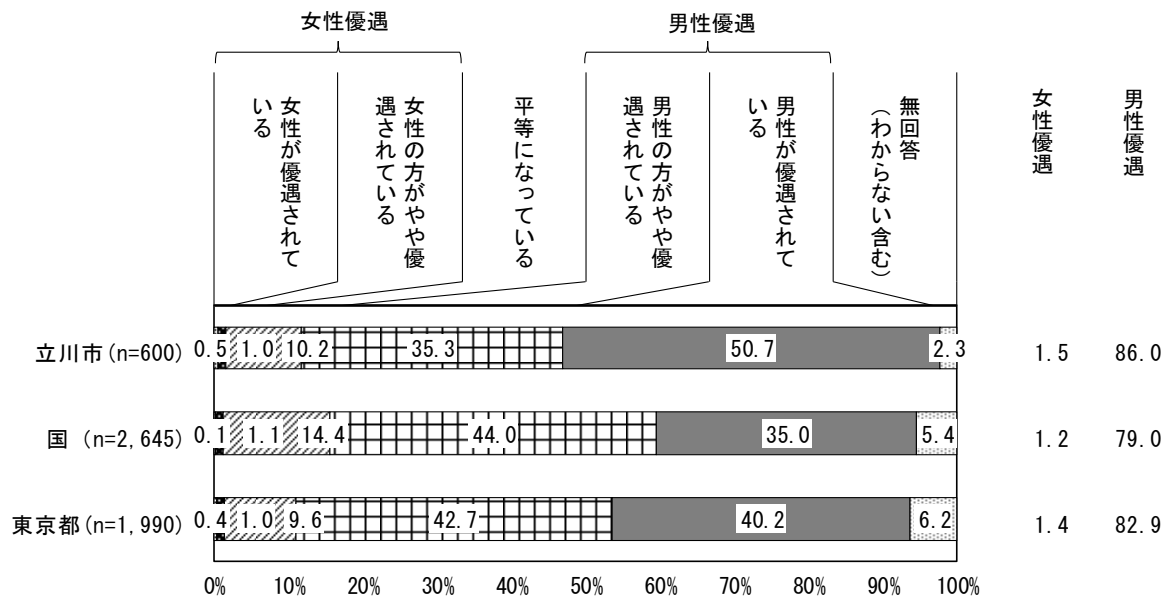
図表 【④社会通念・慣習・しきたり】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



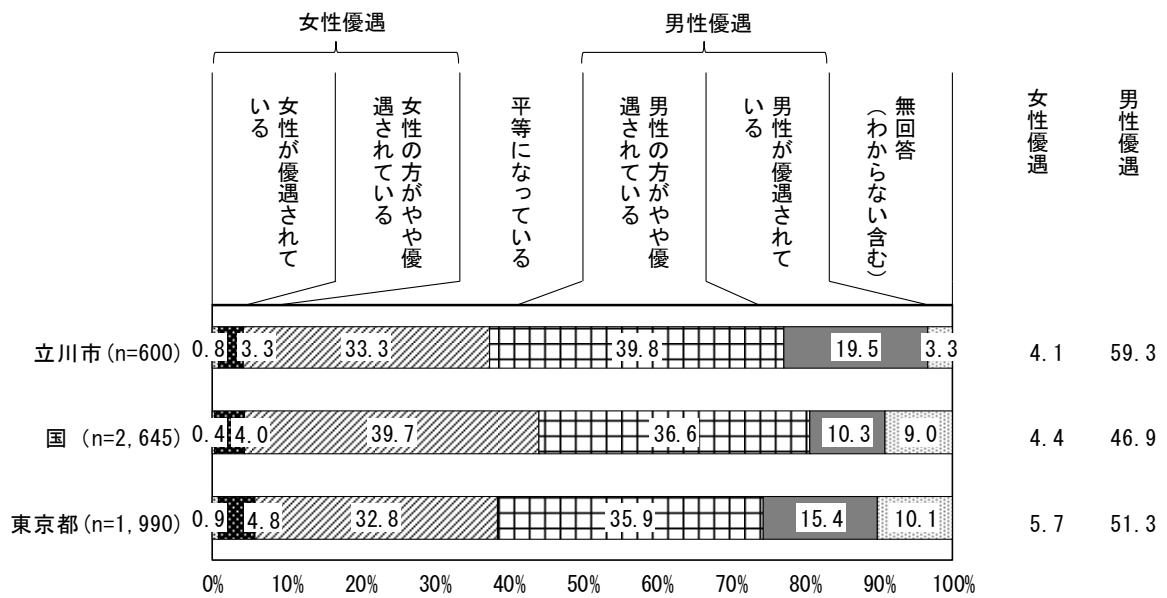
※国は令和元年の「男女共同参画社会に関する世論調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

男女平等参画に関する意識について【③学校教育】を地域別に見ると、「平等になっている」は立川市（77.0%）のみが7割を超えて高くなっています。【④社会通念・慣習・しきたり】を地域別に見ると、「平等になっている」は立川市が14.7%と最も低くなっています。

図表 【⑤政治】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



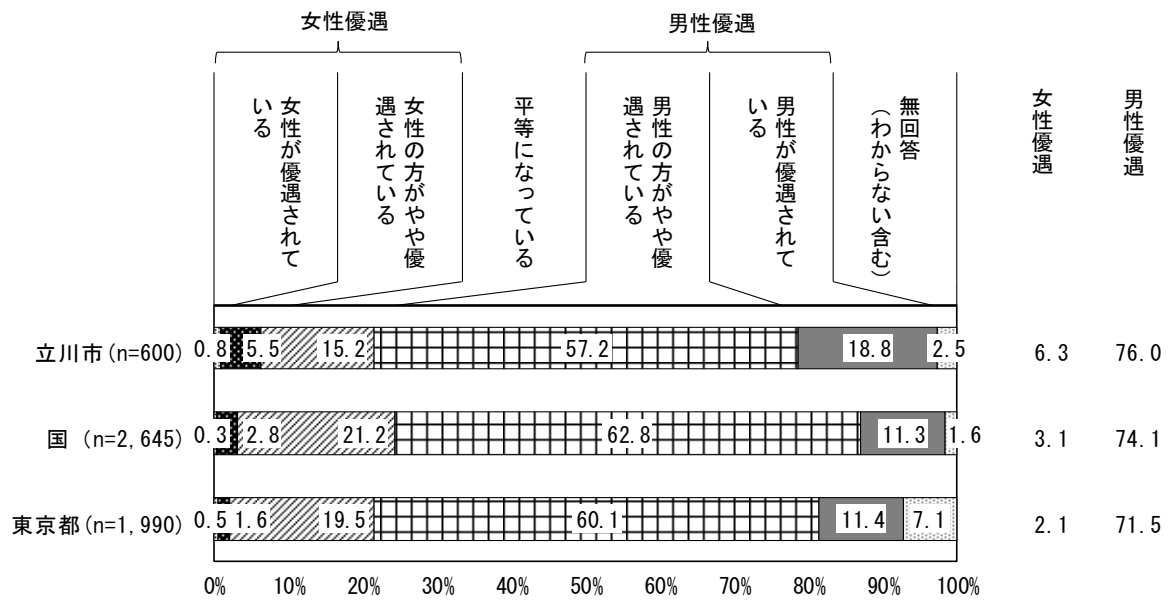
図表 【⑥法律や制度】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



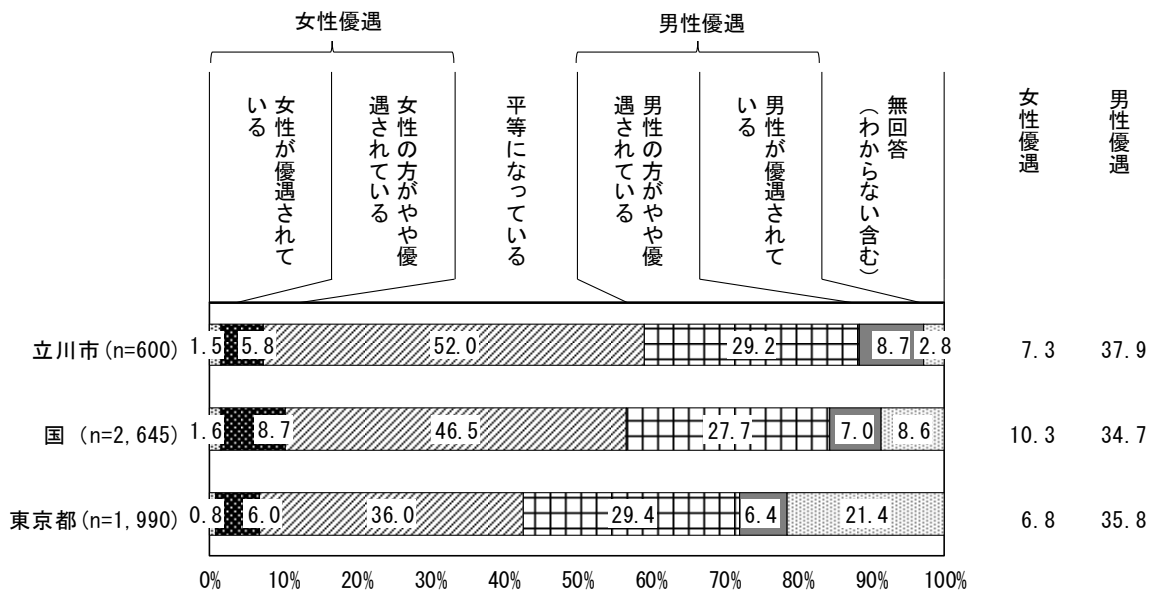
※国は令和元年の「男女共同参画社会に関する世論調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

男女平等参画に関する意識について【⑤政治】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて『男性優遇』が86.0%と最も高くなっています。【⑥法律や制度】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて『男性優遇』が59.3%と最も高くなっています。

図表 【⑦社会全体】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



図表 【⑧地域活動】男女平等参画に関する意識（地域別比較）



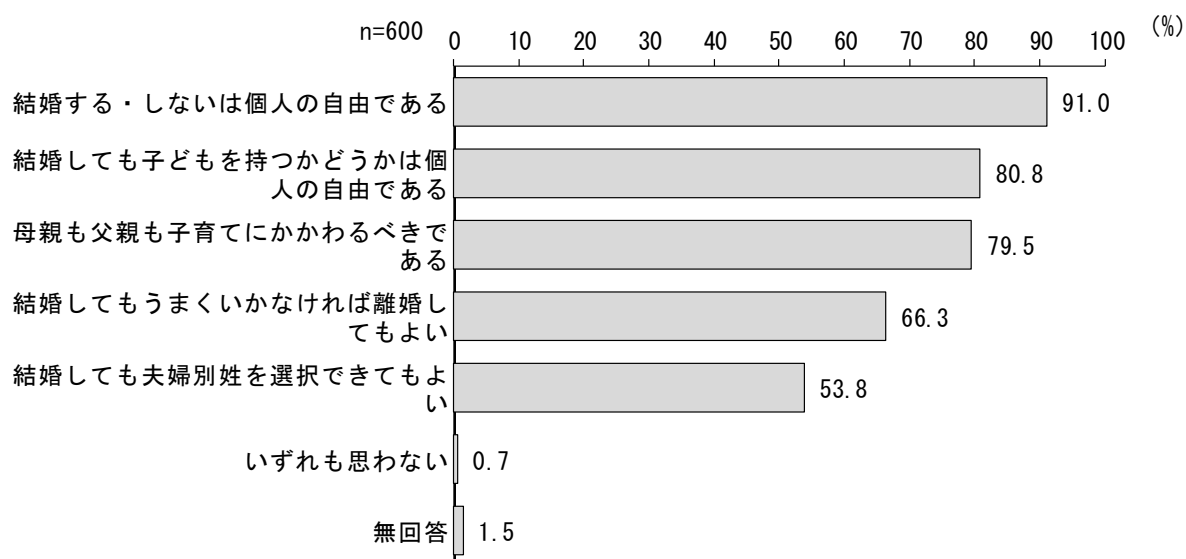
※国は令和元年の「男女共同参画社会に関する世論調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

男女平等参画に関する意識について【⑦社会全体】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて「平等になっている」が15.2%と低くなっています。【⑧地域活動】を地域別に見ると、「平等になっている」は立川市（52.0%）のみが5割を超えて高くなっています。

(2) 結婚、家庭、離婚などの考え方

問6 結婚、家庭、離婚などの考え方は様々ですが、あなたはどのように思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

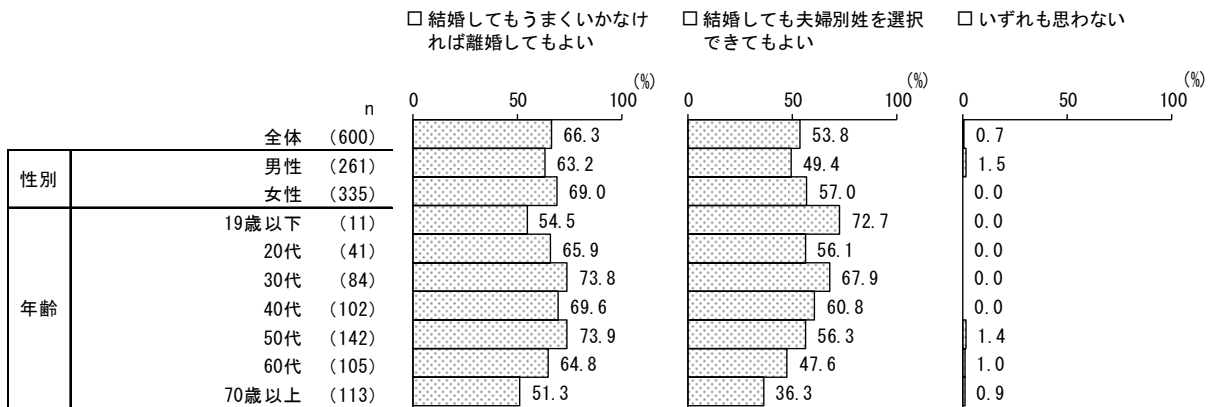
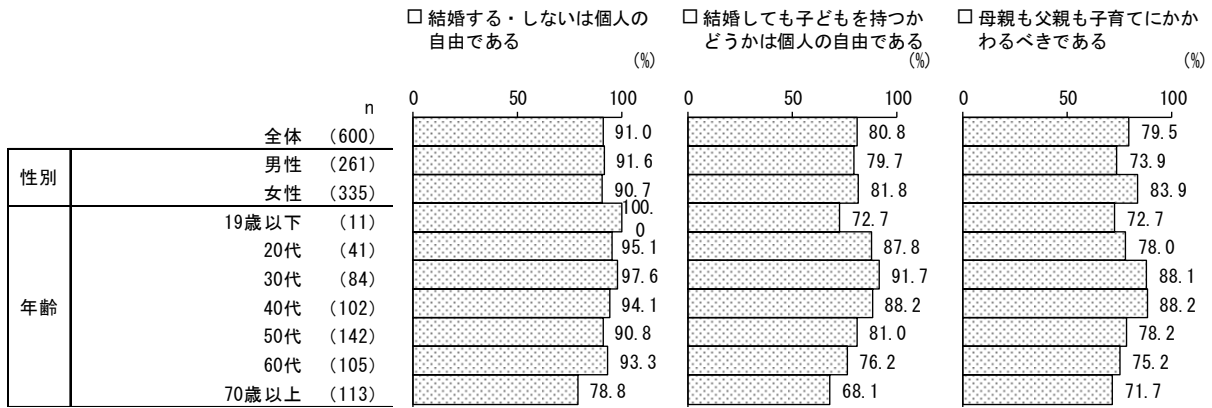
図表 結婚、家庭、離婚などの考え方



結婚、家庭、離婚などの考え方について聞いたところ、「結婚する・しないは個人の自由である」が91.0%と最も高く、次いで「結婚しても子どもを持つかどうかは個人の自由である」が80.8%、「母親も父親も子育てにかかわるべきである」が79.5%、「結婚してもうまくいかなければ離婚してもよい」が66.3%、「結婚しても夫婦別姓を選択できてよい」が53.8%と5割を超えています。

一方で、「いずれも思わない」は0.7%しか見られません。

図表 結婚、家庭、離婚などの考え方（属性別）



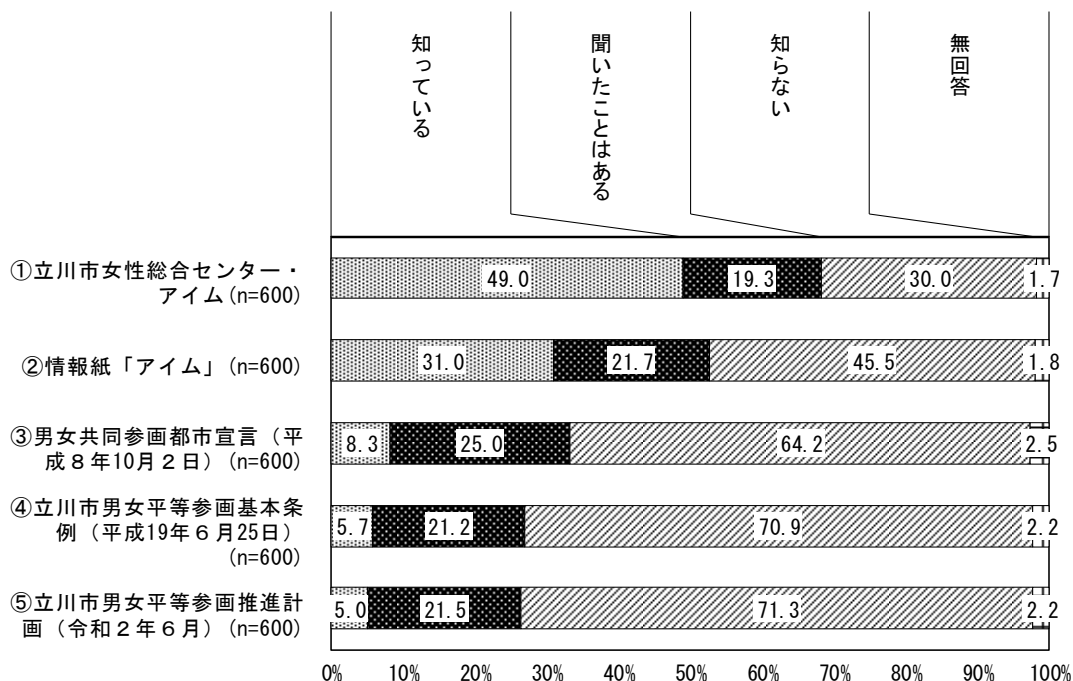
性別で見ると、「母親も父親も子育てにかかわるべきである」は女性が 83.9%と高くなっているものの、男性でも 73.9%と7割を超えて高くなっています。

年齢で見ると、「結婚しても夫婦別姓を選択できてよい」は50代以下の全ての年齢で5割を超えています。特に、19歳以下（72.7%）のみが7割を超えて高くなっています。

(3) 立川市の男女平等参画に関することがらの認知度

問7 立川市の男女平等参画に関する次のことがらやことばを知っていますか。(①～⑤それぞれに1つずつ○をしてください。)

図表 立川市の男女平等参画に関することがらの認知度



立川市の男女平等参画に関することがらの認知度について聞いたところ、「知っている」は【①立川市女性総合センター・アイム】が49.0%と最も高く、次いで【②情報紙「アイム」】が31.0%、【③男女共同参画都市宣言 (平成8年10月2日)】が8.3%と続いています。

一方で、【③男女共同参画都市宣言 (平成8年10月2日)】と【④立川市男女平等参画基本条例 (平成19年6月25日)】と【⑤立川市男女平等参画推進計画 (令和2年6月)】は「知っている」が1割未満とわずかしか見られません。

【①立川市女性総合センター・アイム】のみ「知っている」(49.0%)が「知らない」(30.0%)を上回っています。

【参考：用語の解説】

立川市女性総合センター・アイム	男女平等参画社会を推進するための活動の拠点として設置された。男女平等参画を推進するための学習の機会や場を提供しているほか、情報収集や交流、相談などに利用できる。
情報誌「アイム」	男女平等参画を推進するさまざまな情報を掲載した情報紙「アイム」を年1回発行している。
男女共同参画都市宣言	平成8年10月に東京都で初めて男女共生社会の実現を目指し宣言された。
立川市男女平等参画基本条例	男女の人権が尊重され、男女が社会のあらゆる分野における活動に対等な立場で共に参画し、責任を担う社会の実現をめざして平成19年6月に「立川市男女平等参画基本条例」が制定された。
立川市男女平等参画推進計画	男女が、性別にかかわらず個人として尊重され、一人ひとりにその個性と能力を発揮する機会が確保されることにより、対等な立場で社会のあらゆる分野における活動に共に参画し責任を負う、男女平等参画のために必要な施策を、総合的に推進していくことを目的として策定されている。

図表 立川市の男女平等参画に関することからの認知度（知らないの割合・属性別）

(単位：%)

属性	知らない					
	①立川市・女性総合センター「AIM」	②情報紙「AIM」	③男女共同参画都市宣言（平成8年10月2日）	④立川市男女平等参画基本条例（平成19年6月25日）	⑤立川市男女平等参画推進計画（令和2年6月）	
全体 (n=600)	30.0	45.5	64.2	70.9	71.3	
性別	男性 (n=261)	38.3	56.7	66.2	72.0	72.4
	女性 (n=335)	23.9	37.3	62.3	70.1	70.4
年齢	19歳以下 (n=11)	63.6	72.7	72.7	81.8	90.9
	20代 (n=41)	58.5	75.6	75.6	80.5	87.8
	30代 (n=84)	48.8	61.9	76.2	78.5	75.0
	40代 (n=102)	32.4	52.9	71.5	82.4	83.3
	50代 (n=142)	19.7	33.8	66.2	71.9	71.2
	60代 (n=105)	28.6	42.9	57.1	66.7	65.7
	70歳以上 (n=113)	15.0	31.0	46.8	53.1	54.8

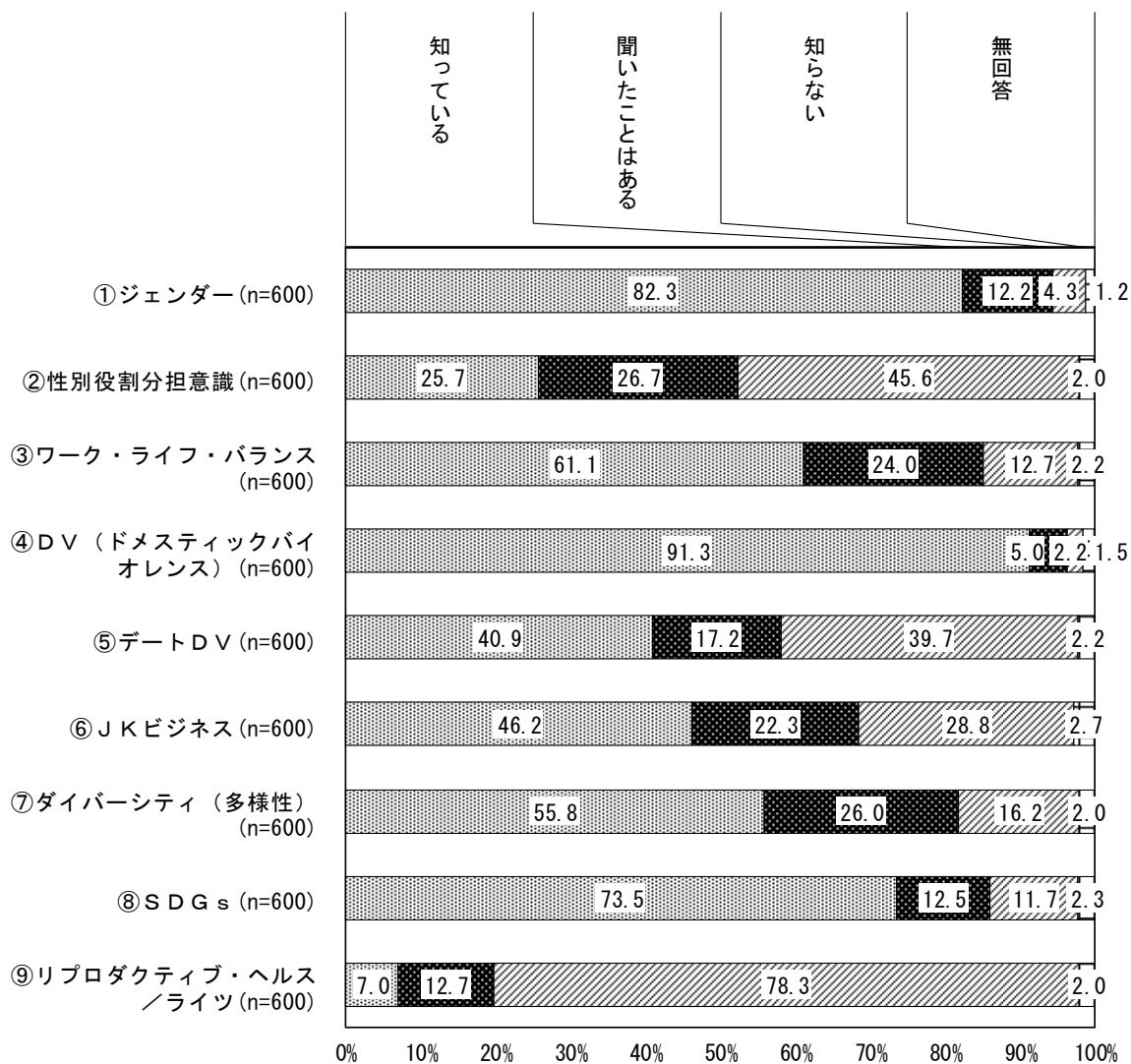
「知らない」の割合を性別で見ると、いずれの項目も男性が女性を上回っています。特に高い項目として、【②情報紙「AIM」】は男性が56.7%と、女性（37.3%）を19.4ポイント上回っています。

年齢で見ると、いずれの項目も40代以下は「知らない」が高い傾向にあります。それぞれ最も割合が高いのは、【①立川市女性総合センター・AIM】は19歳以下が63.6%、【②情報紙「AIM」】は20代が75.6%、【③男女共同参画都市宣言（平成8年10月2日）】は30代が76.2%、【④立川市男女平等参画基本条例（平成19年6月25日）】は40代が82.4%、【⑤立川市男女平等参画推進計画（令和2年6月）】は19歳以下が90.9%となっています。

(4) 男女平等参画に関することばの認知度

問8 男女平等参画に関する次のことばを知っていますか。(①～⑨それぞれに1つずつ○をしてください。)

図表 男女平等参画に関することばの認知度



男女平等参画に関することばの認知度について聞いたところ、「知っている」は【④DV (ドメスティックバイオレンス)】が91.3%と最も高く、次いで【①ジェンダー】が82.3%、【⑧SDGs】が73.5%、【③ワーク・ライフ・バランス】が61.1%、【⑦ダイバーシティ (多様性)】が55.8%と続いています。

一方で、【⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】は「知っている」(7.0%)が1割未満とわずかしき見られません。

【②性別役割分担意識】と【⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】は「知っている」が「知らない」を下回っています。

【参考：用語の解説】

ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれついで生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。
性別役割分担意識	性別役割分担意識とは、男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにも関わらず、「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、男性、女性という性別を理由として役割を分ける考え方のことである。
ワーク・ライフ・バランス	「仕事と生活の調和」のこと。仕事や仕事以外の生活のバランスをとり、その両方を充実させる働き方や生き方を指す。
DV（ドメスティックバイオレンス）	配偶者など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力という意味で使用される。
デートDV	交際相手から行われる暴力行為のことをいい、身体的な暴力の他、大声でどなることや、ほかの人とのメールをチェックすることなどの精神的な暴力も含まれる。
JKビジネス	JK（女子高校生）であることを売りにしている客商売、少女と密に接することができる点を付加価値としているサービスを指す。
ダイバーシティ（多様性）	性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
SDGs	平成27年9月に国連で採択された、令和12年までの国際目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むため、先進国を含む国際社会全体の目標として、包括的な17の目標（Sustainable Development Goals：SDGs）を設定した。
リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）とは、平成6年の国際人口開発会議の「行動計画」及び平成7年の第4回世界女性会議の「北京宣言及び行動綱領」において、「人間の生殖システム、その機能と（活動）過程の全ての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指す」とされている。 また、リプロダクティブ・ライツ（性と生殖に関する権利）は、「全てのカップルと個人が自分たちの子どもの数、出産間隔、並びに出産する時を責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利、並びに最高水準の性に関する健康及びリプロダクティブ・ヘルスを獲得する権利」とされている。

図表 男女平等参画に関することばの認知度（知らないの割合・属性別）

（単位：％）

属性	知らない								
	①ジェンダー	②性別役割分担意識	③ワーク・ライフ・バランス	④DV（ドメスティックバイオレンス）	⑤デートDV	⑥JKビジネス	⑦ダイバーシティ（多様性）	⑧SDGs	⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
全体 (n=600)	4.3	45.6	12.7	2.2	39.7	28.8	16.2	11.7	78.3
性別									
男性 (n=261)	4.2	48.3	11.1	2.3	43.7	28.0	13.4	10.7	77.4
女性 (n=335)	4.5	43.8	13.7	1.8	36.7	29.9	18.5	12.5	79.1
年齢									
19歳以下 (n=11)	9.1	54.5	18.2	9.1	27.3	45.4	18.2	9.1	72.7
20代 (n=41)	0.0	51.2	9.8	0.0	19.5	36.6	14.6	4.9	82.9
30代 (n=84)	0.0	40.4	3.6	0.0	33.3	23.8	8.3	1.2	75.0
40代 (n=102)	1.0	49.0	9.8	0.0	39.2	14.7	5.9	3.9	80.4
50代 (n=142)	2.8	55.6	16.2	1.4	37.3	26.8	17.6	12.0	81.0
60代 (n=105)	4.8	41.9	10.5	1.0	45.7	29.5	19.0	11.4	77.1
70歳以上 (n=113)	13.3	35.5	20.4	8.0	51.3	43.4	27.4	29.2	75.2

「知らない」の割合を性別で見ると、【⑤デートDV】は男性が43.7%と、女性（36.7%）を7.0ポイント上回っています。

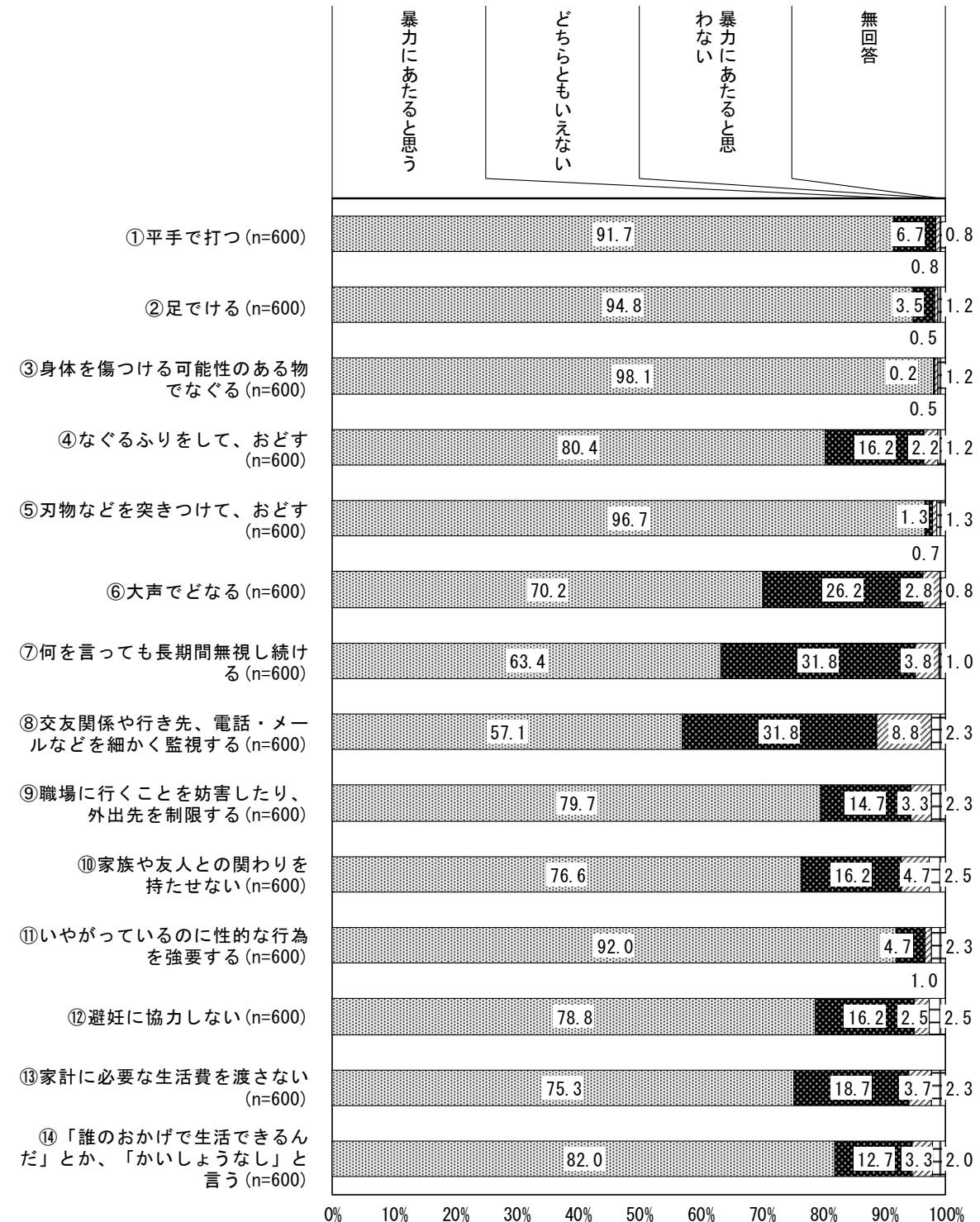
年齢で見ると、【⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】はいずれの年齢も7割を超えており、20代（82.9%）と40代（80.4%）と50代（81.0%）が8割以上と高くなっています。

3. 夫婦間での行為における暴力としての認識について

(1) 夫婦間での行為における暴力としての認識

問9 あなたは、①～⑭のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(①～⑭それぞれに1つずつ○をしてください。) ※「夫婦」には、事実婚(婚姻届を出していない婚姻関係)や別居中の夫婦も含まれます。

図表 夫婦間での行為における暴力としての認識



夫婦間での行為における暴力としての認識について聞いたところ、「暴力にあたると思う」は【③身体を傷つける可能性のある物でなぐる】が98.1%と最も高く、次いで【⑤刃物などを突きつけて、おどす】が96.7%、【②足でける】が94.8%、【⑩いやがっているのに性的な行為を強要する】が92.0%、【①平手で打つ】が91.7%と続いています。

一方で、【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】は「暴力にあたると思う」(57.1%)が5割台、【⑦何を言っても長期間無視し続ける】(63.4%)が6割台と低くなっています。

いずれの項目も「暴力にあたると思う」が「暴力にあたると思わない」を上回っています。

図表 【暴力にあたると思うの割合】夫婦間での行為における暴力としての認識
(属性別・1/2)

(単位：%)

属性	暴力にあたると思う							
	① 平手で打つ	② 足でける	③ 性のある物を傷つ ける可能	④ おどなぐるふりを して、	⑤ て、刃物などを突 きつけ	⑥ 大声でどなる	⑦ 無視し続けるも長 期間	
全体 (n=600)	91.7	94.8	98.1	80.4	96.7	70.2	63.4	
性別	男性 (n=261)	92.7	97.7	99.2	78.6	98.4	60.5	54.4
	女性 (n=335)	91.0	92.8	97.6	82.4	95.5	77.9	70.4
年齢	19歳以下 (n=11)	81.8	90.9	90.9	81.8	90.9	72.7	63.6
	20代 (n=41)	95.2	92.7	97.6	68.3	95.1	65.8	53.7
	30代 (n=84)	94.0	96.4	100.0	89.3	100.0	70.2	72.6
	40代 (n=102)	94.1	99.0	100.0	92.2	100.0	71.6	62.8
	50代 (n=142)	91.6	95.8	99.3	85.9	97.2	77.5	66.9
	60代 (n=105)	94.2	93.3	99.0	75.1	97.1	68.5	64.7
	70歳以上 (n=113)	84.9	91.2	93.8	66.4	91.1	62.8	54.0

図表 【暴力にあたると思うの割合】夫婦間での行為における暴力としての認識
(属性別・2/2)

(単位：%)

属性	暴力にあたると思う						
	⑧ 視話・交友関係など を細かく電監	⑨ た職業場外に行く ことを妨害する	⑩ 持たせ家族や友人 との関わりを	⑪ な行いやが強い 強要するの性的	⑫ 避妊に協力しない	⑬ さない家計に必要な 生活費を渡	⑭ うる「誰のおかげ で生活でき ない」と言う
全体 (n=600)	57.1	79.7	76.6	92.0	78.8	75.3	82.0
性別	男性 (n=261)	49.8	77.1	72.5	92.4	75.5	76.7
	女性 (n=335)	62.9	81.8	80.0	91.9	81.5	86.2
年齢	19歳以下 (n=11)	45.4	81.8	90.9	100.0	100.0	90.9
	20代 (n=41)	41.4	70.8	65.9	100.0	85.3	65.8
	30代 (n=84)	61.9	88.1	84.5	97.6	92.8	81.0
	40代 (n=102)	56.9	78.4	75.4	92.1	86.2	77.4
	50代 (n=142)	59.2	82.4	85.2	95.8	82.4	82.4
	60代 (n=105)	62.9	81.0	74.3	89.5	68.5	73.2
	70歳以上 (n=113)	52.3	72.7	65.6	81.5	62.0	66.4

図表 【暴力にあたると思わないの割合】夫婦間での行為における暴力としての認識
(属性別・1/2)

(単位：%)

属性	暴力にあたると思わない						
	① 平手で打つ	② 足でける	③ 性のある物を傷つける可能	④ おどす	⑤ 刃物などをおどす	⑥ 大声でどなる	⑦ 無視し続ける
全体 (n=600)	0.8	0.5	0.5	2.2	0.7	2.8	3.8
性別							
男性 (n=261)	0.4	0.4	0.4	1.5	0.4	3.1	3.8
女性 (n=335)	0.9	0.6	0.6	2.7	0.9	2.7	3.6
年齢							
19歳以下 (n=11)	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0
20代 (n=41)	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0	9.8	12.2
30代 (n=84)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	4.8
40代 (n=102)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9
50代 (n=142)	0.7	0.0	0.0	2.1	0.0	0.7	3.5
60代 (n=105)	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	2.9
70歳以上 (n=113)	2.7	1.8	1.8	4.4	2.7	4.4	2.7

図表 【暴力にあたると思わないの割合】夫婦間での行為における暴力としての認識
(属性別・2/2)

(単位：%)

属性	暴力にあたると思わない						
	⑧ 視話する・交友関係などを細かく電監	⑨ 職場・外出行先を制限する	⑩ 持たせない	⑪ 家族や友人との関わりを	⑫ ない行為を強要する	⑬ 避妊に協力しない	⑭ 「誰のおかげで生活できるんだ」と言う
全体 (n=600)	8.8	3.3	4.7	1.0	2.5	3.7	3.3
性別							
男性 (n=261)	11.9	3.4	4.2	1.1	1.9	3.1	4.6
女性 (n=335)	6.6	3.3	5.1	0.9	3.0	4.2	2.4
年齢							
19歳以下 (n=11)	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=41)	22.0	14.6	14.6	0.0	4.9	12.2	4.9
30代 (n=84)	7.1	1.2	2.4	0.0	1.2	7.1	3.6
40代 (n=102)	8.8	4.9	5.9	0.0	1.0	2.0	4.9
50代 (n=142)	7.7	2.8	2.8	0.0	1.4	0.7	0.7
60代 (n=105)	5.7	0.0	4.8	1.9	2.9	2.9	2.9
70歳以上 (n=113)	8.8	3.5	4.4	3.5	5.3	4.4	5.3

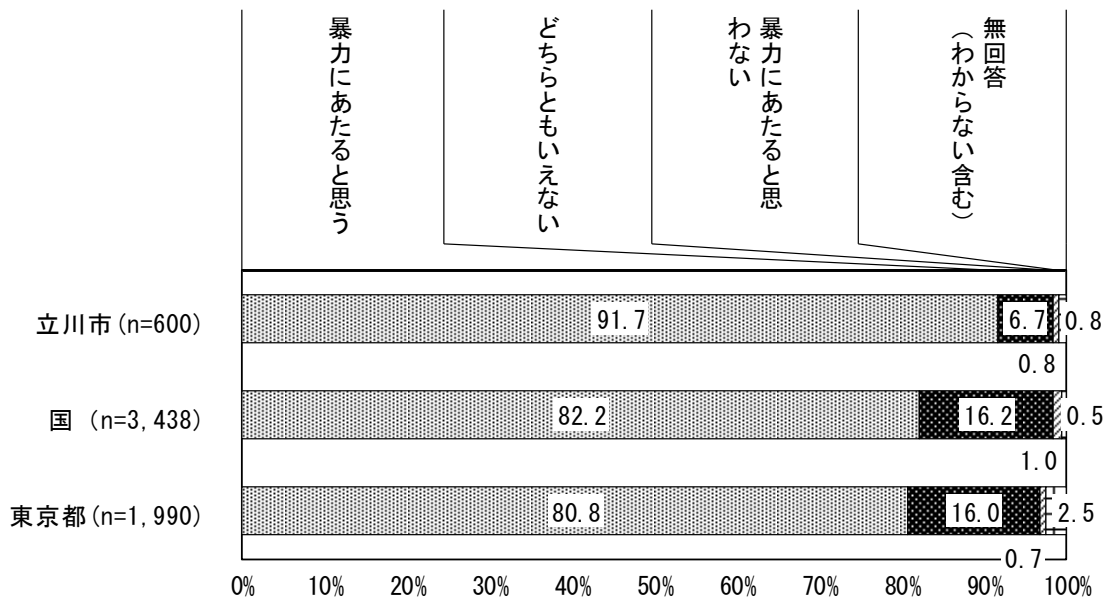
「暴力にあたると思う」の割合を性別で見ると、女性が男性を 10 ポイント上回っている項目として、【⑥大声でどなる】(17.4 ポイント)と【⑦何を言っても長期間無視し続ける】(16.0 ポイント)と【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】(13.1 ポイント)が見られます。

年齢で見ると、19 歳以下で【⑫避妊に協力しない】が 100.0%と、全体 (78.8%) を 21.2 ポイント上回っています。

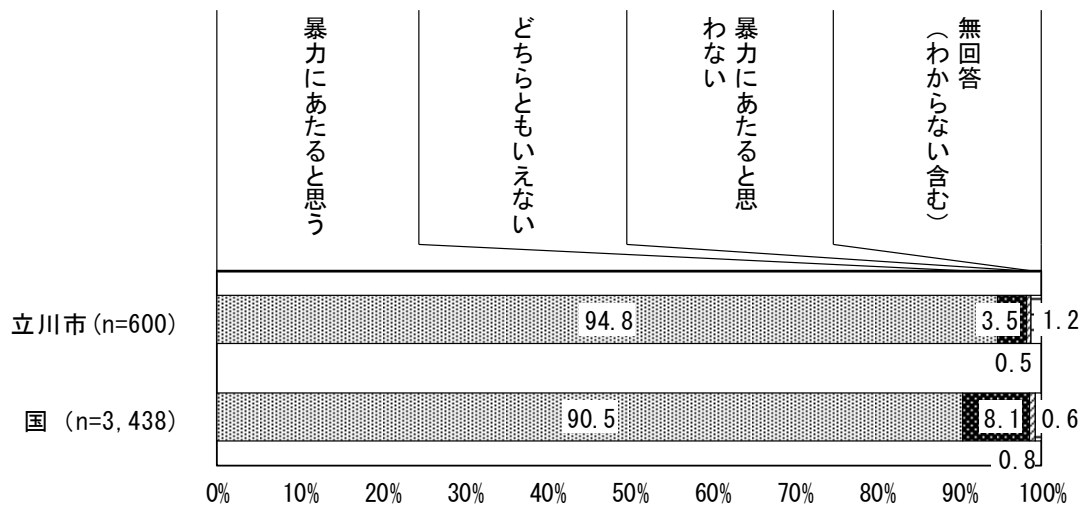
「暴力にあたると思わない」の割合を性別で見ると、【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】は男性が 11.9%と、女性 (6.6%) を 5.3 ポイント上回っています。

年齢で見ると、20 代で【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】が 22.0%と、全体 (8.8%) を 13.2 ポイント上回っています。

図表 【①平手で打つ】夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



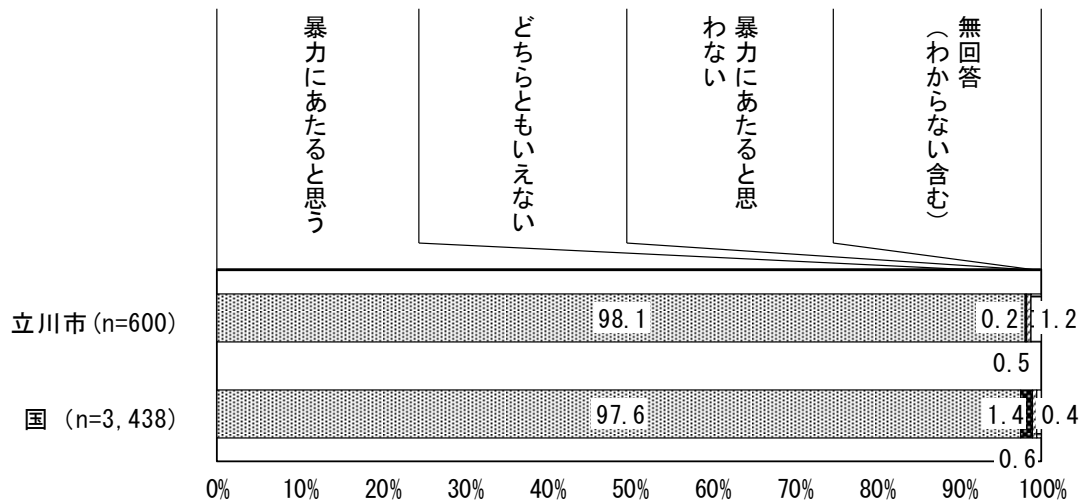
図表 【②足でける】夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



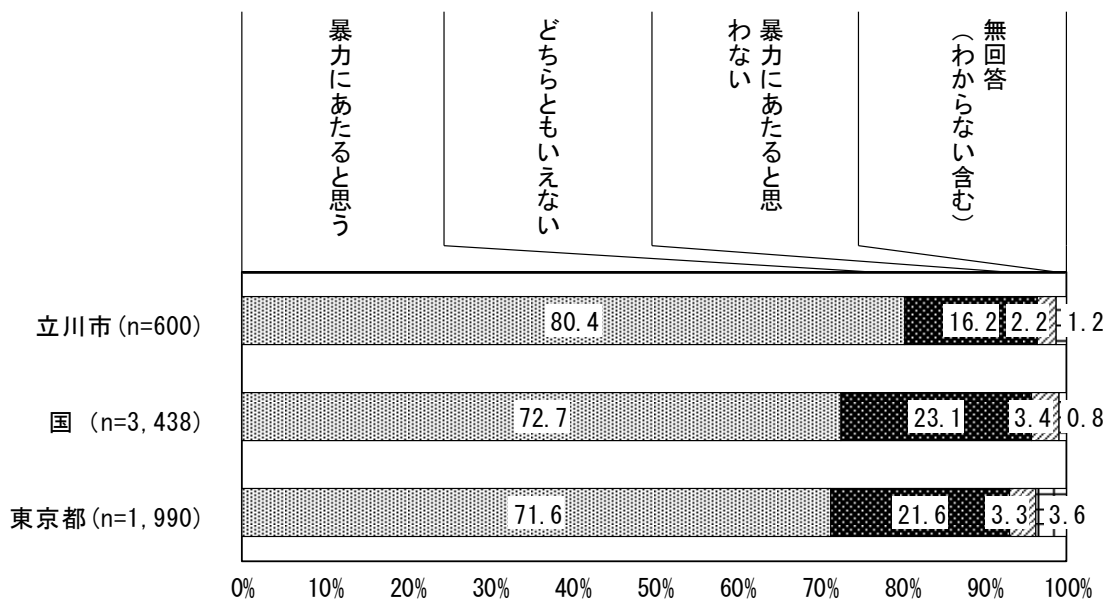
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
 ※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【①平手で打つ】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市（91.7%）のみが9割を超えて高くなっています。【②足でける】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市が94.8%と、国（90.5%）を4.3ポイント上回っています。

図表 【③身体を傷つける可能性のある物でなく
夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



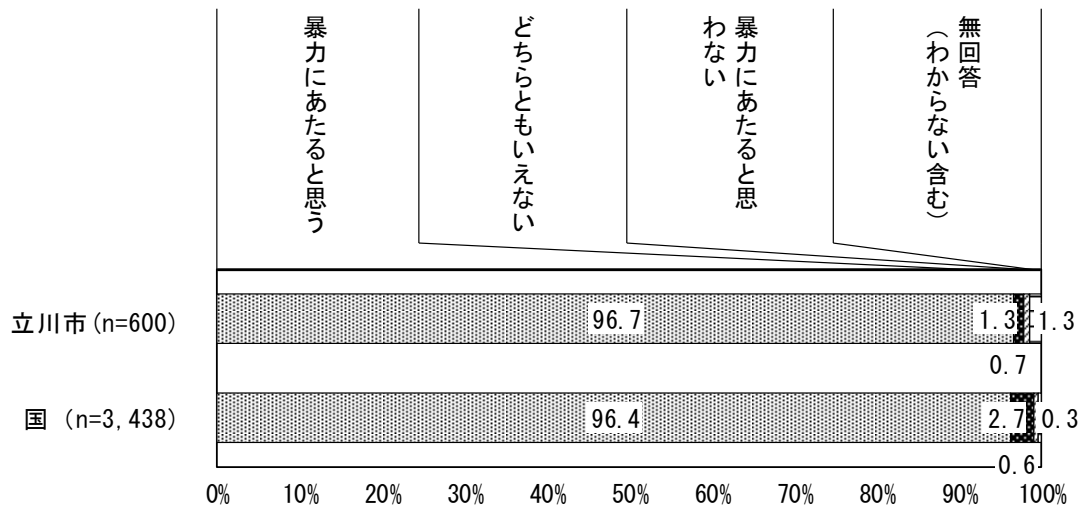
図表 【④なぐるふりをして、おどす】夫婦間での行為における暴力としての認識
（地域別比較）



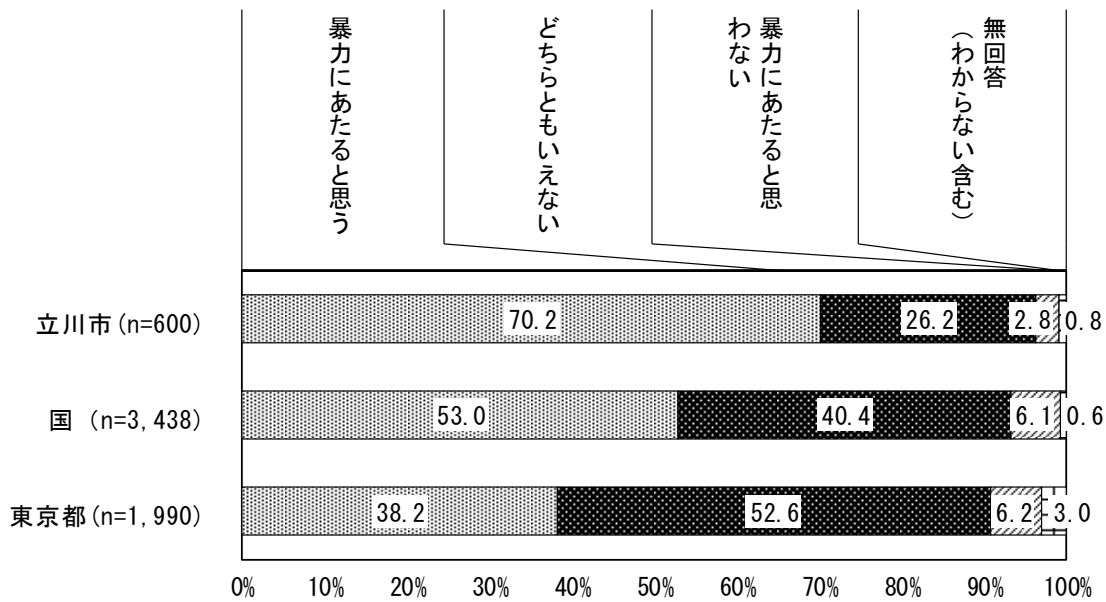
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【③身体を傷つける可能性のある物でなく】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市・国ともに9割を超えて高くなっています。一方で、「暴力にあたると思わない」は1%未満とわずかに見られます。【④なぐるふりをして、おどす】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市のみ（80.4%）が8割を超えて高くなっています。

図表 【⑤刃物などを突きつけて、おどす】夫婦間での行為における暴力としての認識
(地域別比較)



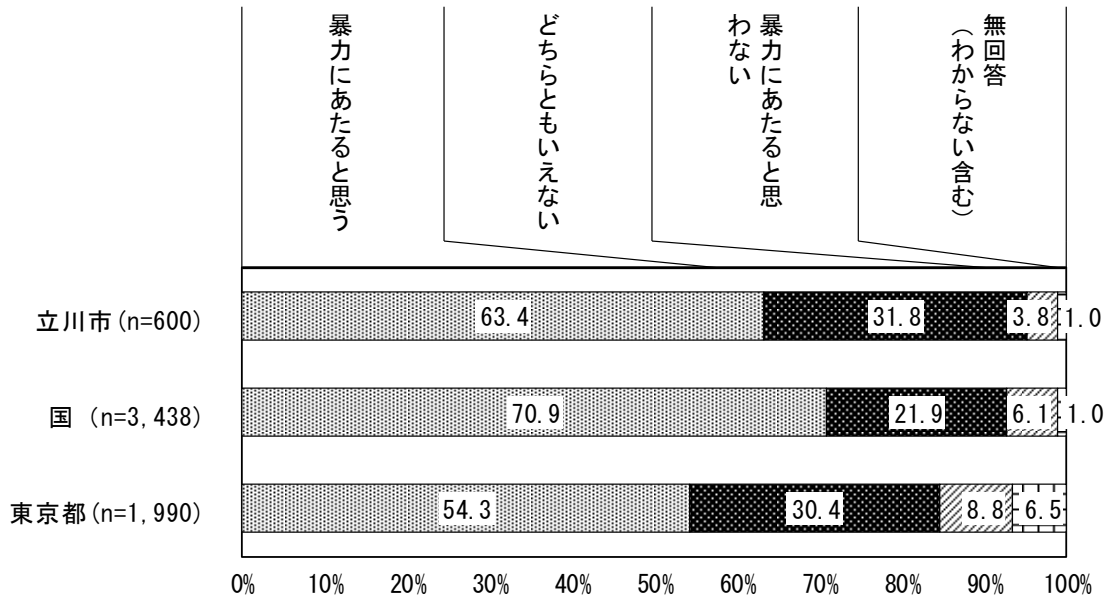
図表 【⑥大声でどなる】夫婦間での行為における暴力としての認識 (地域別比較)



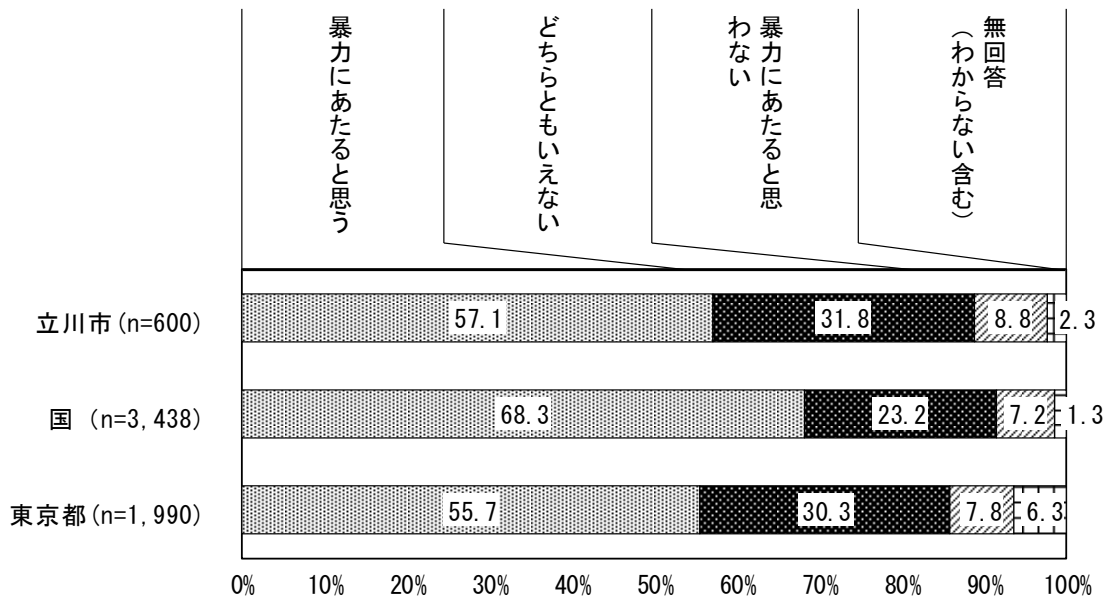
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【⑤刃物などを突きつけて、おどす】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市・国ともに9割を超えて高くなっています。【⑥大声でどなる】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市(70.2%)のみが7割を超えて高くなっています。

図表 【⑦何を言っても長期間無視し続ける】夫婦間での行為における暴力としての認識
(地域別比較)



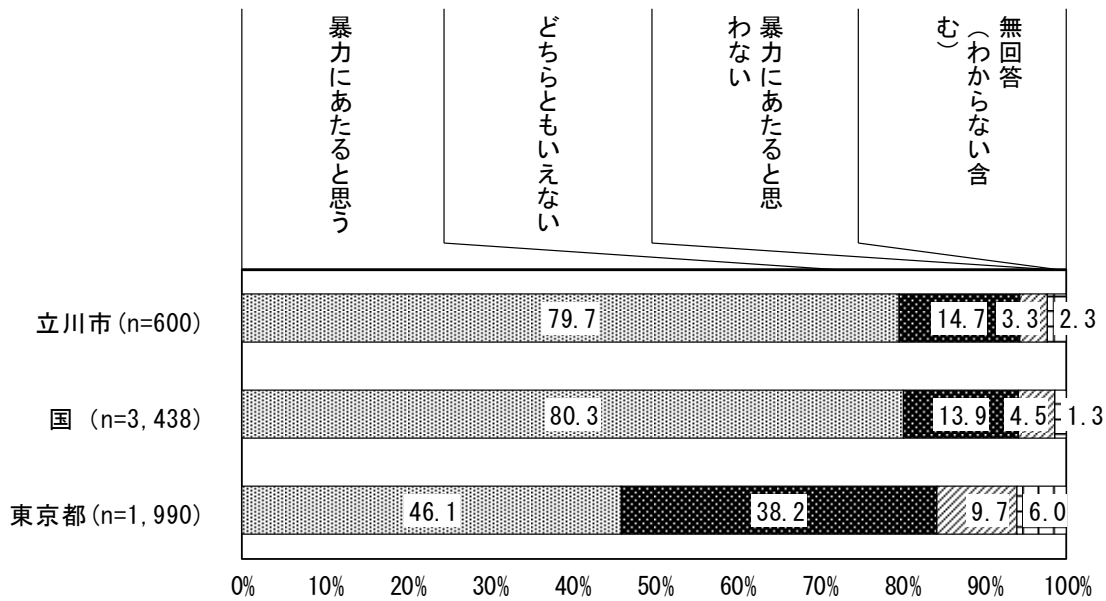
図表 【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】夫婦間での行為における暴力としての認識 (地域別比較)



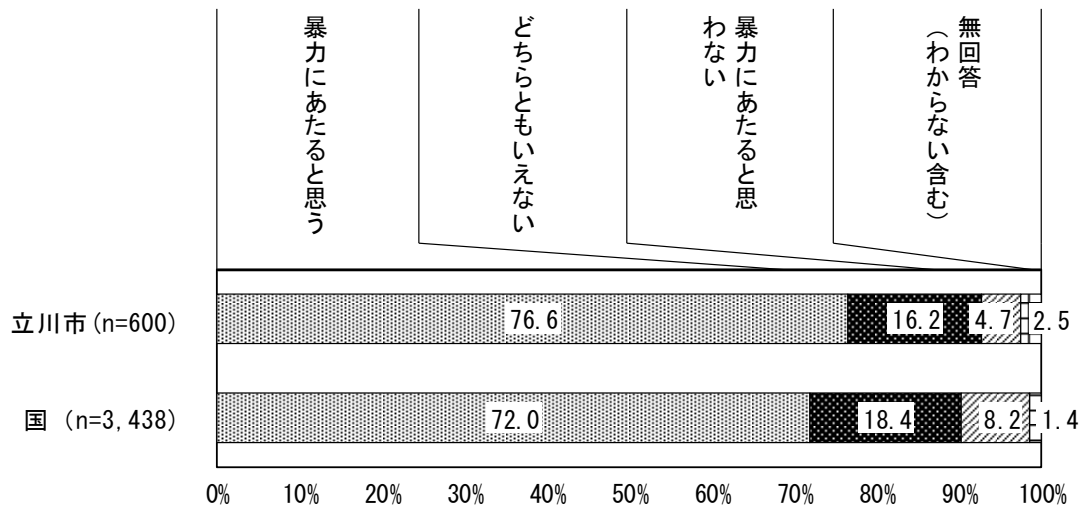
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【⑦何を言っても長期間無視し続ける】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて「どちらともいえない」が31.8%と高くなっています。【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】を地域別に見ると、立川市は国・東京都と比べて「暴力にあたると思わない」が8.8%と高くなっています。

図表 【⑨職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】
夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



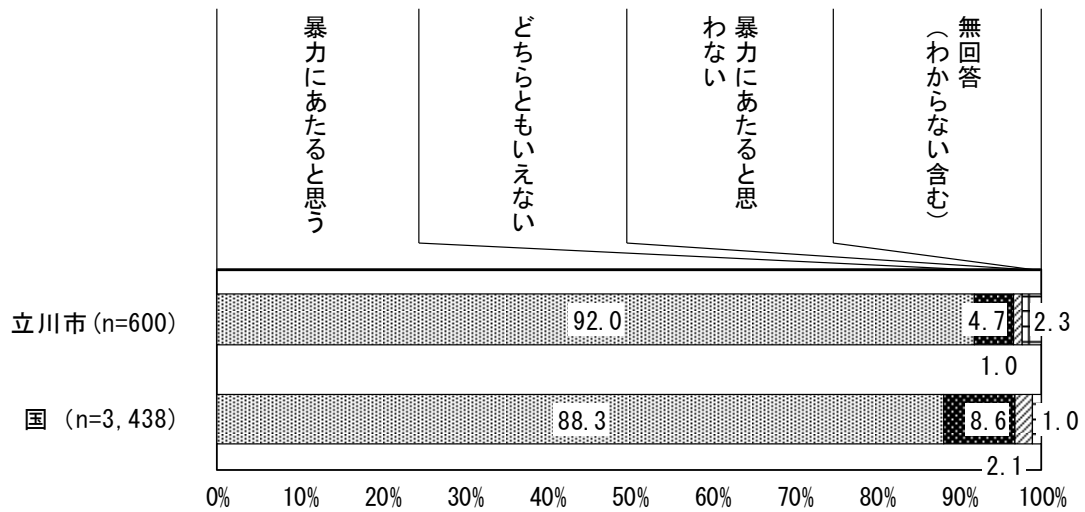
図表 【⑩家族や友人との関わりを持たせない】夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



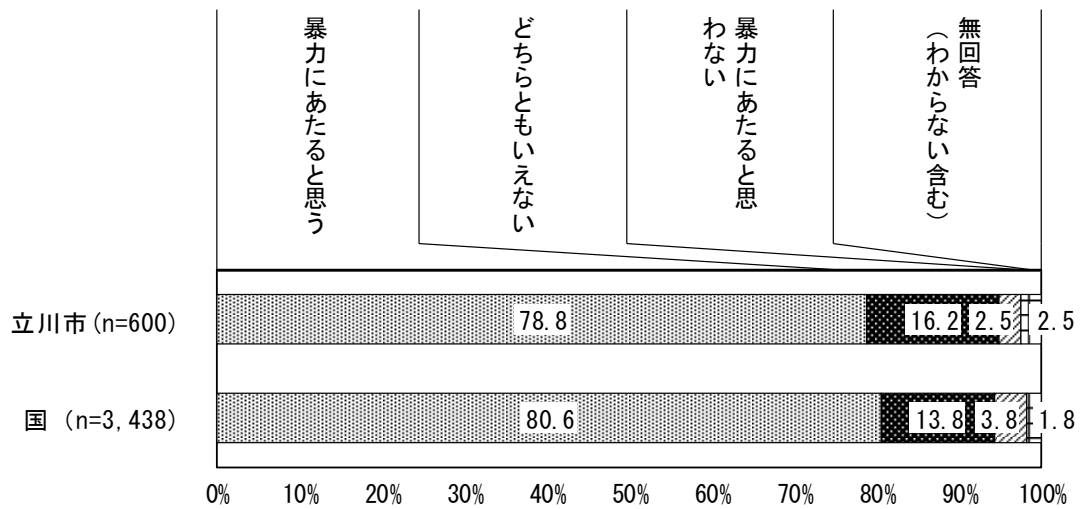
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【⑨職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】を地域別に見ると、立川市・国ともに「暴力にあたると思う」は約8割と高くなっています。【⑩家族や友人との関わりを持たせない】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市が76.6%と、国（72.0%）を4.6ポイント上回っています。

図表 【⑪いやがっているのに性的な行為を強要する】
夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



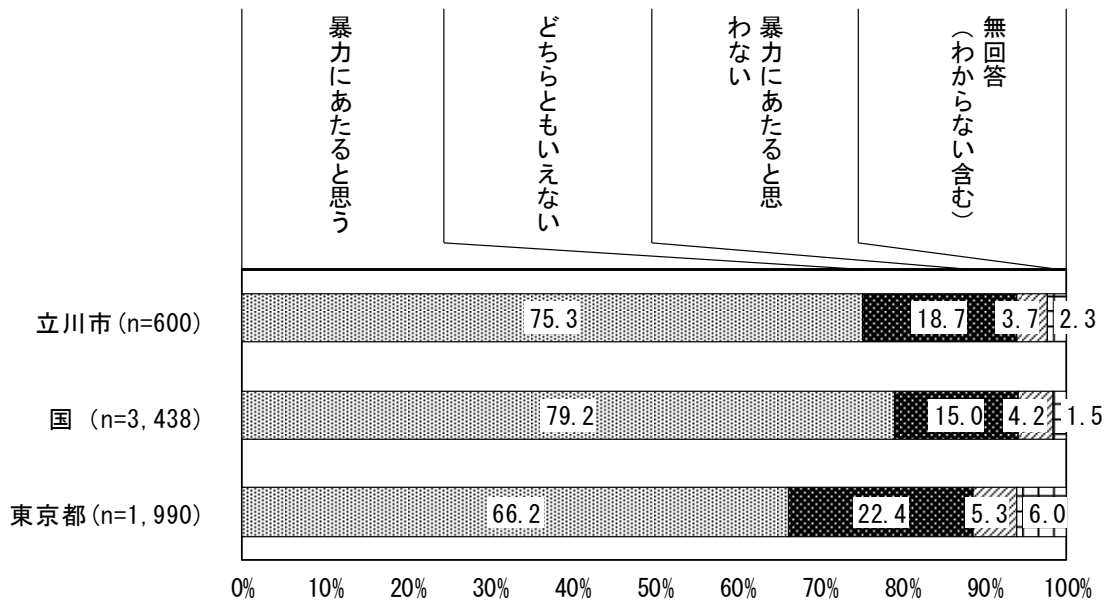
図表 【⑫避妊に協力しない】夫婦間での行為における暴力としての認識（地域別比較）



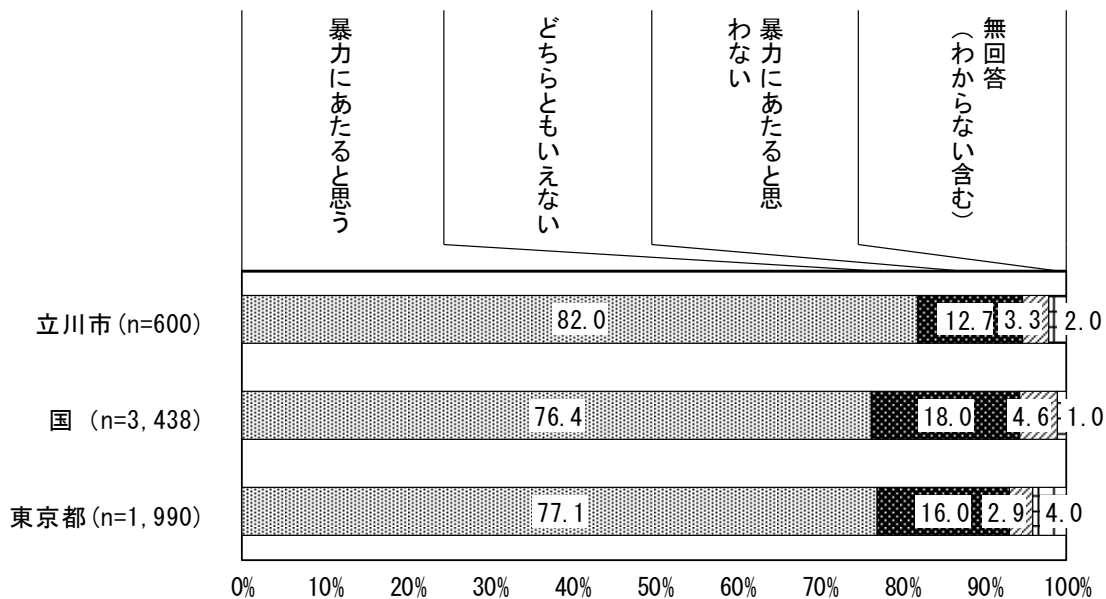
※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査票」

夫婦間での行為における暴力としての認識について【⑪いやがっているのに性的な行為を強要する】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市（92.0%）のみが9割を超えて高くなっています。【⑫避妊に協力しない】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市が78.8%と7割台で低くなっています。

図表 【⑬家計に必要な生活費を渡さない】夫婦間での行為における暴力としての認識
(地域別比較)



図表 【⑭「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う】夫婦間での行為における暴力としての認識 (地域別比較)



※国は令和2年の「男女間における暴力に関する調査」
※東京都は令和2年の「男女平等参画に関する世論調査」

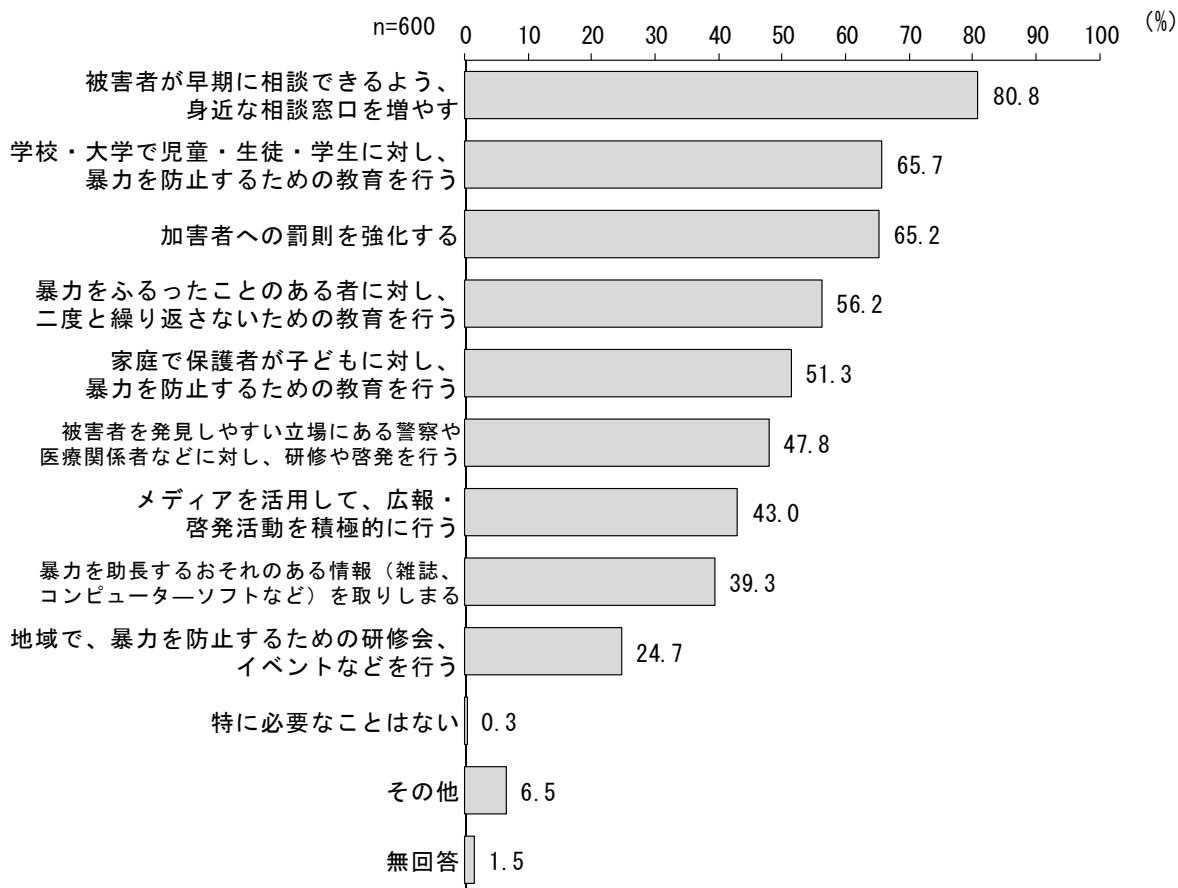
夫婦間での行為における暴力としての認識について【⑬家計に必要な生活費を渡さない】を地域別に見ると、立川市・国ともに「暴力にあたると思う」は7割を超えて高くなっています。【⑭「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う】を地域別に見ると、「暴力にあたると思う」は立川市（82.0%）のみが8割を超えて高くなっています。

4. 男女間の暴力を防止するために必要なことについて

(1) 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制

問 10 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制



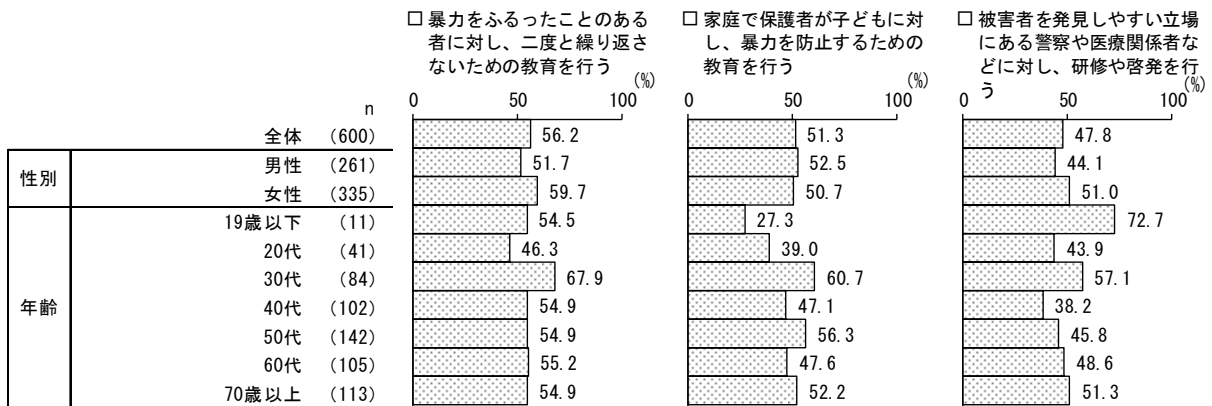
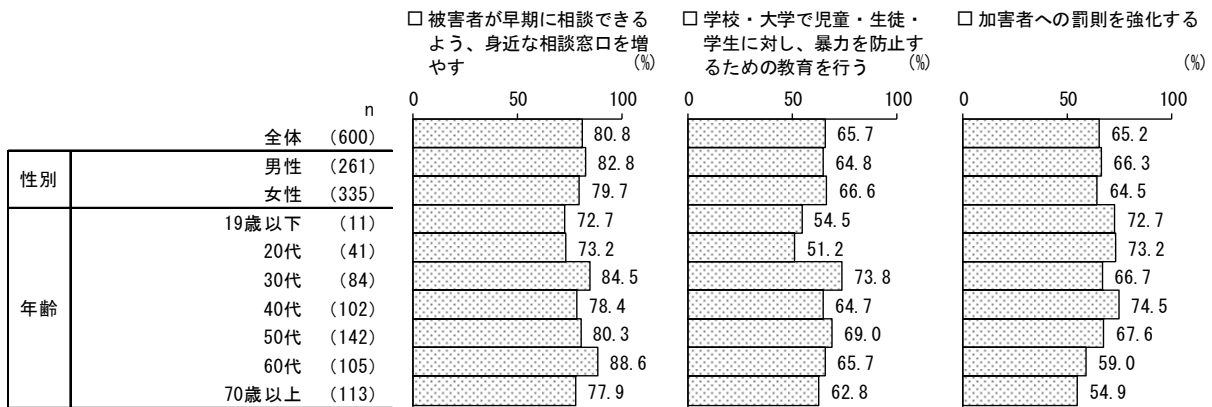
男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制について聞いたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が80.8%と最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が65.7%、「加害者への罰則を強化する」が65.2%、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」が56.2%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が51.3%と5割を超えて続いています。

一方で、「特に必要なことはない」は0.3%しか見られません。

【その他の記載内容】

SNSを使用して、もっと簡単に情報共有（LINEとか）／あなたがしていることは暴力だよ、と気づかせること。くり返しメディアでも教育でも、暴力をふるうことが何故ダメなのか。暴力をふるうあなたのどこに原因があるのか。加害者の問題解決する方法も必要。／ご近所に何でも話せる話しやすい場所があれば、行ってみようかと思うかも。それは、相談があるとかないとか関係なく、話せる場所、子育ての事とか夫婦の事も仕事も、人が行きたくなるような場所作り。／その時の心を相談する事を進める／それぞれを引き離す／どういう事が暴力であるのかの認識を共有する／一度暴力を受けた人は、相談したりした後の仕返しが怖いのかも…仕返しされないシステム作り、GPS身体に埋め込むとか…／何が暴力にあたって、どんな罰則があるのか法律もまじえて学校で教える。／加害者のカウンセリングを行う場を作る／加害者への精神的なアプローチ、保護者へのアンガーマネジメントや、子育て相談強化。／加害者への犯罪意識レベル向上を強制する。／近頃は近親殺人等が多くなっている。現在の親が子供に教育できていないと感じる。／子どもが保護者等に対する暴力を防止するための教育、罰則の強化／事件が起きた時に、被害者に非がある（夜道を歩いていた、スカートを履いていたなど）というような考えを持たないような教育を、学校で（職場でも）行う。男性で同じ事をしても、何も言われぬのに、女性だと批判されることがある。おかしいです。／女性の男性に対する暴力を明確にすべき。／勝負する 対抗に／身近な人との相談がやはり大事だと思う。／世の中にいる一定数の異常者を減らすことは難しいため、地域で見守りできるようなイベント等、活動で予防が必要。／戦争を世界から無くすこと／相談窓口がもっと行動する。／男女間に限らず、暴力は本人の性格（人間性）であると思うので、人格を培う教育を義務教育内で行うこと。／男女共にストレスのない社会をつくる事で、暴力が必要ではなくなるかも。／被害者が相談に来たら、すみやかに対応・対処してもらえる機関を作る。（相談・様子見で終わらせない） 暴力をふるう人の成長過程や背景に満たされない原因があると思うので、その人に対するカウンセリング的な対応が必要。／被害者の逃げ道を作る／被害者を守れる環境を整備する。／被害者を早急に保護できる場所を増やして欲しい／暴力とは何かを学校教育（小学校～高校）しっかり教えそして理解させる。・考えさせる・意見を言わせる／暴力に至る原因を見つけ、相談できる機関が必要です。男性の仕事のストレス、収入など、悩みや不安からストレスがあり、弱い女性や子供に当たります。／暴力をふるう人を教育して、ふるわないようになるのでしょうか？よく分からない。／暴力を受けたと感じた行為や度合を、数値化して表わせば良い。合わせて冤罪となるケースについても、ケアが必要。／暴力を受けている側が、自分が暴力を受けていることを自覚する場所を作ること。暴力を受けている最中は、自分が暴力にあっている、支配を受けていることに気がつきにくい。（洗脳されている状態）／暴力を受けても相談できない（相談窓口があっても）人が多いと思います。／本当に好きな人と出会う／友人、知人などの人間関係／幼少期の愛着形成が大切／要所への防犯カメラ設置（確信犯への対応）

図表 男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」は女性が59.7%と、男性（51.7%）を8.0ポイント上回っています。

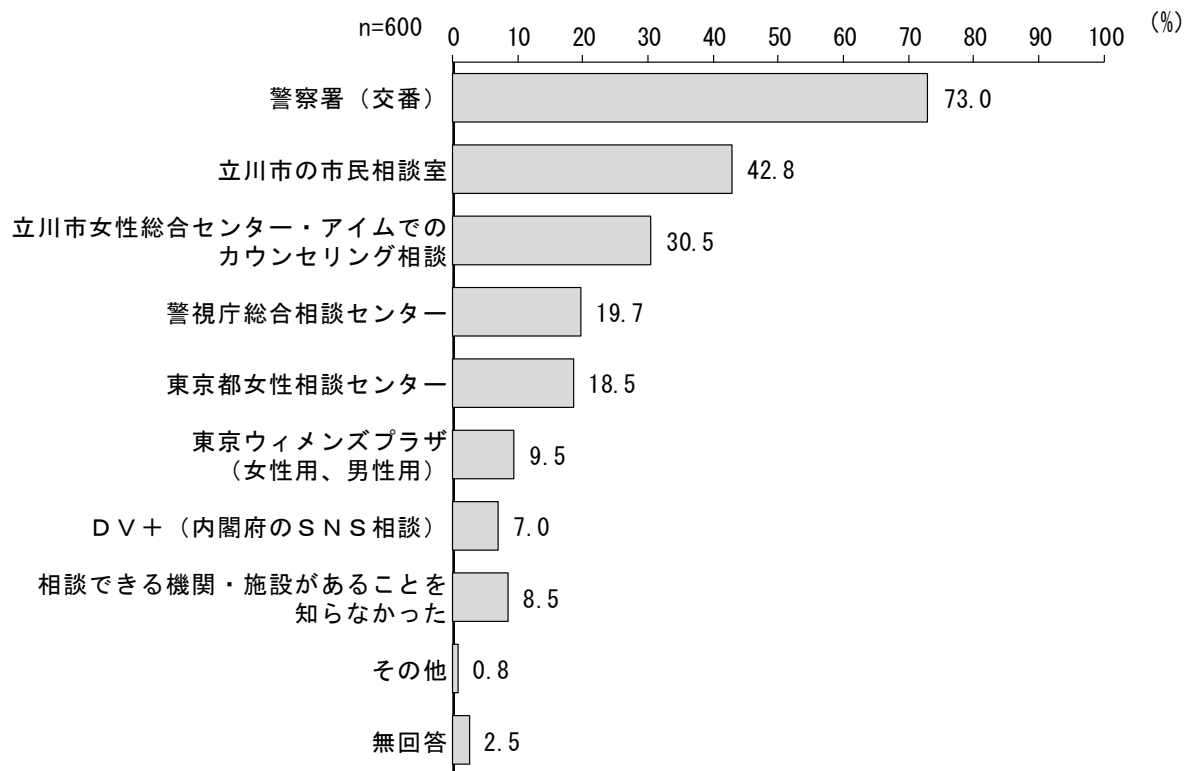
年齢で見ると、「加害者への罰則を強化する」は40代が74.5%と最も高く、50代以上は年齢が上がると割合が減少しています。「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は19歳以下（27.3%）のみが2割台と低くなっています。一方で、30代（60.7%）のみが6割を超えて高くなっています。

5. 男女間の暴力に関する相談窓口について

(1) 男女間の暴力に関する相談窓口の認知度

問 11 男女間の暴力に関する相談窓口として、あなたの知っている相談先はどれですか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 男女間の暴力に関する相談窓口の認知度



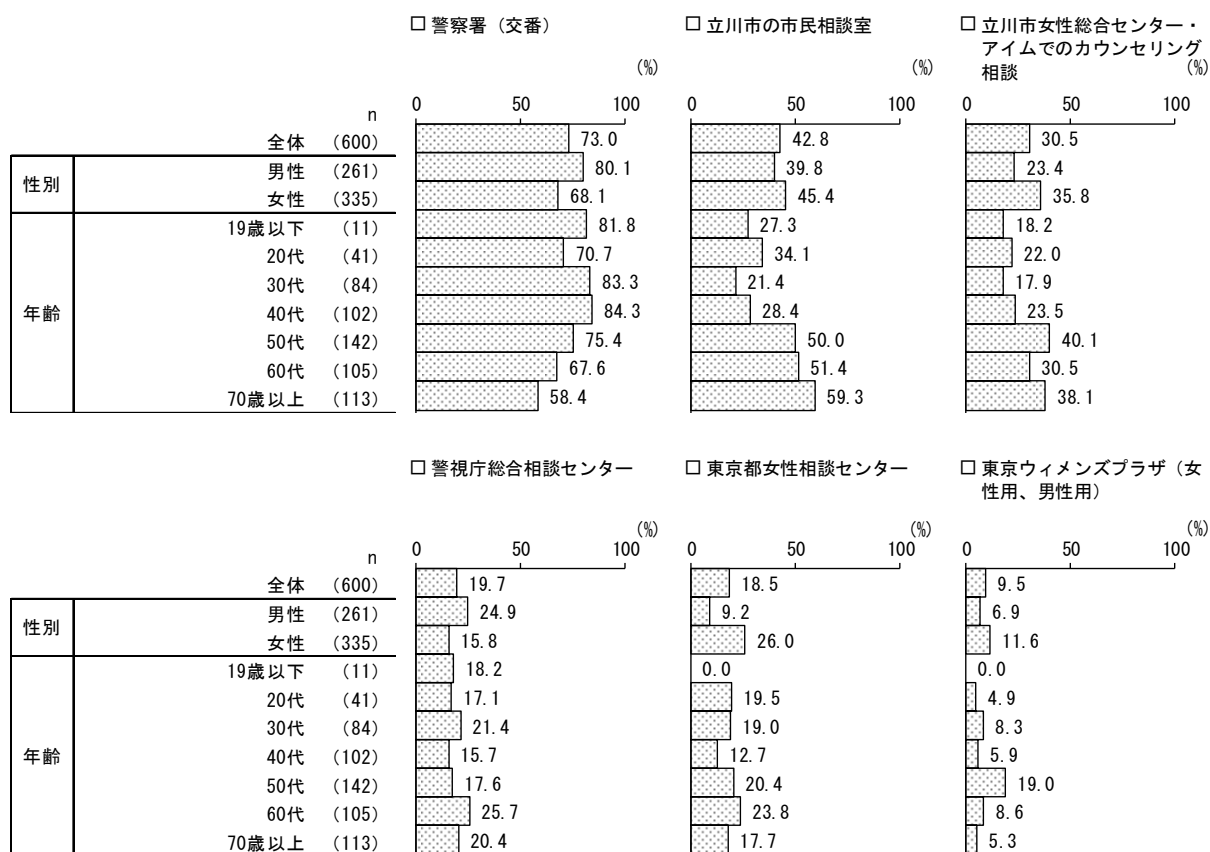
男女間の暴力に関する相談窓口の認知度について聞いたところ、「警察署 (交番)」が73.0%と最も高く、次いで「立川市の市民相談室」が42.8%、「立川市女性総合センター・アイムでのカウンセリング相談」が30.5%、「警視庁総合相談センター」が19.7%、「東京都女性相談センター」が18.5%と続いています。

一方で、「相談できる機関・施設があることを知らなかった」も8.5%見られます。

【その他の記載内容】

くにたち男女共同参画センターパラソル／どこに相談しても解決できないと思っていた／相談できる機関などはあると思っているが詳しくは分からない／相談できる窓口があることは知っているが、具体的にどこという認識がない。／法テラス

図表 男女間の暴力に関する相談窓口の認知度（上位6項目・属性別）



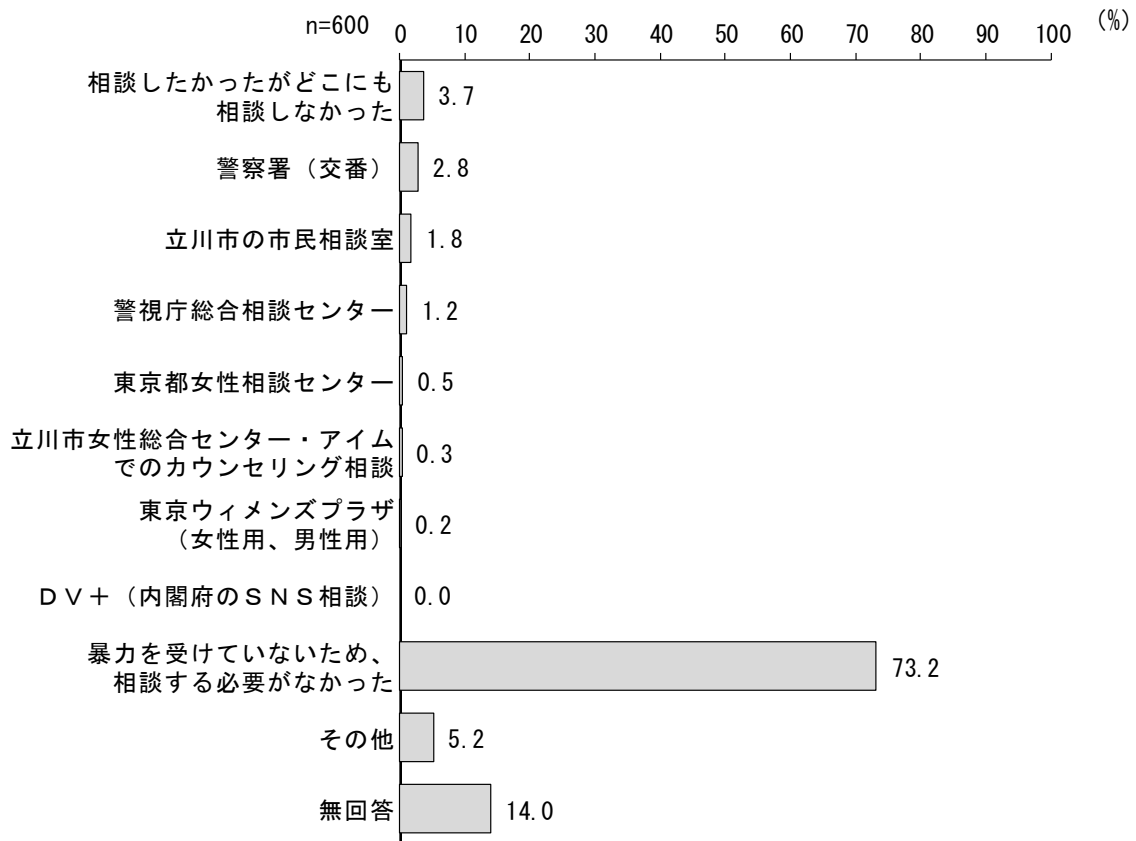
上位6項目を性別で見ると、「警察署（交番）」と「警視庁総合相談センター」の割合は男性が女性を上回っており、「立川市の市民相談室」と「立川市女性総合センター・アイムでのカウンセリング相談」と「東京都女性相談センター」と「東京ウィメンズプラザ（女性用、男性用）」の割合は女性が男性を上回っています。

年齢で見ると、「警察署（交番）」は40代が84.3%と最も高く、50代以上は年齢が上がると割合が減少しています。「立川市の市民相談室」は30代が21.4%と最も低く、40代以上は年齢が上がると割合が増加しています。

(2) 利用したことのある相談窓口

問 12 男女間の暴力に関する相談窓口として、あなたが利用したことのある相談先はどれですか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 利用したことのある相談窓口



利用したことのある相談窓口について聞いたところ、「暴力を受けていないため、相談する必要がなかった」が73.2%と最も高くなっています。これに「相談したかったがどこにも相談しなかった」が3.7%、「警察署 (交番)」が2.8%、「立川市の市民相談室」が1.8%、「警視庁総合相談センター」が1.2%と続いています。

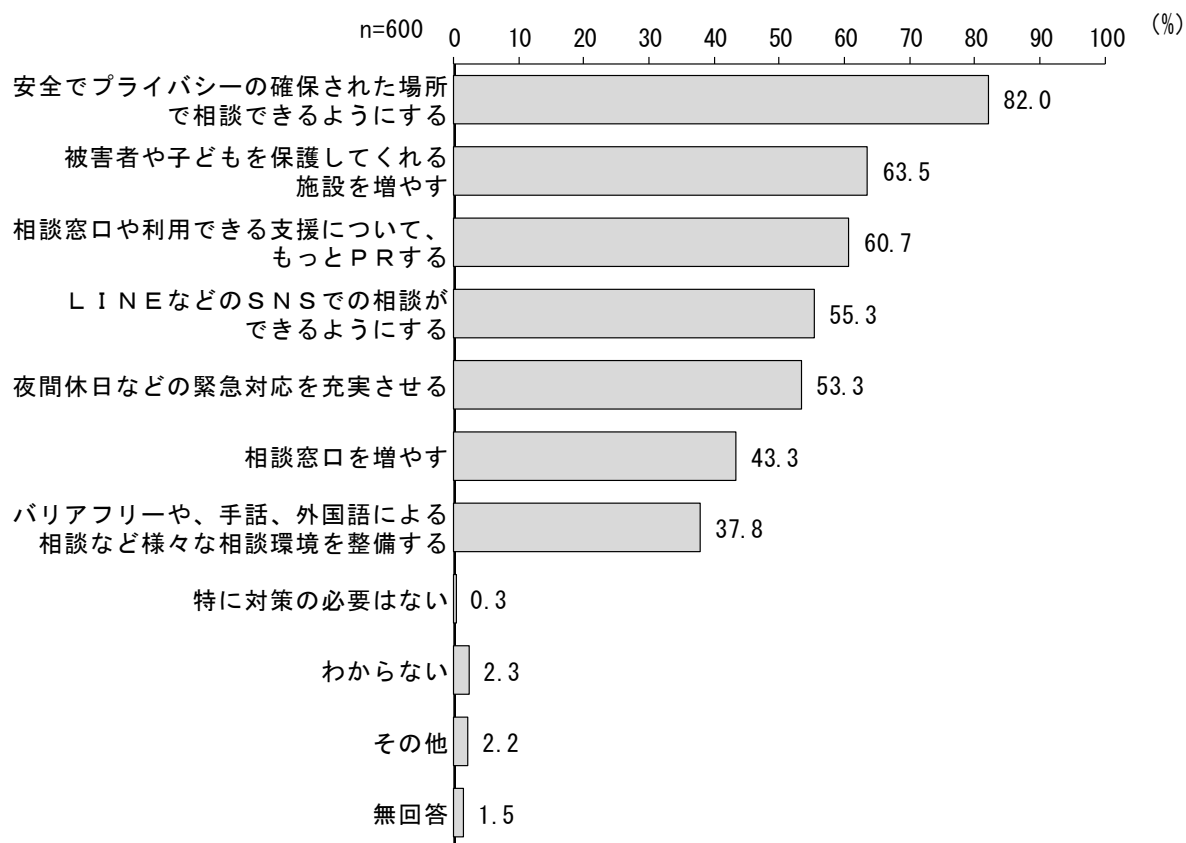
【その他の記載内容】

ありません。暴力を受けたことがない。／ストーカー行為で警察に話したことがある。／ない／
会社のハラスメントはある。／言葉の暴力は受けたが、相談しなかった。／言葉も暴力と認識
しているので（弁護士）／個人的なことをどこかの機関に相談するつもりにならない。そこま
で大ごとになったことがない。／今となっては暴力だったと思うが、当時はそれが暴力だと認
識できていなかったため、相談しようと思わなかった。／身内／相談しようと思わなかった
／相談するということを考えなかった／相談するまでもないと我慢し時間を置いた。／相談は
出来ない。／誰かに相談できることではなかった。相談してもどうにもならないと思っていた。
／当時は、暴力を受けているという自覚がなかった／暴力をうけたことはあるが、相談しよ
うと思ったことがなかった。／友人、家族（娘）／友達

(3) 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと

問 13 男女間の暴力を受けた被害者が相談しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと



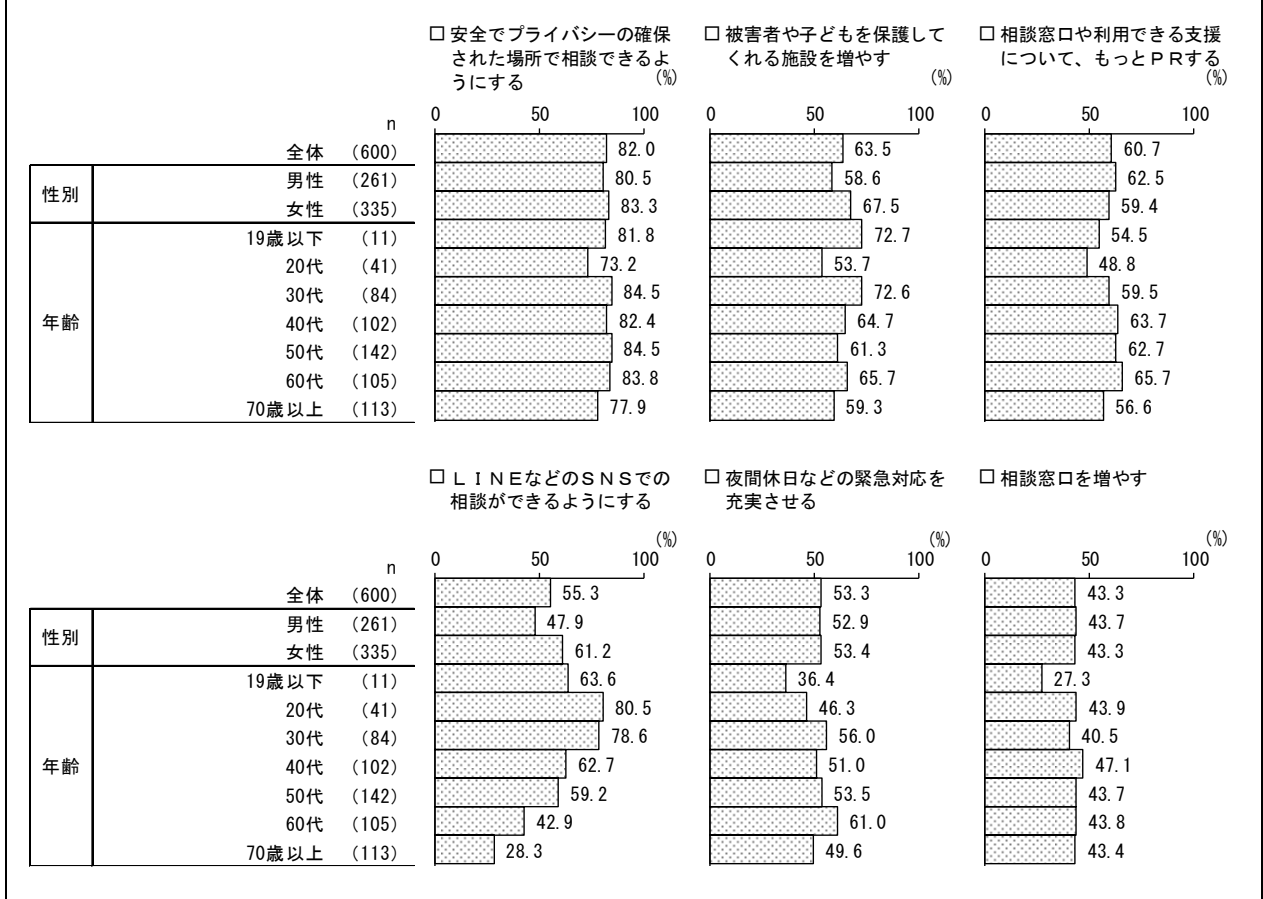
被害者が相談しやすい体制を作るために必要なことについて聞いたところ、「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」が82.0%と最も高く、次いで「被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす」が63.5%、「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」が60.7%、「LINEなどのSNSでの相談ができるようにする」が55.3%、「夜間休日などの緊急対応を充実させる」が53.3%と5割を超えて続いています。

一方で、「特に対策の必要はない」は0.3%しか見られません。

【その他の記載内容】

DVを受けている事の自覚が持てるような気付きの場、発信。／こんな相談が過去ありました（文や動画で）みたいなの（小さいのも大きいのも）あると相談しやすいかも。こんな事で相談していいのかなあと悩まなくても良くなるかも。／みんながすぐに思いつく場所、施設に窓口があるとわかりやすいと思う。現状が分からないので窓口の増設などが必要かが判断できない。／解決まで導くこと。相談だけですませない事。／警察の民事不介入という原則への柔軟な対応。児童相談員など保護する立場の人の権限（立場）の見直し。／交番での女性警察官の配置を増やす。女性でも、出産後も長く勤務できる体制が警察でも整うと良いです。／公務員の守秘義務の強化、通信の秘密の厳格な適用／私は在宅ヘルパーをやっていて、利用者さんからの話で、介護事務所から市役所へつなげてもらった事があります。人と接する仕事や学校のPTAとかにも勉強会をしたらいいと思う。／自立できるための支援／障がいのある人が相談しやすい場所作り。あればPRする。／相談に乗るべき行政の窓口を明確にし、被害者をたらいまわしにしない。／弁護士を加えた相談体制を望む／本当に困るのは加害者という認識

図表 被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「LINEなどのSNSでの相談ができるようにする」は女性が61.2%と、男性（47.9%）を13.3ポイント上回っています。

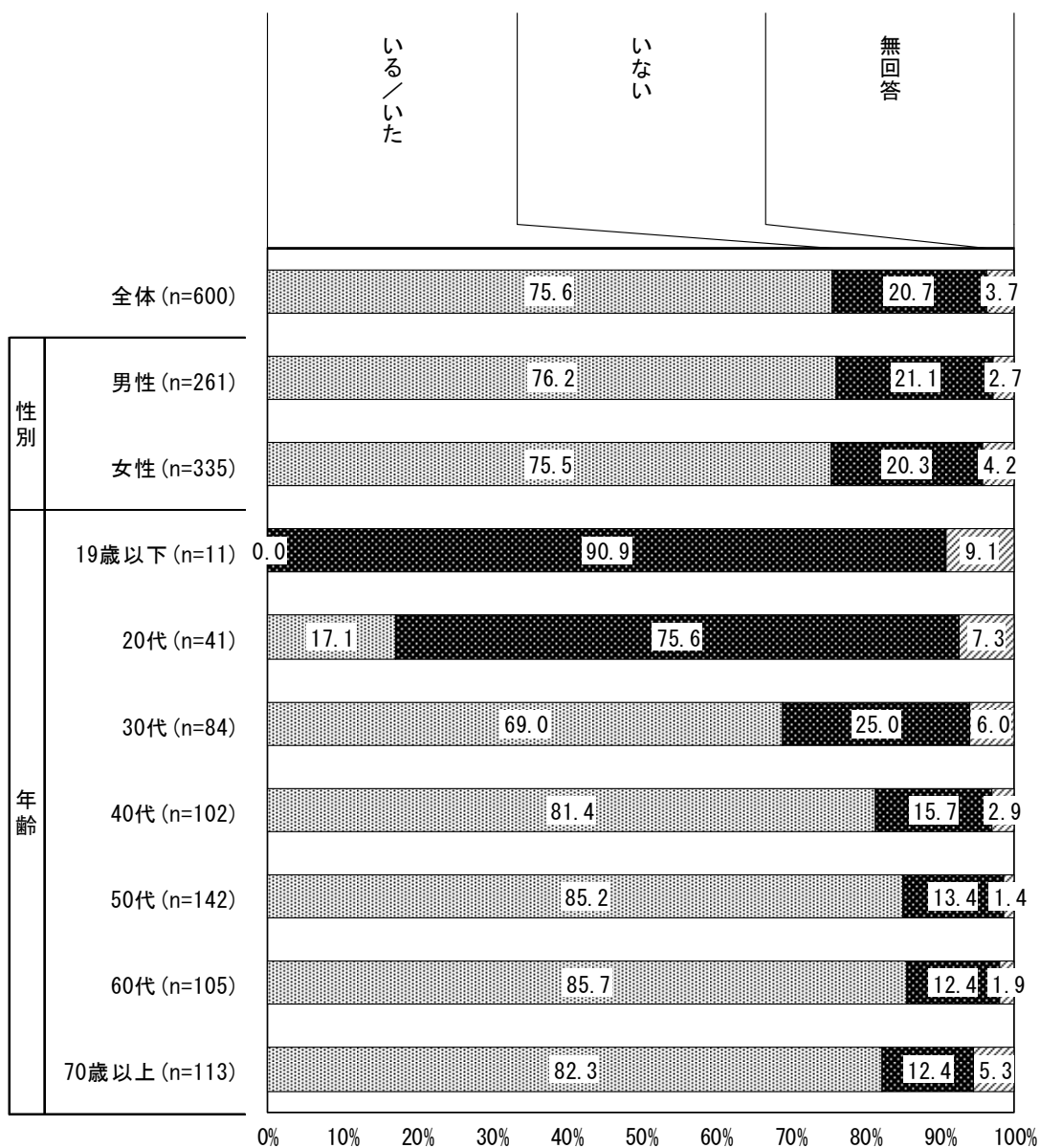
年齢で見ると、「LINEなどのSNSでの相談ができるようにする」は20代が80.5%と最も高く、30代以上は年齢が上がる割合が減少しています。

6. 配偶者等からの被害経験について

(1) 配偶者の有無

問 14 あなたは現在配偶者がいる、または過去に配偶者がいましたか。(該当するもの1つに○をしてください。) ※配偶者には、事実婚を含みます。

図表 配偶者の有無



配偶者の有無について聞いたところ、「いる／いた」が75.6%、「いない」が20.7%となっています。

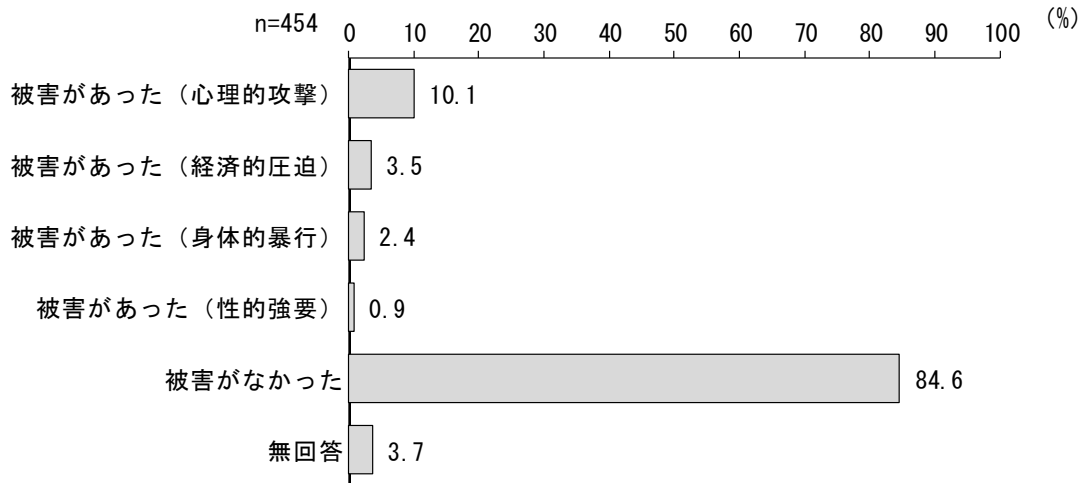
性別で見ると、割合に大きな変化は見られません。

年齢で見ると、「いる／いた」は19歳以下が0.0%、20代が17.1%と低くなっています。

(1-1) 配偶者からの被害経験

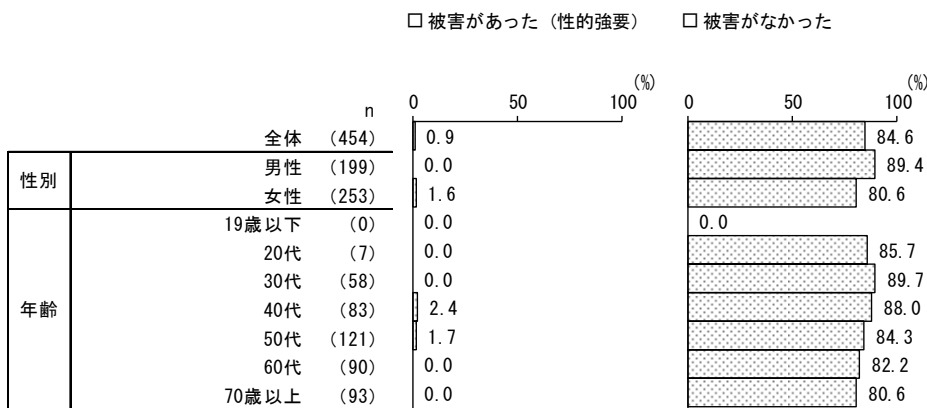
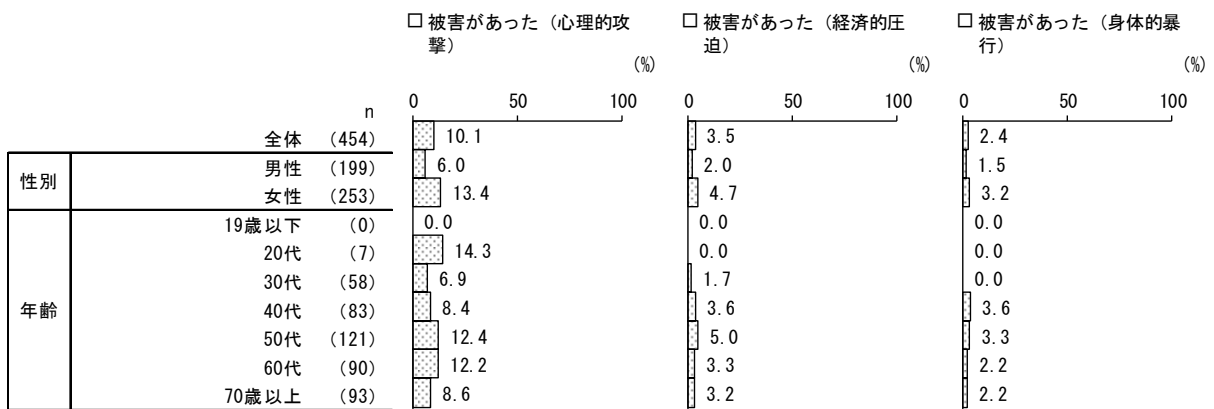
問 14-1 あなたはこの2年の間に、配偶者から身体的暴行や心理的攻撃、性的強要、経済的
圧迫のいずれかをされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○をしてく
ださい。)

図表 配偶者からの被害経験



配偶者からの被害経験について聞いたところ、「被害があった (心理的攻撃)」が 10.1%、「被害があった (経済的圧迫)」が 3.5%、「被害があった (身体的暴行)」が 2.4%、「被害があった (性的強要)」が 0.9%と続いています。これらを合計した『被害があった』は 16.9%となっています。

図表 配偶者からの被害経験（属性別）



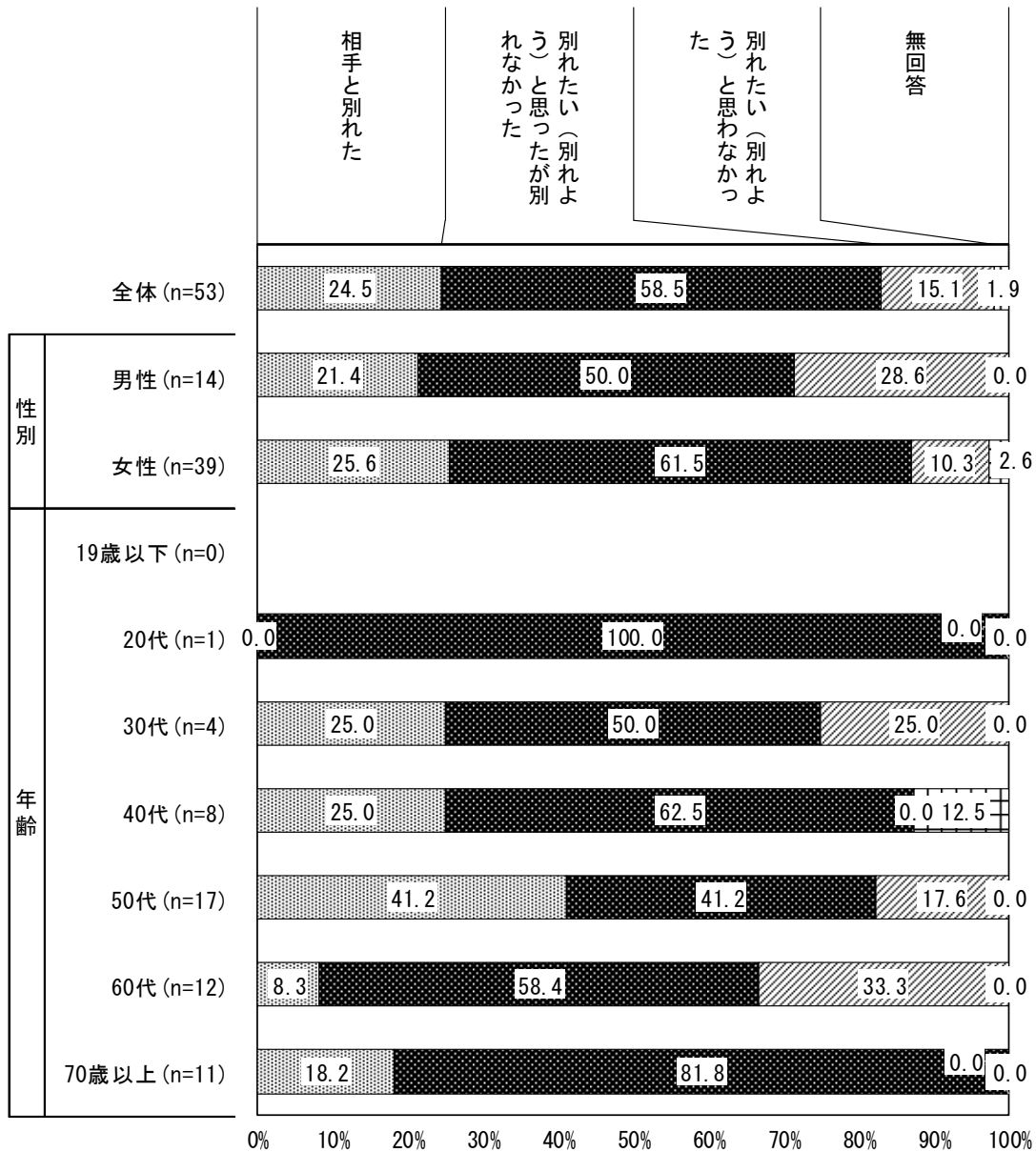
性別で見ると、全ての項目で「被害があった」は女性が男性を上回っています。「被害があった（心理的攻撃）」は女性が13.4%と、男性（6.0%）を7.4ポイント上回っています。

年齢で見ると、「被害があった（心理的攻撃）」は20代（14.3%）と50代（12.4%）と60代（12.2%）で1割を超えて高くなっています。

(1-2) 配偶者から被害を受けたときの行動

問 14-2 あなたは、被害を受けた時、どうしましたか。(該当するもの1つに○をしてください。)

図表 配偶者から被害を受けたときの行動



配偶者から被害を受けたときの行動について聞いたところ、「相手と別れた」が24.5%、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」が58.5%、「別れたい(別れよう)と思わなかった」が15.1%となっています。

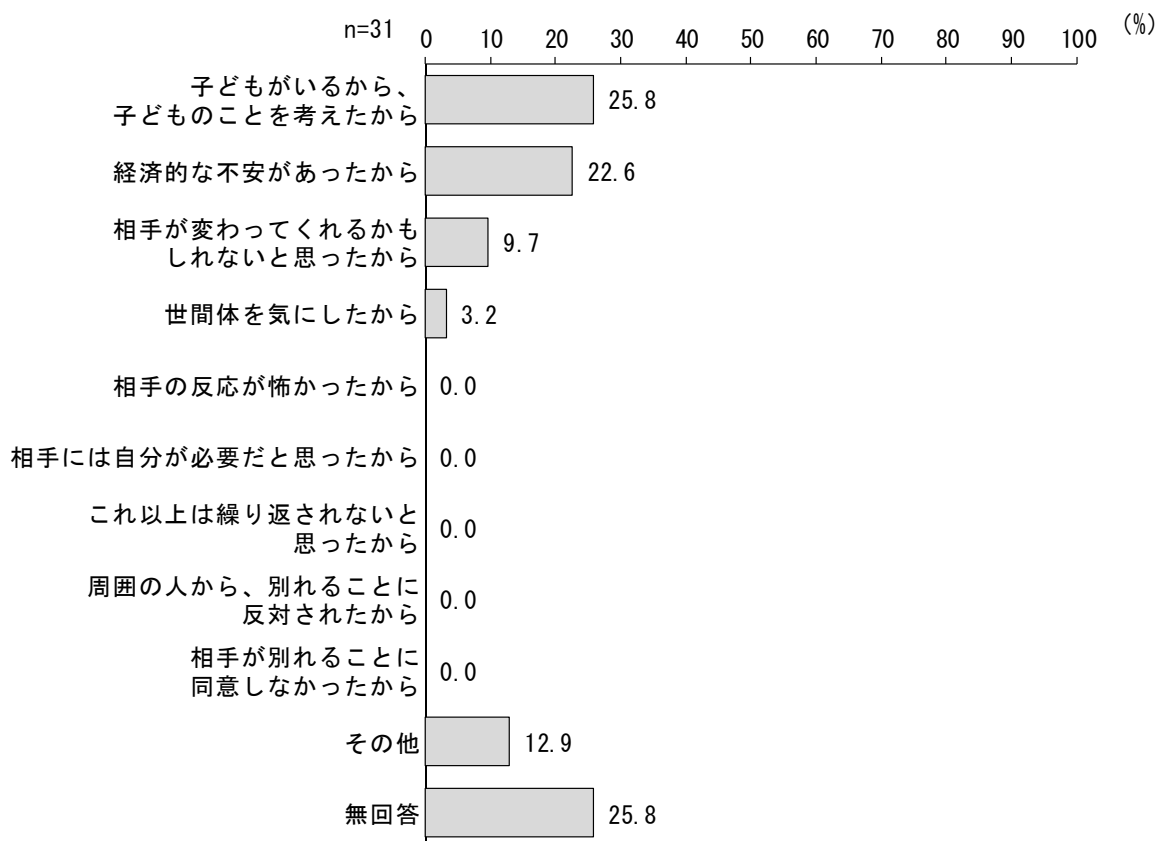
性別で見ると、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」は女性が61.5%と、男性(50.0%)を11.5ポイント上回っています。

年齢で見ると、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」は20代が100.0%、70歳以上が81.8%と高くなっています。

(1-3) 配偶者と別れなかった理由

問 14-3 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

図表 配偶者と別れなかった理由

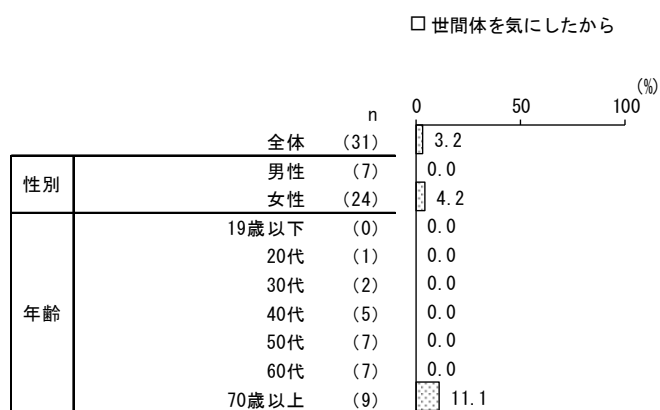
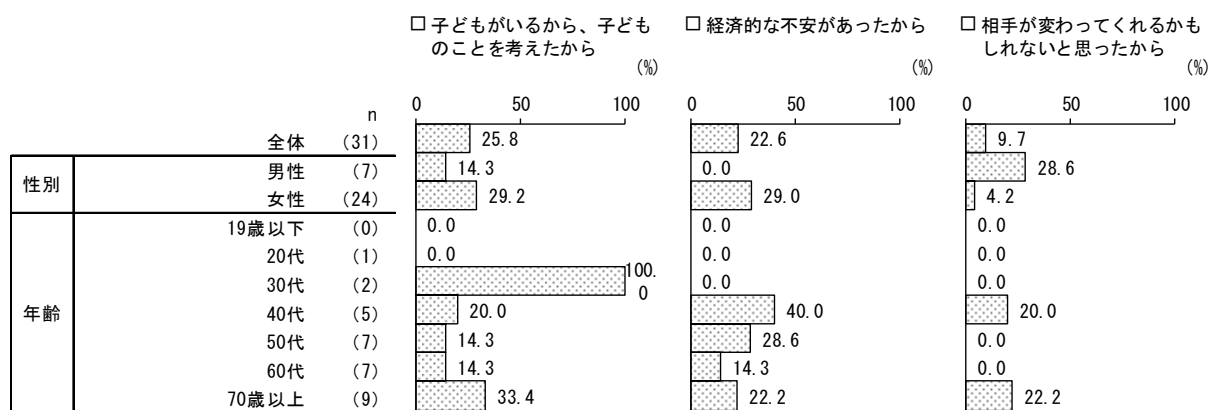


配偶者と別れなかった理由について聞いたところ、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が25.8%と最も高く、次いで「経済的な不安があったから」が22.6%、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が9.7%、「世間体を気にしたから」が3.2%と続いています。

【その他の記載内容】

“はじめからそういう人間であった”ことを理解していなかっただけだったと、自身を納得させることが出来たから。／タイミングよく親の介護で距離をとれたから／まだ我慢できたから／軽度な感情だった為／手続きをする気力が無かった。／友人に相談

図表 配偶者と別れなかった理由（上位4項目・属性別）



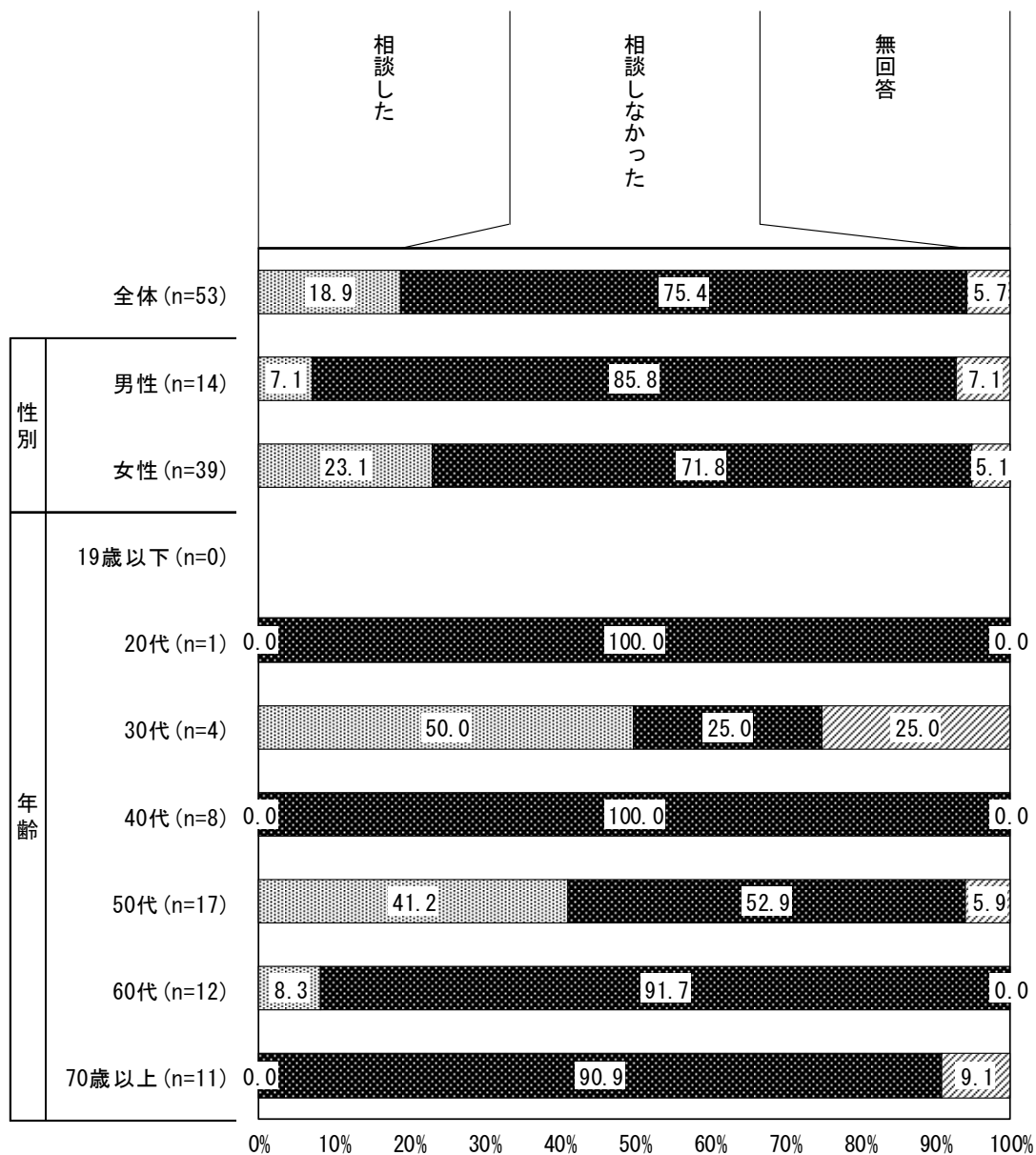
上位4項目を性別で見ると、女性で「子どもがいるから、子どものことを考えたから」(29.2%)と「経済的な不安があったから」(29.0%)が2割を超えて高くなっています。男性で「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」(28.6%)が2割を超えて高くなっています。

年齢で見ると、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」は30代(100.0%)が10割と高くなっています。

(1-4) 相談の有無（配偶者からの被害）

問 14-4 被害を受けたことについて、相談機関や知人など誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（該当するもの1つに○をしてください。）

図表 相談の有無（配偶者からの被害）



相談の有無（配偶者からの被害）について聞いたところ、「相談した」が18.9%、「相談しなかった」が75.4%となっています。

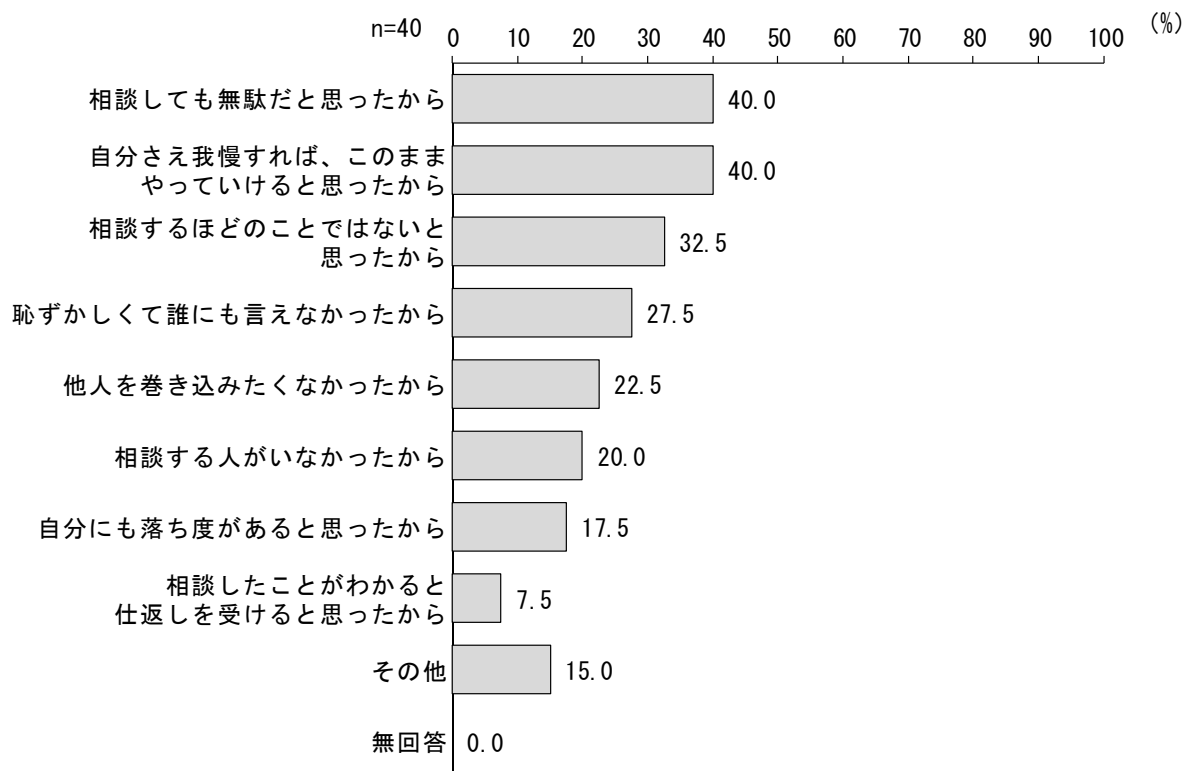
性別で見ると、「相談した」は女性が23.1%と、男性（7.1%）を16.0ポイント上回っています。

年齢で見ると、「相談した」は30代が50.0%、50代が41.2%、60代が8.3%、その他の年齢は0.0%となっています。

(1-5) 相談しなかった理由 (配偶者からの被害)

問 14-5 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 相談しなかった理由 (配偶者からの被害)

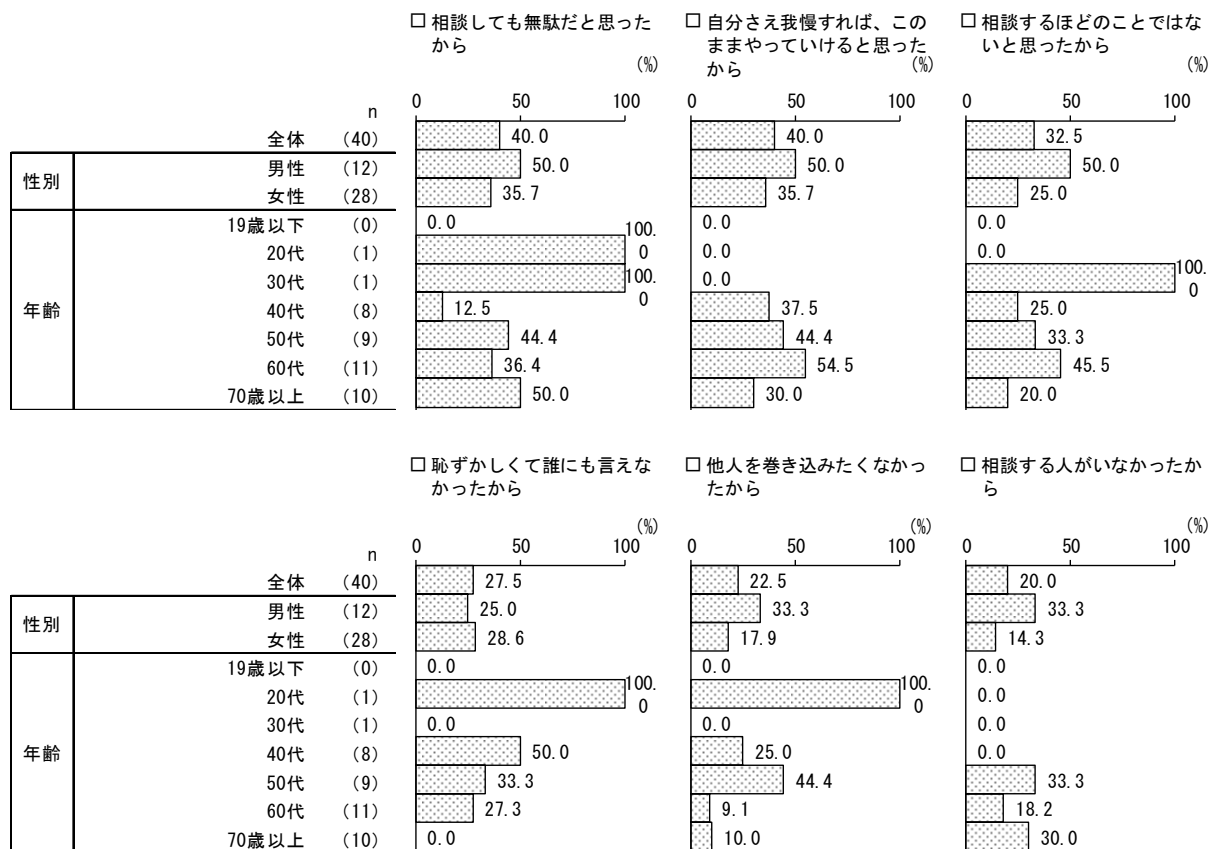


相談しなかった理由 (配偶者からの被害) について聞いたところ、「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が40.0%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が32.5%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が27.5%、「他人を巻き込みたくなかったから」が22.5%と続いています。

【その他の記載内容】

いつか別れようと思う／軽度な感情だった為／今の生活が無くなるのは嫌だから／子育てが落ち着いたら別れようと思ったから／人に話すのがみじめと感じた／二人の問題なので、とことん話し合った。

図表 相談しなかった理由（配偶者からの被害）（上位6項目・属性別）



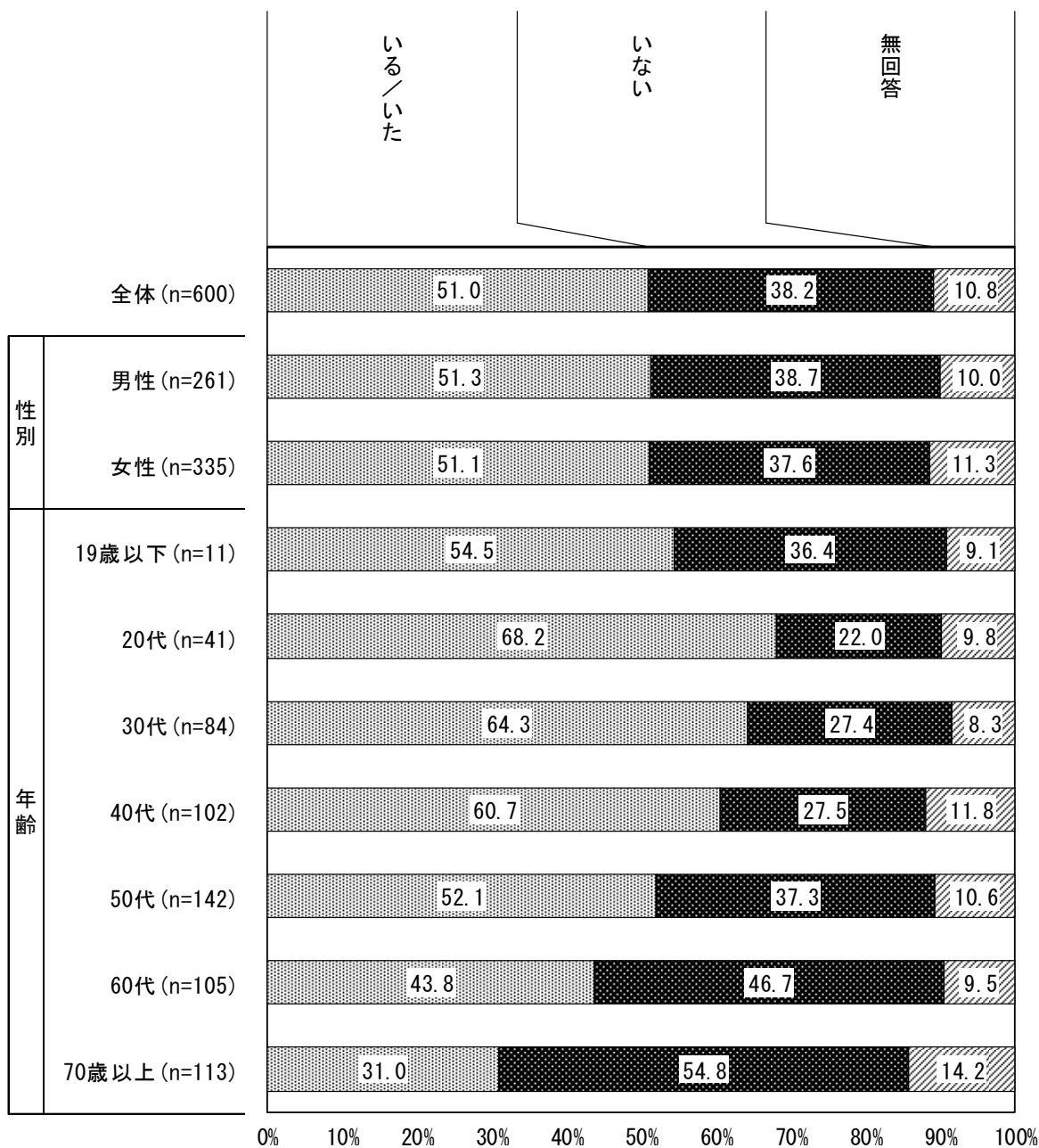
上位6項目を性別で見ると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」のみ女性（28.6%）が男性（25.0%）を上回っています。

年齢で見ると、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」で60代（54.5%）のみが5割を超えて高くなっています。

(2) 交際相手の有無

問 15 あなたは現在交際相手がいる、または過去に交際相手がありましたか。(該当するもの1つに○をしてください。)

図表 交際相手の有無



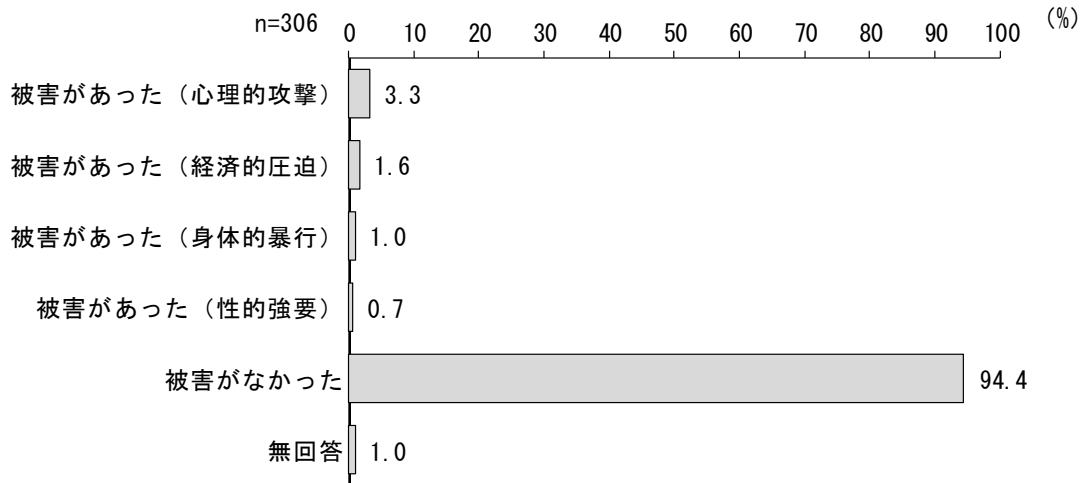
交際相手の有無について聞いたところ、「いる／いた」が51.0%、「いない」が38.2%となっています。

年齢で見ると、「いる／いた」は20代が68.2%と最も高く、30代以上は年齢が上がる割合が減少しています。

(2-1) 交際相手からの被害経験

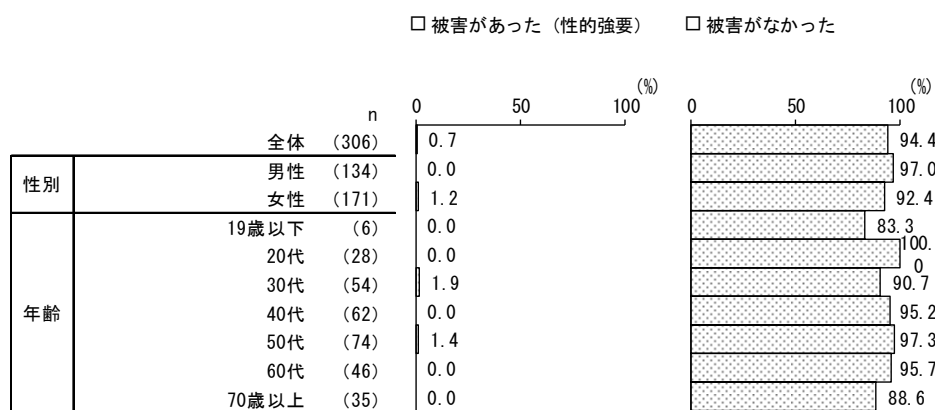
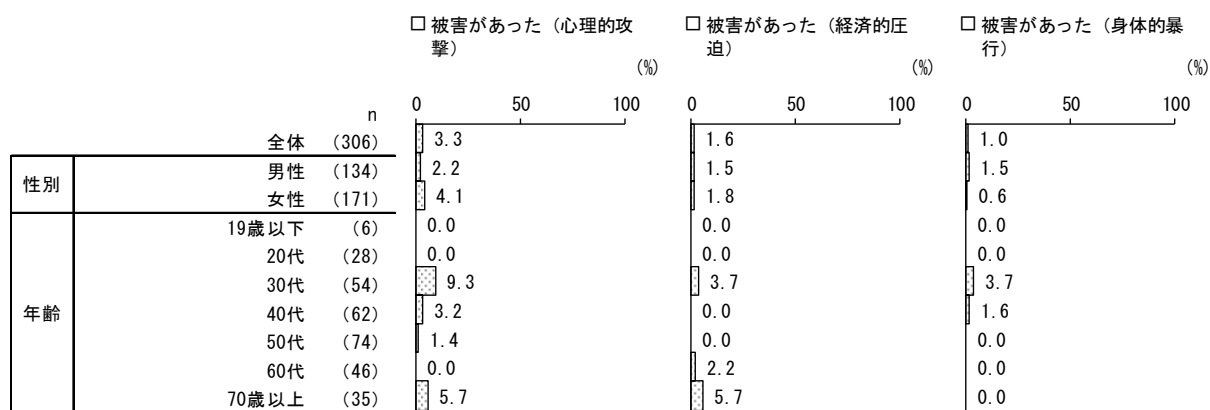
問 15-1 あなたはこの2年の間に、交際相手から身体的暴行や心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫のいずれかをされたことがありますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 交際相手からの被害経験



交際相手からの被害経験について聞いたところ、「被害があった(心理的攻撃)」が3.3%、「被害があった(経済的圧迫)」が1.6%、「被害があった(身体的暴行)」が1.0%、「被害があった(性的強要)」が0.7%と続いています。これらを合計した『被害があった』は6.6%となっています。

図表 交際相手からの被害経験（属性別）



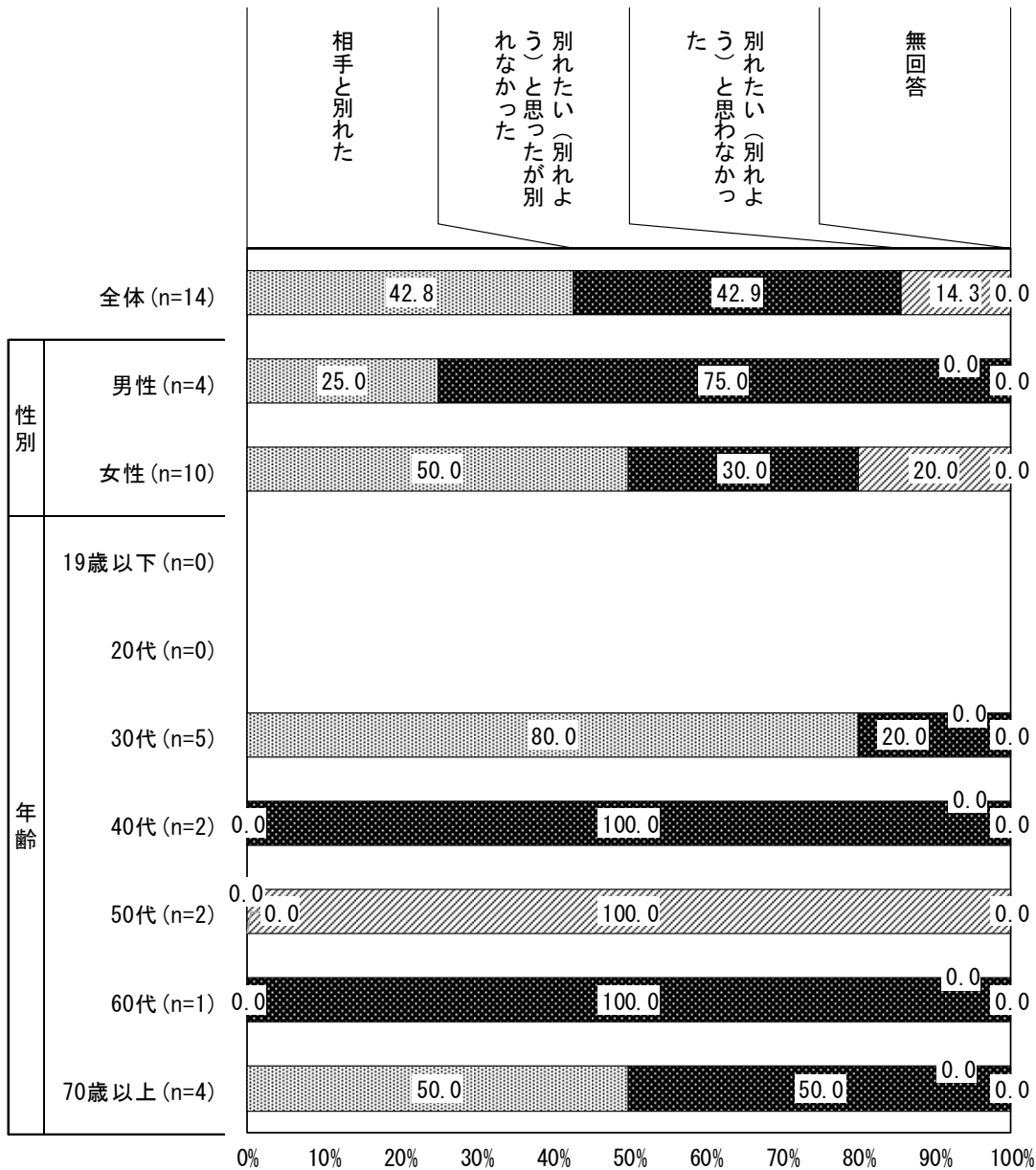
性別で見ると、「被害があった（心理的攻撃）」と「被害があった（経済的圧迫）」と「被害があった（性的強要）」で女性が男性を上回っています。また、「被害があった（心理的攻撃）」は女性が4.1%と、男性（2.2%）を1.9ポイント上回っています。

年齢で見ると、「被害があった（心理的攻撃）」は30代が9.3%と高くなっています。

(2-2) 交際相手から被害を受けたときの行動

問 15-2 あなたは、被害を受けた時、どうしましたか。(該当するもの1つに○をしてください。)

図表 交際相手から被害を受けたときの行動



交際相手から被害を受けたときの行動について聞いたところ、「相手と別れた」が42.8%、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」が42.9%、「別れたい(別れよう)と思わなかった」が14.3%となっています。

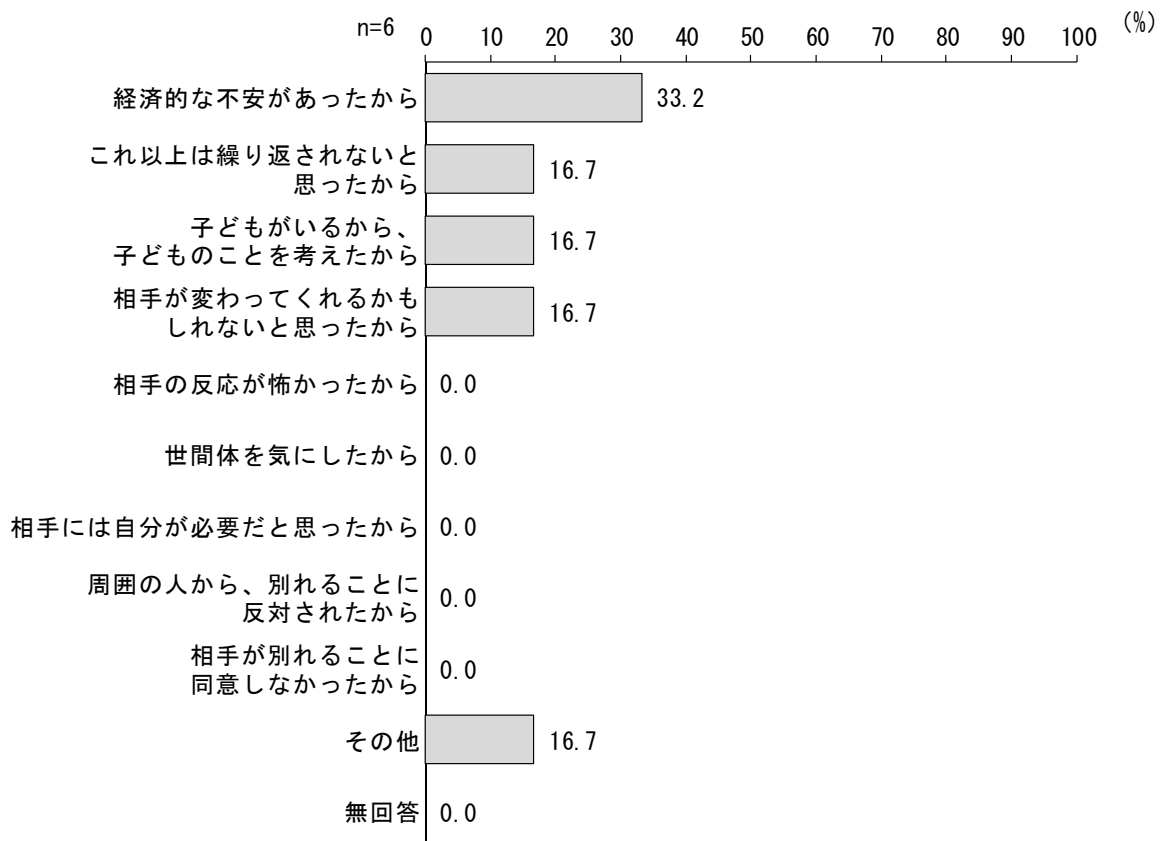
性別で見ると、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」は男性が75.0%と、女性(30.0%)を45.0ポイント上回っています。

年齢は、「別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」は40代(100.0%)と60代(100.0%)が10割と高くなっています。

(2-3) 交際相手と別れなかった理由

問 15-3 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

図表 交際相手と別れなかった理由

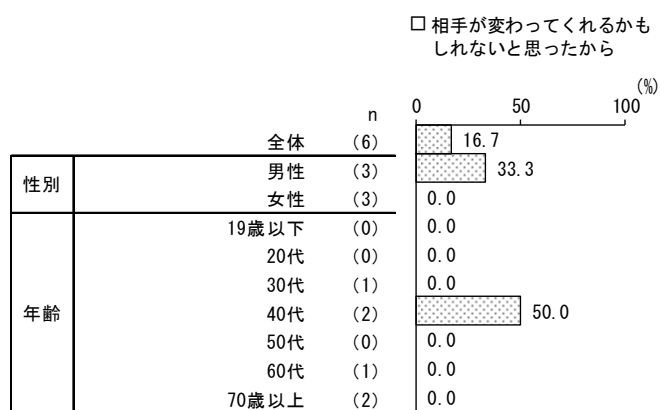
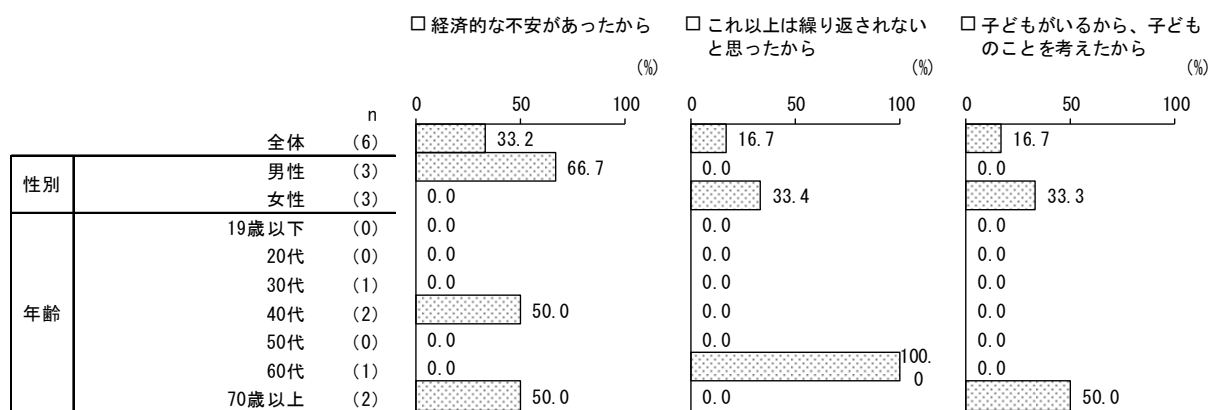


交際相手と別れなかった理由について聞いたところ、「経済的な不安があったから」が 33.2% と最も高く、次いで「これ以上は繰り返されないと考えたから」と「子どもがいるから、子どものことを考えたから」と「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が 16.7% と続いています。

【その他の記載内容】

独りになる事への不安

図表 交際相手と別れなかった理由（上位4項目・属性別）



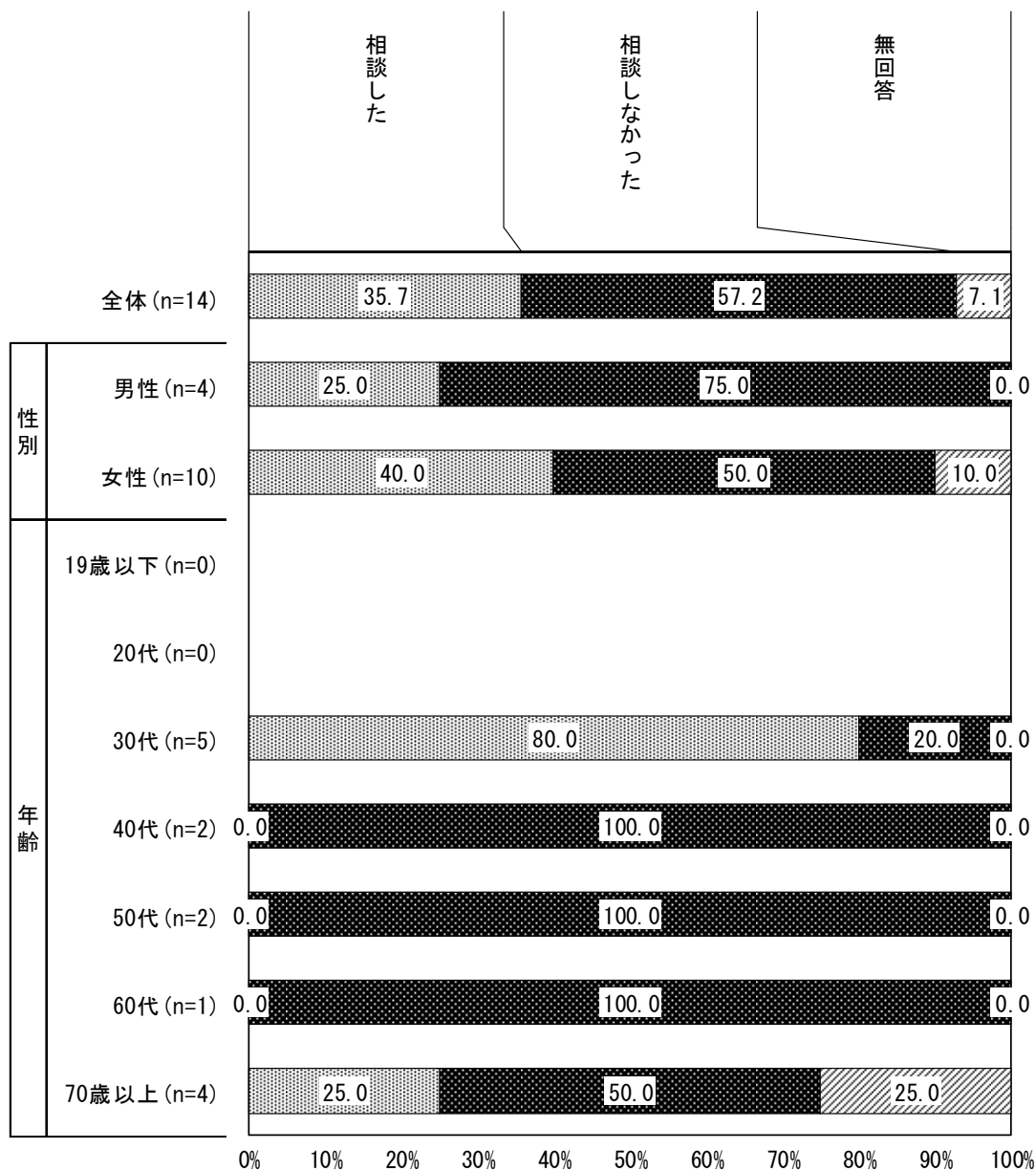
上位4項目を性別で見ると、男性は「経済的な不安があったから」と「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」、女性は「これ以上は繰り返されないと考えたから」と「子どもがいるから、子どものことを考えたから」で回答が見られます。

年齢で見ると、「経済的な不安があったから」は40代（50.0%）と70歳以上（50.0%）で、「これ以上は繰り返されないと考えたから」は60代（100.0%）で、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」は70歳以上（50.0%）で、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」は40代（50.0%）で回答が見られます。

(2-4) 相談の有無（交際相手からの被害）

問 15-4 被害を受けたことについて、相談機関や知人など誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（該当するもの1つに○をしてください。）

図表 相談の有無（交際相手からの被害）



相談の有無（交際相手からの被害）について聞いたところ、「相談した」が35.7%、「相談しなかった」が57.2%となっています。

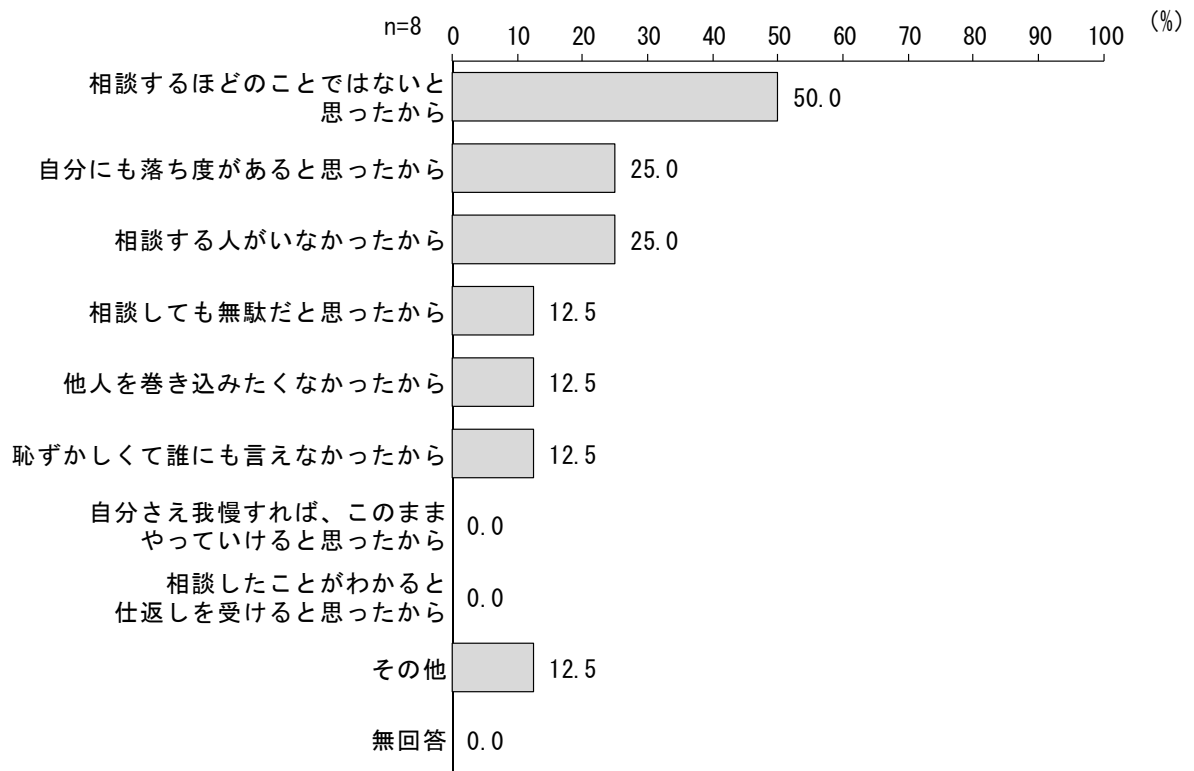
性別で見ると、「相談した」は女性が40.0%と、男性（25.0%）を15.0ポイント上回っています。

年齢で見ると、「相談した」は30代が80.0%、70歳以上が25.0%、その他の年齢は0.0%となっています。

(2-5) 相談しなかった理由 (交際相手からの被害)

問 15-5 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 相談しなかった理由 (交際相手からの被害)

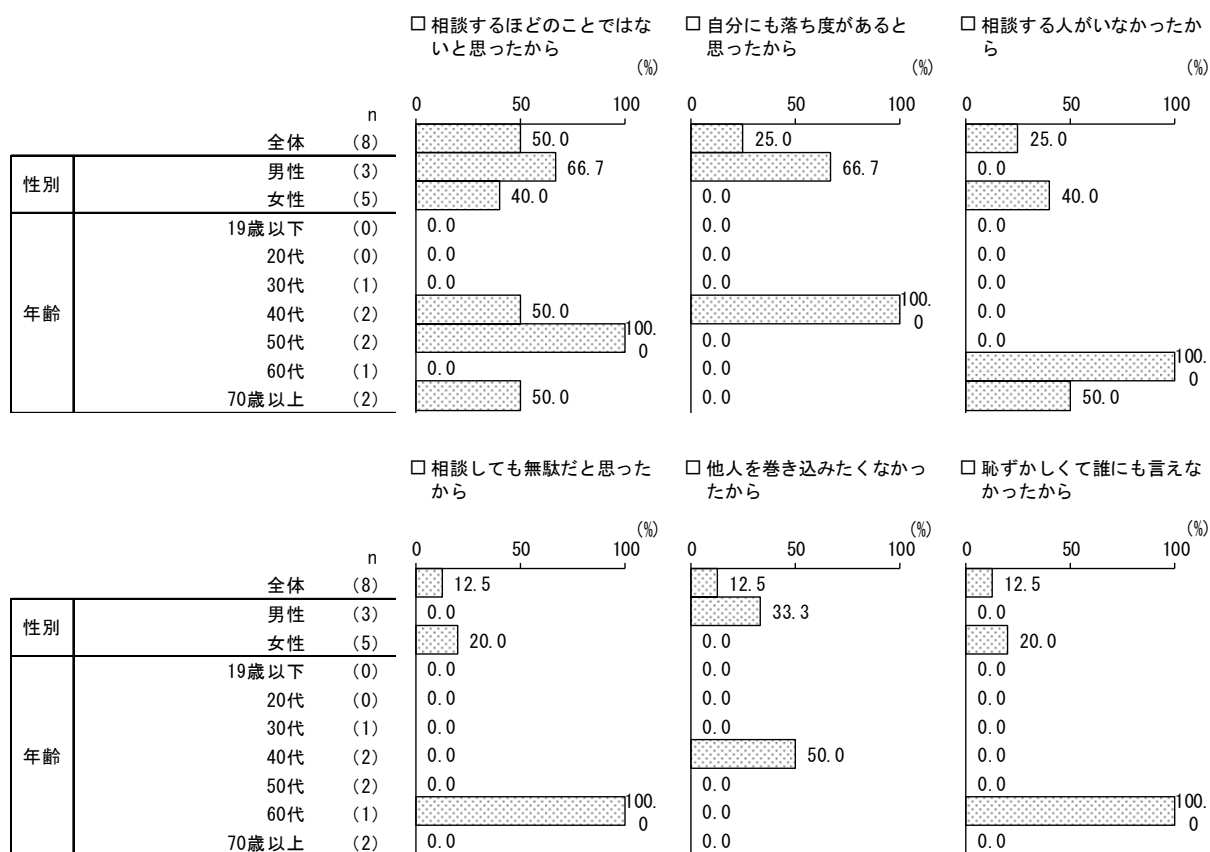


相談しなかった理由 (交際相手からの被害) について聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が50.0%と最も高く、次いで「自分にも落ち度があると思ったから」が25.0%、「相談する人がいなかったから」が25.0%、「相談しても無駄だと思ったから」が12.5%、「他人を巻き込みたくなかったから」が12.5%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が12.5%と続いています。

【その他の記載内容】

「警察に行く」と言うと、すごい勢いで謝ってくるから、許してしまった。行けばよかった。と思っている。

図表 相談しなかった理由（交際相手からの被害）（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(66.7%)と「自分にも落ち度があると思ったから」(66.7%)と「他人を巻き込みたくなかったから」(33.3%)で、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」(40.0%)と「相談する人がいなかったから」(40.0%)と「相談しても無駄だと思ったから」(20.0%)と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(20.0%)で回答が見られます。

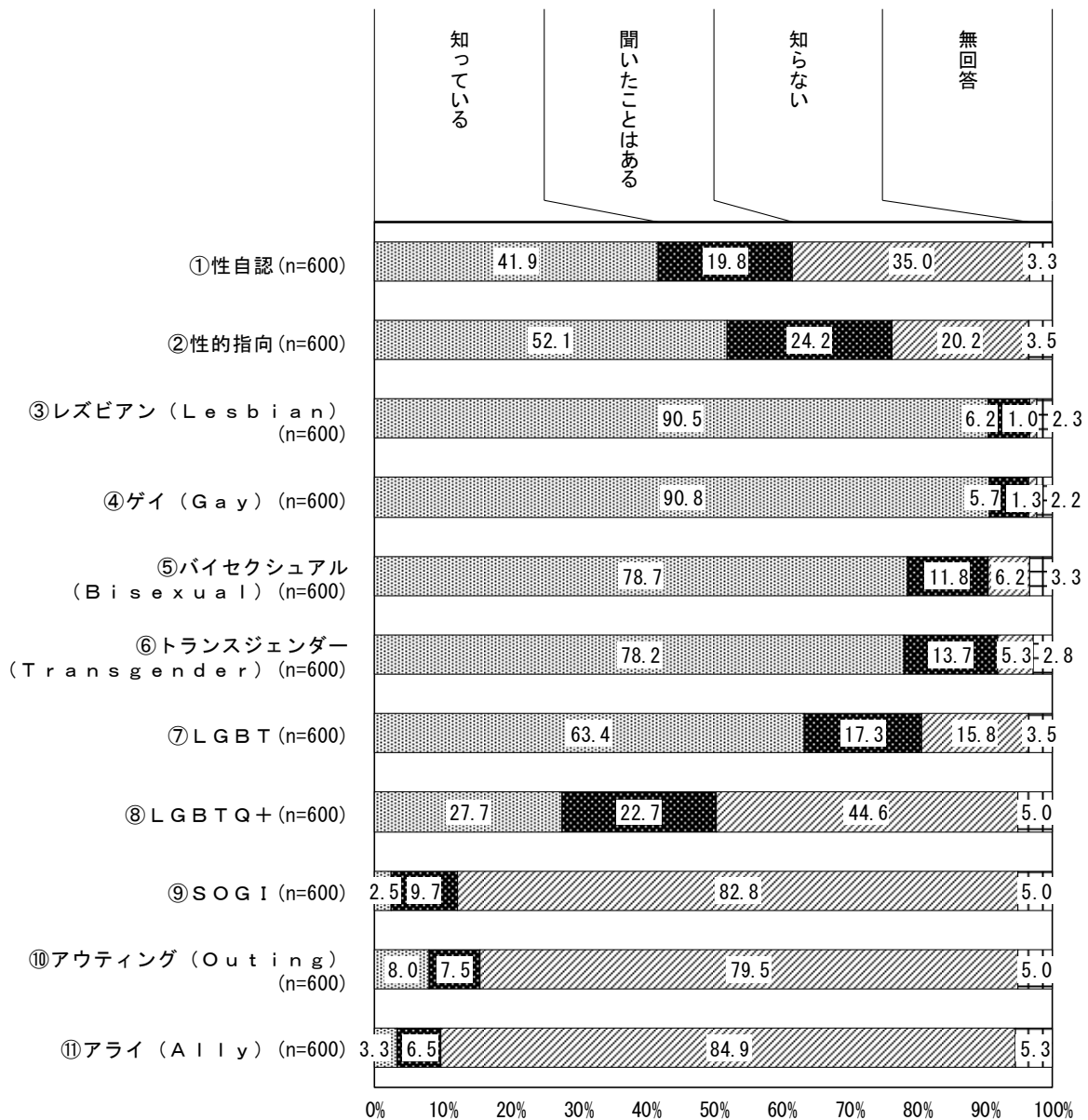
年齢で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」は40代(50.0%)と50代(100.0%)と70歳以上(50.0%)で、「自分にも落ち度があると思ったから」は40代(100.0%)で、「相談する人がいなかったから」は60代(100.0%)と70歳以上(50.0%)で、「相談しても無駄だと思ったから」は60代(100.0%)で、「他人を巻き込みたくなかったから」は40代(50.0%)で、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」は60代(100.0%)で回答が見られます。

7. セクシュアル・マイノリティについて

(1) セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度

問 16 セクシュアル・マイノリティに関する次のことばを知っていますか。(①～⑪それぞれに1つずつ○をしてください。)

図表 セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度



セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度について聞いたところ、「知っている」は【④ゲイ (Gay)】が90.8%と最も高く、次いで【③レズビアン (Lesbian)】が90.5%、【⑤バイセクシュアル (Bisexual)】が78.7%、【⑥トランスジェンダー (Transgender)】が78.2%と続いています。

一方で、【⑨SOGI】(2.5%)と【⑩アウトティング (Outing)】(8.0%)と【⑪アライ (Ally)】(3.3%)は「知っている」が1割未満とわずかしか見られません。

【参考：用語の解説】

性自認	自分の性別をどのように認識しているかということ。肉体の性別とは必ずしも一致しない。
性的指向	その人の恋愛感情や性的関心が、どの性別を対象にしているかということ。異性愛・同性愛・両性愛などがある。
レズビアン(L e s b i a n)	女性の同性愛者のこと。
ゲイ(G a y)	男性の同性愛者のこと。
バイセクシュアル(B i s e x u a l)	異性にも同性にも性的指向がある両性愛者のこと。
トランスジェンダー(T r a n s g e n d e r)	身体上の性別と自己の性自認が一致しない、性同一性に齟齬を抱えている人を指す意味で用いられる。
L G B T	旧来の典型的な「男と女」の枠組みに当てはまらない性同一性を有する人々のこと。L G B Tの「L」はレズビアン、「G」はゲイ、「B」はバイセクシュアル、「T」はトランスジェンダーの頭文字である。
L G B T Q +	L G B Tに加えて、「Q」はクエスチョニング（どのセクシュアリティにも当てはまらない人）、「+」はプラスアルファとして、L G B Tに包含されない性的少数者を表している。
S O G I	S O G Iは、S e x u a l O r i e n t a t i o n（性的指向）とG e n d e r I d e n t i t y（性自認）の英語の頭文字をとったことばのこと。
アウトィング(O u t i n g)	第三者が本人の意向を無視して、本人は公にしていないL G B Tであるということを公表すること。
アライ(A l l y)	L G B Tの当事者ではない人が、L G B Tに代表される性的マイノリティを理解し支援するという考え方、あるいはそうした立場を明確にしている人々のこと。

図表 セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度（知らないの割合・属性別）

(単位：%)

属性	知らない										
	①性自認	②性的指向	③レズビアン (Lesbian)	④ゲイ (Gay)	⑤バイセクシュアル (Bisexual)	⑥トランスジェンダー (Transgender)	⑦LGBT	⑧LGBTQ+	⑨SOGI	⑩アウトティング (Outing)	⑪アライ (Ally)
全体 (n=600)	35.0	20.2	1.0	1.3	6.2	5.3	15.8	44.6	82.8	79.5	84.9
性別											
男性 (n=261)	37.9	20.3	0.8	0.8	4.6	4.6	14.2	46.0	82.0	80.8	86.2
女性 (n=335)	33.1	20.3	1.2	1.8	7.5	6.0	17.3	44.1	83.5	78.7	84.1
年齢											
19歳以下 (n=11)	27.3	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	81.8	81.8	90.9
20代 (n=41)	26.8	14.6	0.0	0.0	0.0	2.4	9.8	24.4	90.2	87.8	92.7
30代 (n=84)	26.2	14.3	0.0	0.0	0.0	1.2	3.6	27.4	86.9	73.8	77.4
40代 (n=102)	37.3	17.6	0.0	0.0	0.0	1.0	4.9	43.1	89.1	82.4	91.1
50代 (n=142)	38.8	20.4	0.7	1.4	2.8	3.5	14.8	47.9	83.8	85.3	88.8
60代 (n=105)	38.1	21.9	1.0	1.9	6.7	5.7	18.1	49.5	81.9	79.1	88.6
70歳以上 (n=113)	36.2	27.4	2.7	3.5	23.0	15.9	38.0	61.0	70.7	71.7	73.4

「知らない」の割合を性別で見ると、【①性自認】は男性が37.9%と、女性（33.1%）を4.8ポイント上回っています。

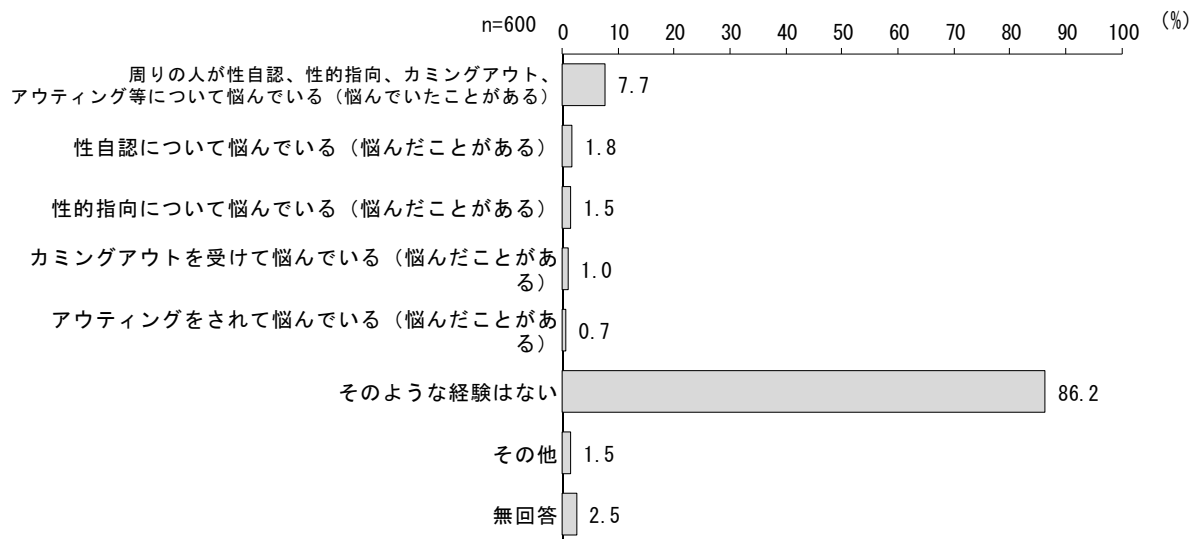
年齢で見ると、【⑦LGBT】と【⑧LGBTQ+】はおおむね年齢が上がると割合が上昇する傾向にあります。

【④ゲイ (Gay)】と【⑤バイセクシュアル (Bisexual)】は19歳以下から40代まで0.0%となっています。さらに、19歳以下では【⑥トランスジェンダー (Transgender)】と【⑦LGBT】も0.0%となっています。

(2) 性のあり方についての悩みの有無

問 17 あなたは今まで自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きした経験がありますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 性のあり方についての悩みの有無

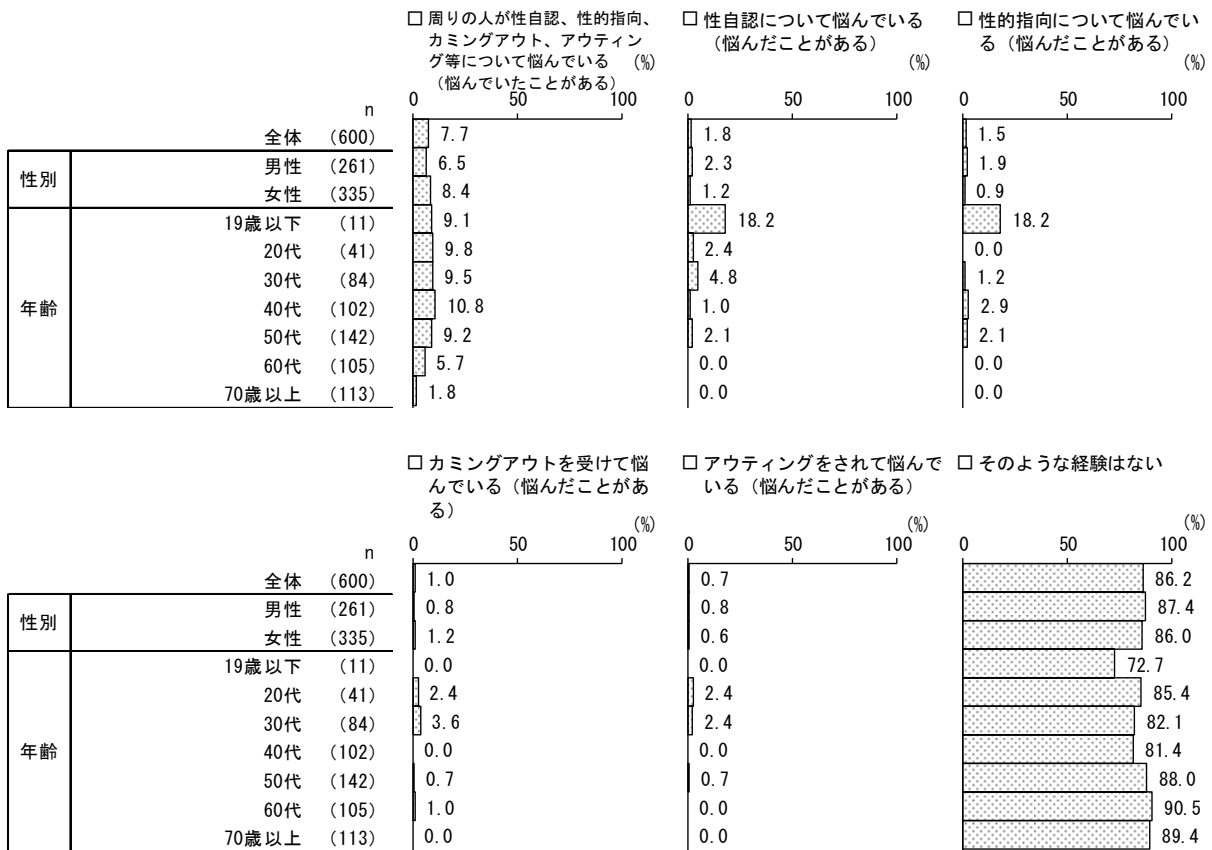


性のあり方についての悩みの有無について聞いたところ、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウトティング等について悩んでいる (悩んでいたことがある)」が 7.7%、「性自認について悩んでいる (悩んだことがある)」が 1.8%、「性的指向について悩んでいる (悩んだことがある)」が 1.5%、「カミングアウトを受けて悩んでいる (悩んだことがある)」が 1.0%、「アウトティングをされて悩んでいる (悩んだことがある)」が 0.7%と続いています。これらを合計した『悩んでいる (悩んだことがある)』は 12.7%となっています。

【その他の記載内容】

カミングアウトされている／カミングアウトを受けたが、自身が悩む必要はないと思っており、相手との接し方や自身の発言に気を付けた。／カミングアウトを受けたが、別に悩まない。／映画等などで認識し、お気持ちを汲み取る努力はする。／親戚に女子→男子になった子がいるが、自分の人生だから幸せになってもらいたい。／相談(友人)やカミングアウトを受けたことはあるが、悩んだことはない。その人達にとって、生きやすい当たり前の世の中になれば良いだけ。／悩みではないが、周りの人の中に「自分はLGBTQ+に入ると思う」と、相談めいたことをされたことはある。／臨床心理士として働いている際に、そのような悩みを持つ方とお会いしたことがあります。

図表 性のあり方についての悩みの有無（属性別）



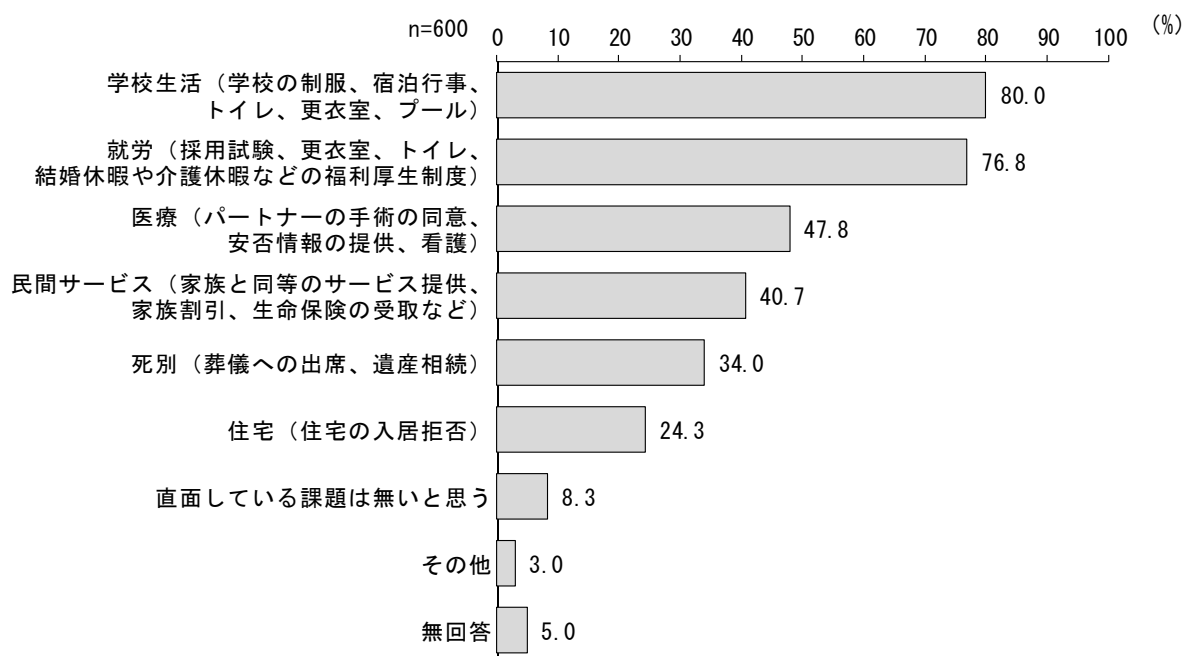
性別で見ると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウトティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」は女性が8.4%と、男性（6.5%）を1.9ポイント上回っています。

年齢で見ると、「周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウトティング等について悩んでいる（悩んでいたことがある）」で40代（10.8%）、「性自認について悩んでいる（悩んだことがある）」で19歳以下（18.2%）、「性的指向について悩んでいる（悩んだことがある）」で19歳以下（18.2%）が1割を超えて高くなっています。

(3) セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題

問 18 あなたはセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題



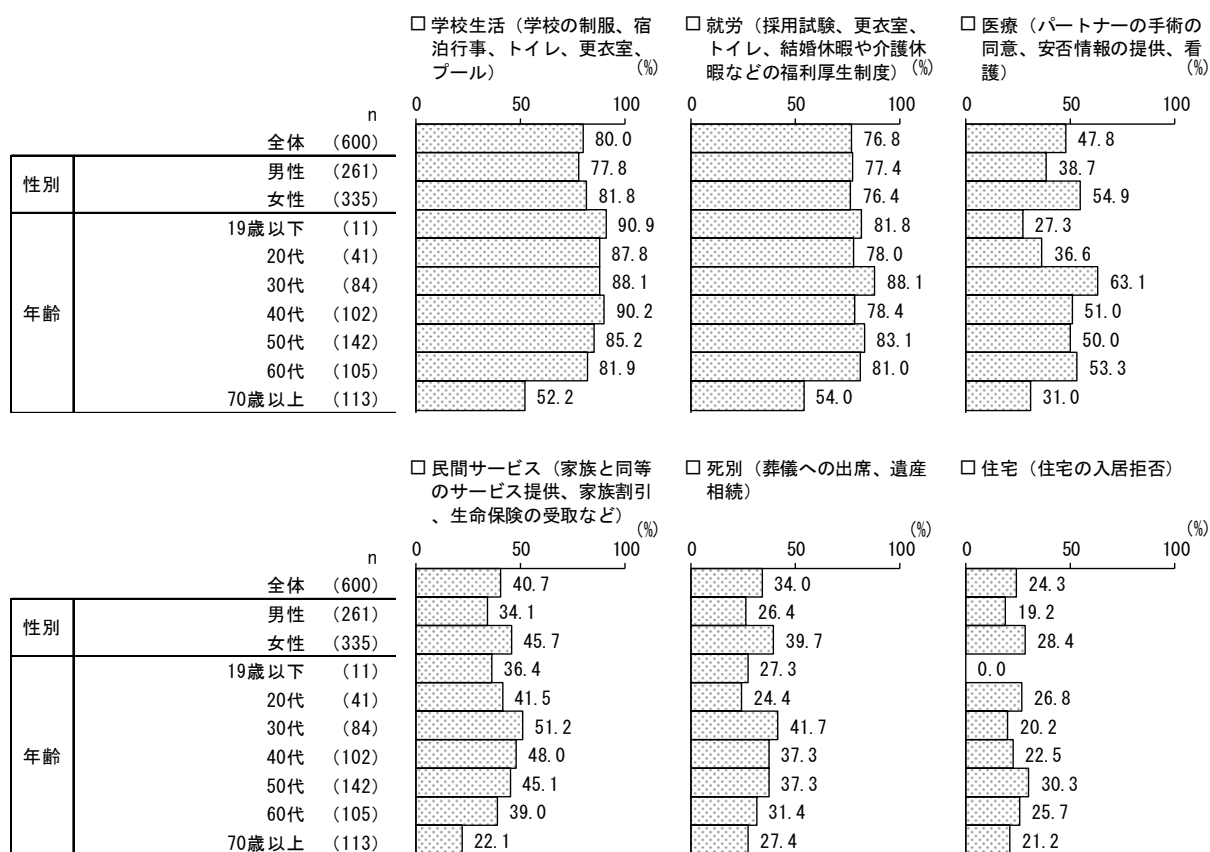
セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題について聞いたところ、「学校生活 (学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール)」が 80.0%と最も高く、次いで「就労 (採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度)」が 76.8%、「医療 (パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護)」が 47.8%、「民間サービス (家族と同等のサービス提供、家族割引、生命保険の受取など)」が 40.7%、「死別 (葬儀への出席、遺産相続)」が 34.0%と続いています。

一方で、「直面している課題は無いと思う」は 8.3%となっています。

【その他の記載内容】

なし／家族関係／結婚／結婚／戸籍の在り方など／周りにセクシャルマイノリティはおらず。法律での保護は不必要。／選択の自由、人の目／知りたくない／直面したことがない為分からない／同性間のパートナーであるゆえに婚姻関係を認められないこと自体／分からない。世の中はこれまで大きな問題として社会も取り上げてこなかったのに、何故最近になって問題視されるようになったのか？ (最近になってマイノリティが急増したということ？)

図表 セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）」のみ男性（77.4%）が女性（76.4%）を上回っています。「医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）」は女性が54.9%と、男性（38.7%）を16.2ポイント上回っています。

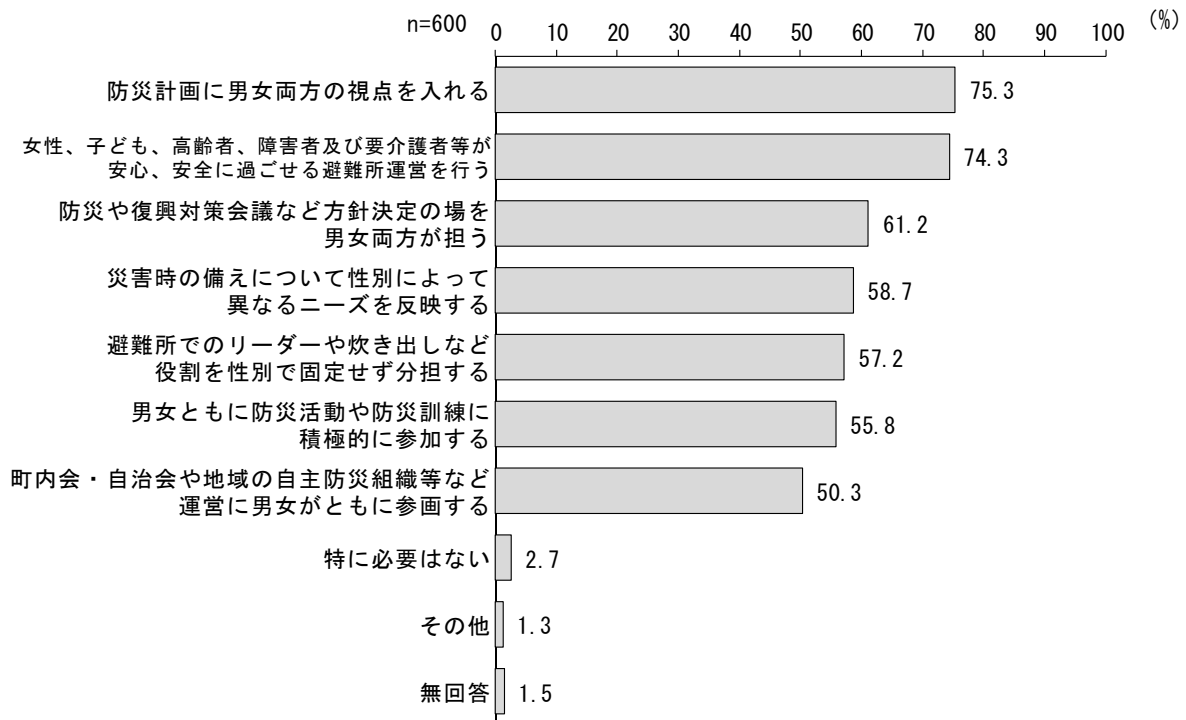
年齢で見ると、「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」と「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）」で70歳以上のみが5割台と低くなっています。

8. 防災に関する男女平等参画に向けた取組について

(1) 防災に関する男女平等参画に向けた取組

問 19 防災活動や災害発生時の対応にも男女平等参画の視点が必要だと言われています。今後、防災分野で男女平等参画の視点を生かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

図表 防災に関する男女平等参画に向けた取組



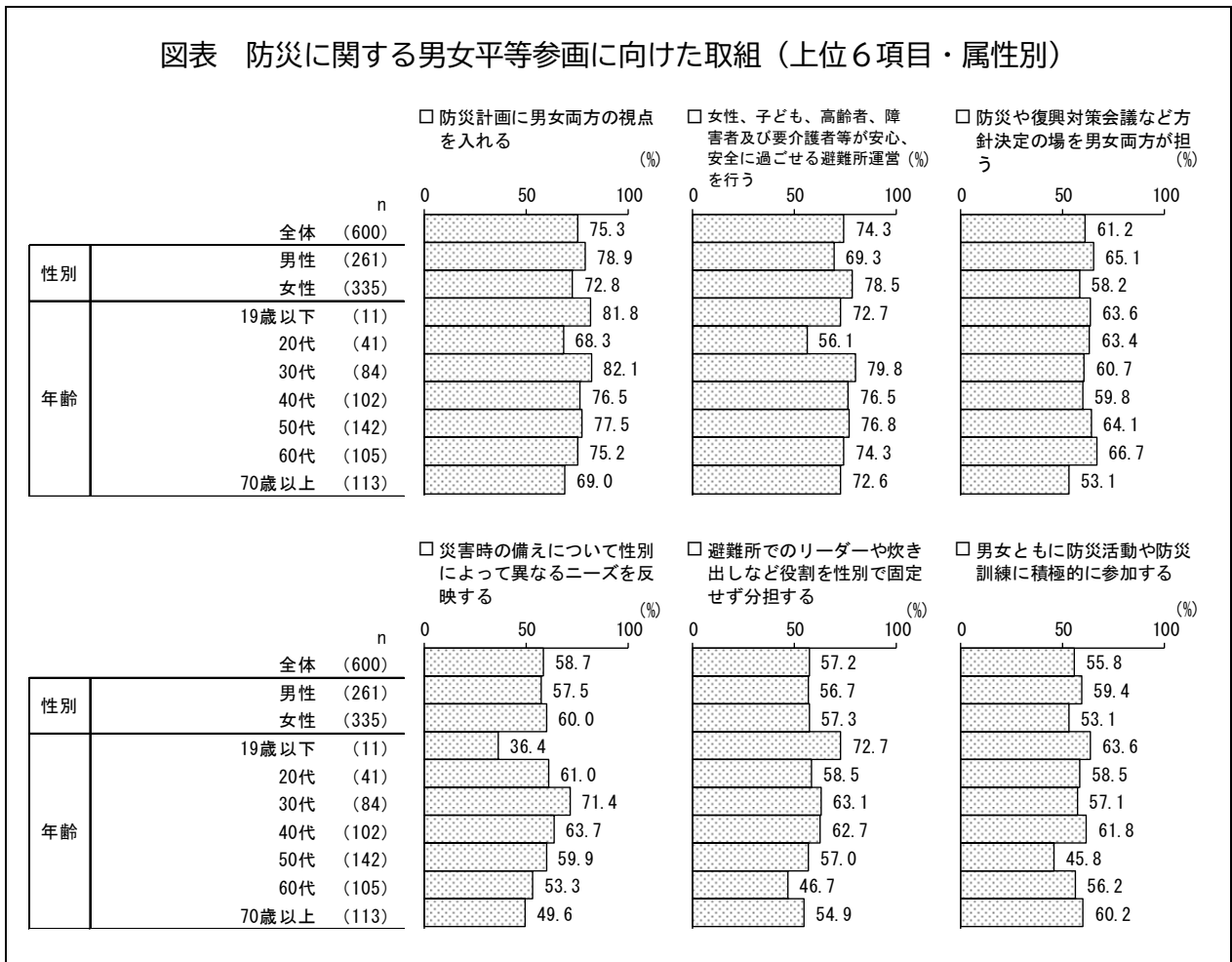
防災に関する男女平等参画に向けた取組について聞いたところ、「防災計画に男女両方の視点を入れる」が75.3%と最も高く、次いで「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」が74.3%、「防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う」が61.2%、「災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する」が58.7%、「避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する」が57.2%、「男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する」が55.8%、「町内会・自治会や地域の自主防災組織等など運営に男女がともに参画する」が50.3%と5割を超えて続いています。

一方で、「特に必要はない」は2.7%しか見られません。

【その他の記載内容】

フェムテックを導入してほしい（生理用品など）／むしろ男は仕事で不在にしている前提で、女性のみ自宅で被災したシチュエーションで防災計画を立案すべき。／今、自分自身が介護されている身により相手が行動出来ない面もあると思います。でもこのアンケートに参加して、夫婦間の問題の難しさに思い知りました。／災害時は緊急性があるため適材適所に分担すべき。平等とか言われてられないと思う。／子どもに対しての支援、アレルギー児や多動などの目に見えない障害のある子、家族に対する支援が必要。／上記は現状実施されていない事ではないと思いますが、みんなの認識格差がなくなるといいと痛感します。／男女平等だとは思いますが、適材適所だと思う。力仕事は男性とか、炊き出しとかは男女とか、支援物資の配布・管理とかは女性が得意そう。／男性は火をつけたり、重い物を持ったり、女性はスープをよそって配る等、分担すればいい。←炊き出しの場合

図表 防災に関する男女平等参画に向けた取組（上位6項目・属性別）



上位6項目を性別で見ると、「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」は女性が78.5%と、男性（69.3%）を9.2ポイント上回っています。

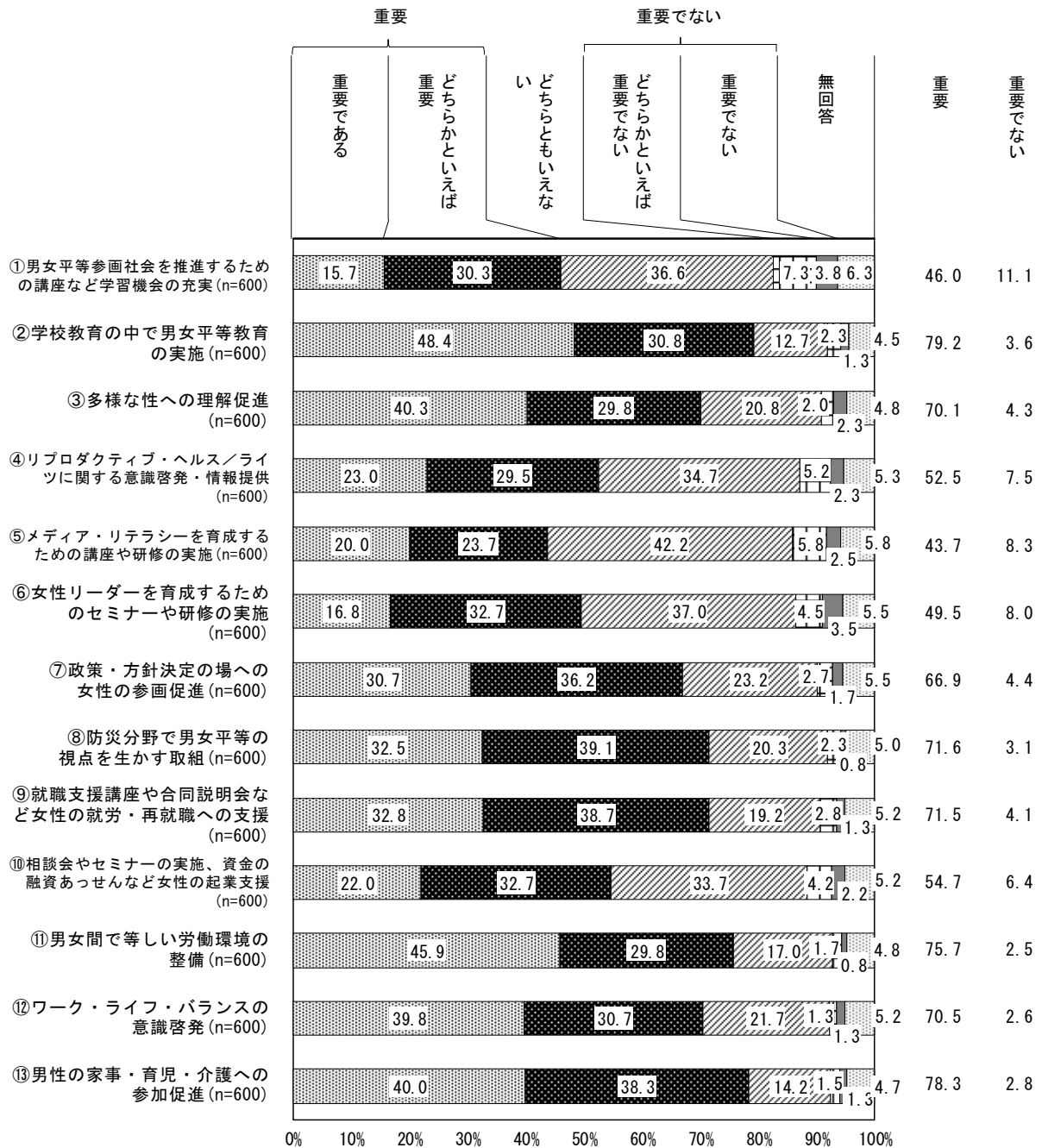
年齢で見ると、「災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する」は30代(71.4%)のみが7割を超えて高くなっています。また、「避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する」は19歳以下（72.7%）のみが7割を超えて高くなっています。

9. 立川市の男女平等参画に向けた取組について

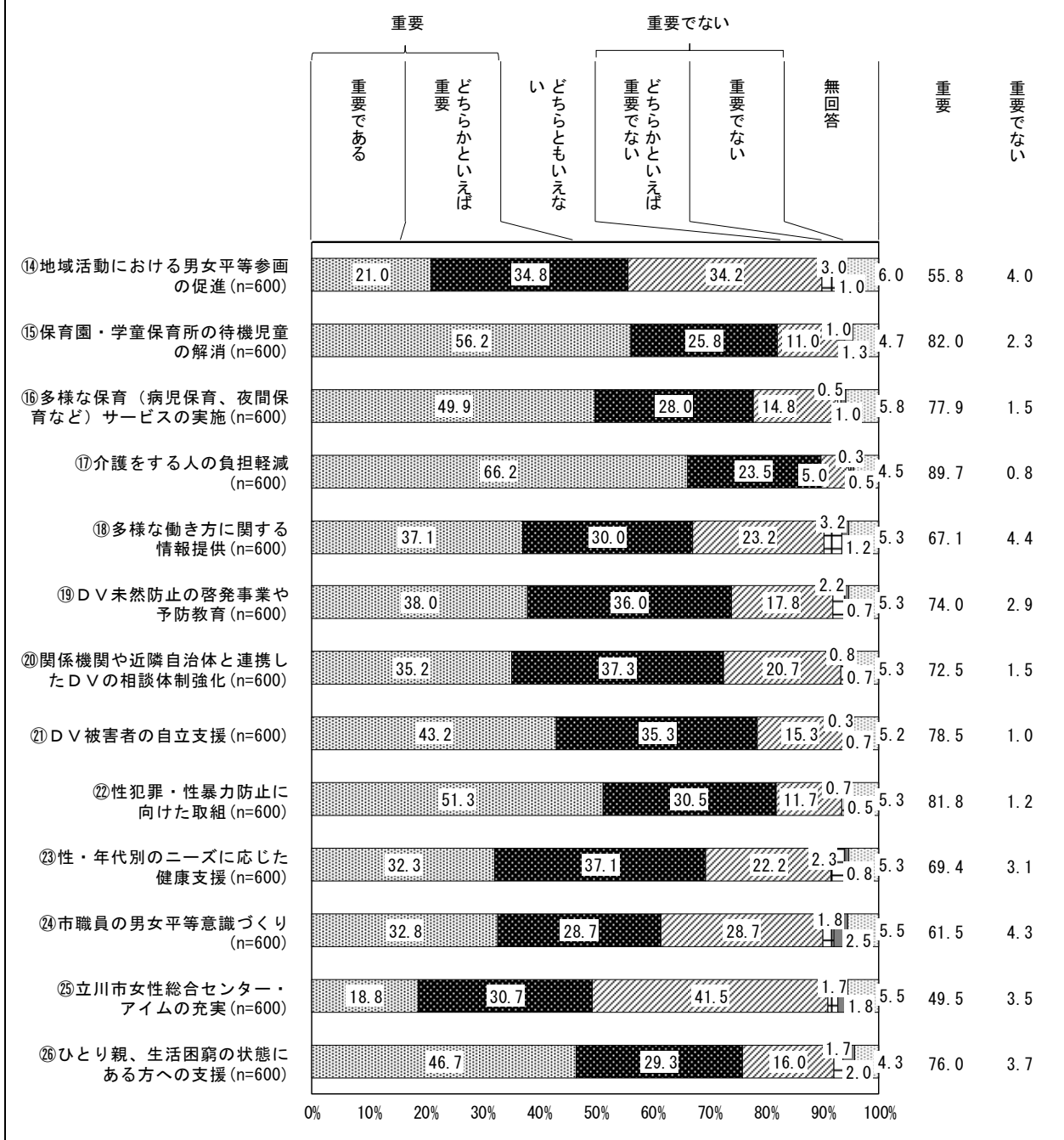
(1) 立川市の男女平等参画に向けた取組についての重要度と満足度

問 20 男女平等参画の推進に向け、今後立川市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(①～⑬それぞれに対して、重要度、満足度のあてはまるものに1つずつ○をしてください。)

図表 【重要度】立川市の男女平等参画に向けた取組について (1 / 2)



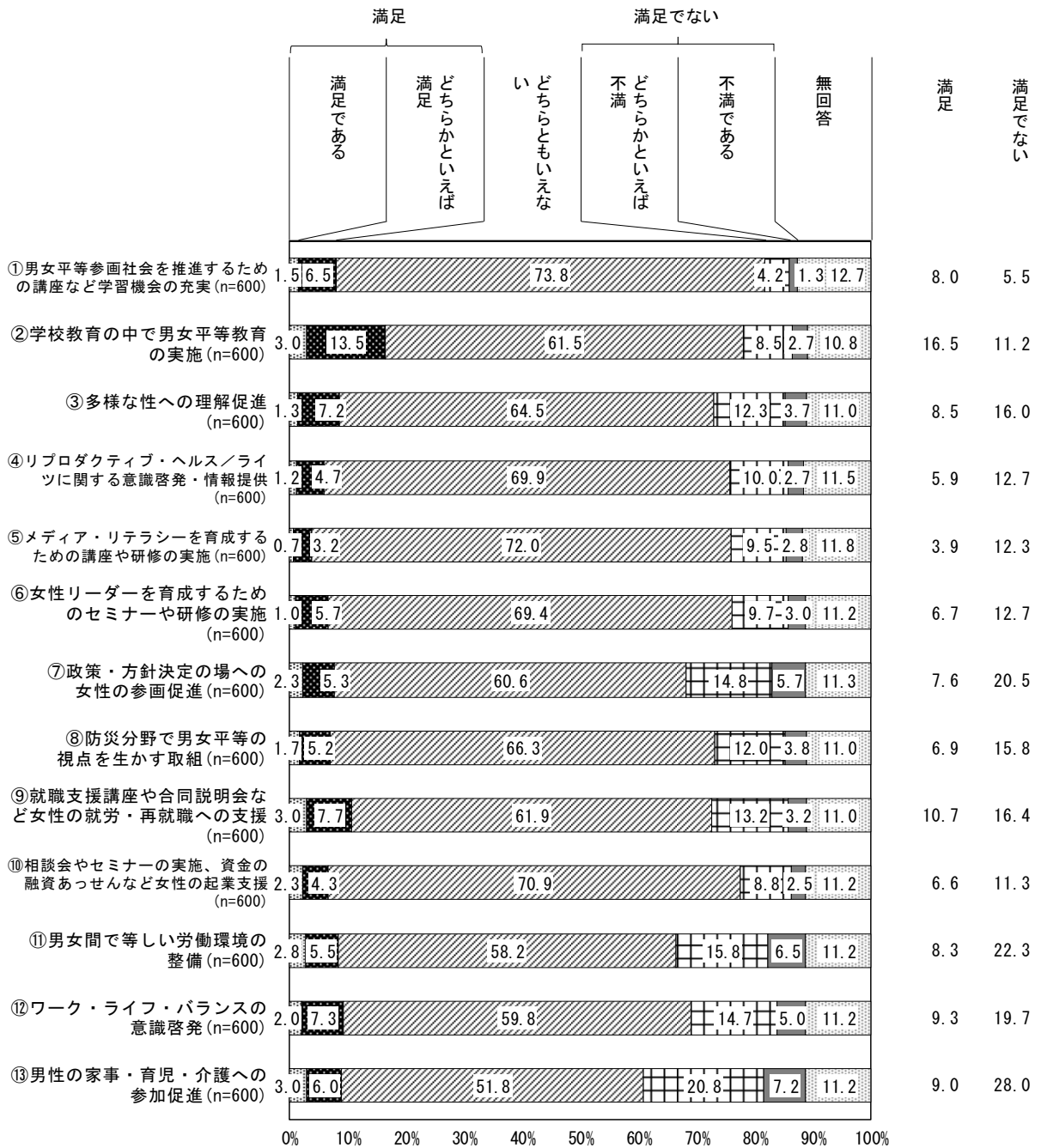
図表 【重要度】立川市の男女平等参画に向けた取組について（2/2）



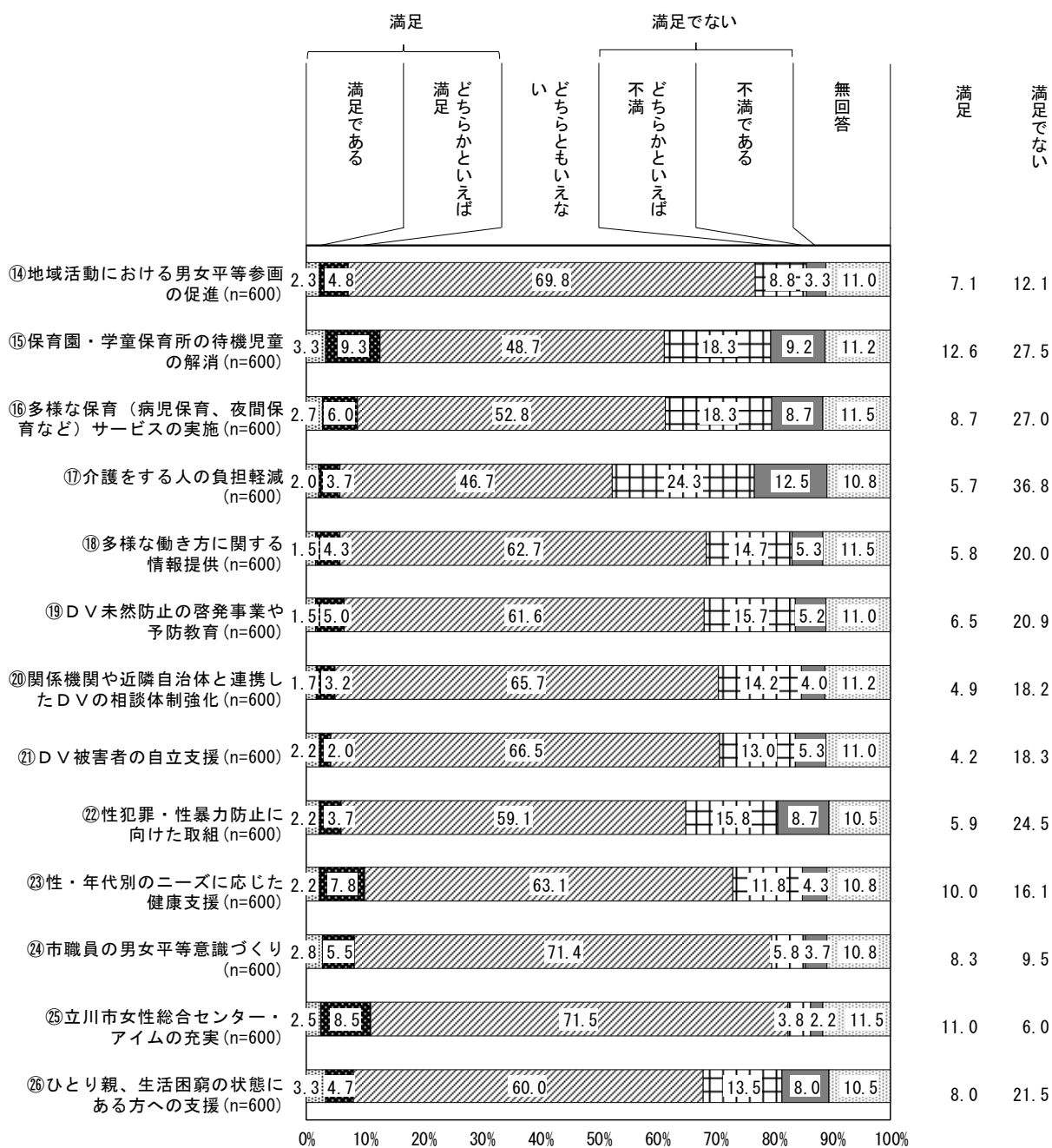
立川市の男女平等参画に向けた取組についての重要度について聞いたところ、全ての項目で『重要』が『重要でない』を上回っています。

『重要』は【⑰介護をする人の負担軽減】が89.7%と最も高く、次いで【⑮保育園・学童保育所の待機児童の解消】が82.0%、【⑲性犯罪・性暴力防止に向けた取組】が81.8%、【⑲学校教育の中で男女平等教育の実施】が79.2%、【⑲DV被害者の自立支援】が78.5%、【⑲男性の家事・育児・介護への参加促進】が78.3%と続いています。

図表 【満足度】立川市の男女平等参画に向けた取組について（1／2）



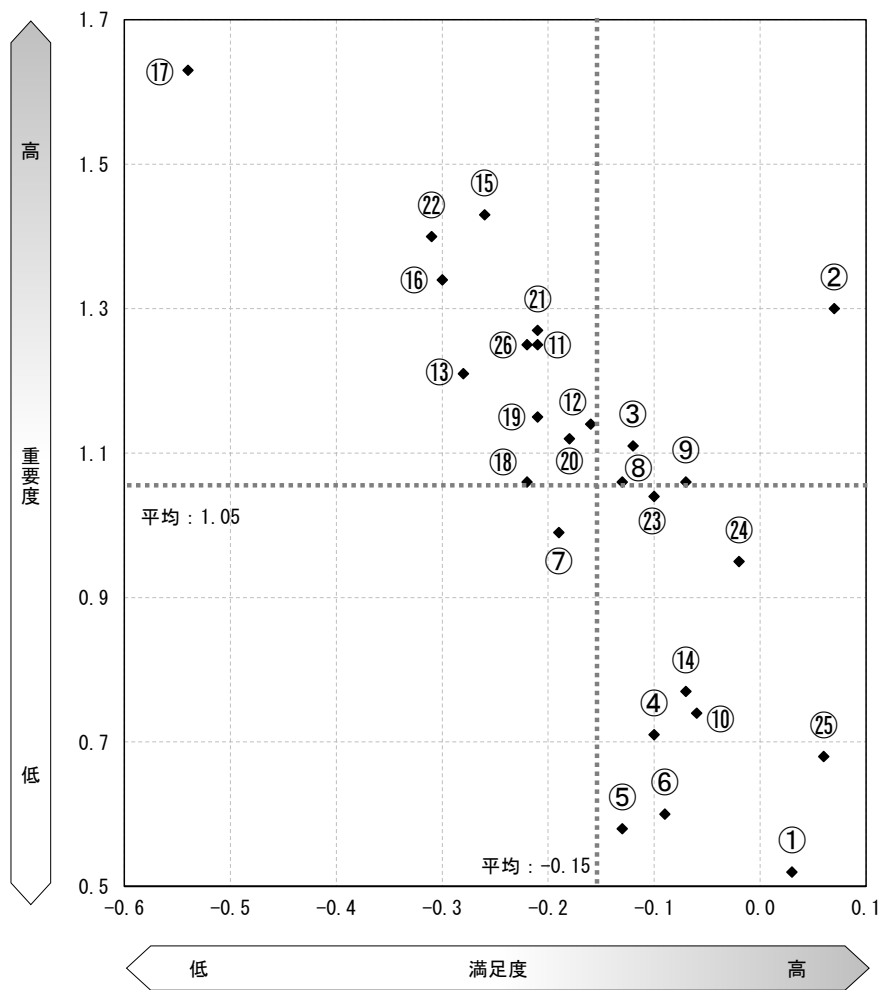
図表 【満足度】立川市の男女平等参画に向けた取組について（2/2）



立川市の男女平等参画に向けた取組についての満足度について聞いたところ、『満足』が『満足でない』を上回っている項目は【①男女平等参画社会を推進するための講座など学習機会の充実】と【②学校教育の中で男女平等教育の実施】と【⑤立川市女性総合センター・アイムの充実】の3つとなります。【②学校教育の中で男女平等教育の実施】が16.5%と最も高く、次いで【⑤保育園・学童保育所の待機児童の解消】が12.6%、【⑤立川市女性総合センター・アイムの充実】が11.0%と続いています。

一方で、『満足でない』は【⑰介護をする人の負担軽減】(36.8%)のみが3割を超えて高くなっています。

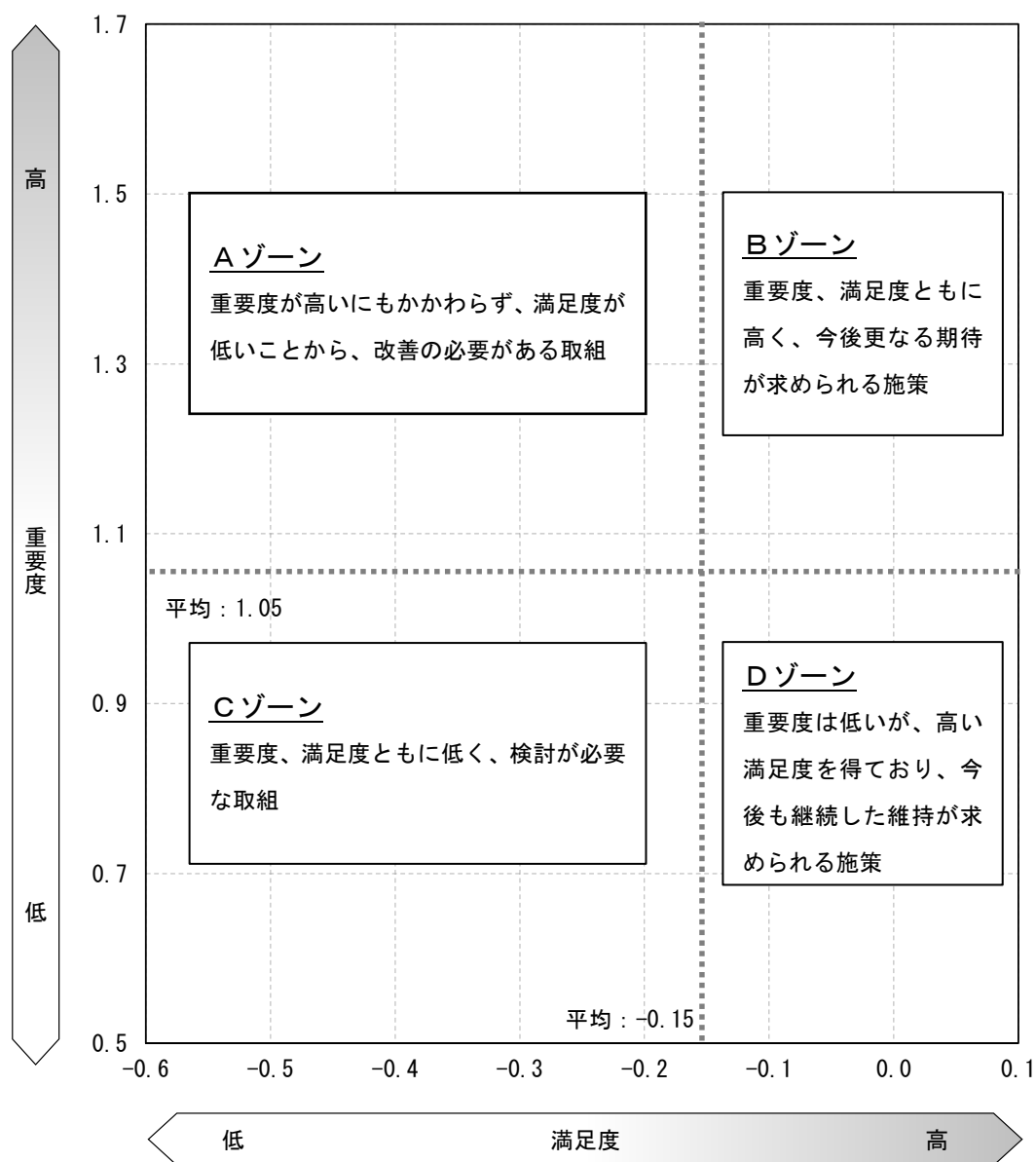
図表 立川市の男女平等参画に向けた取組についての重要度と満足度（散布図）



- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| ①男女平等参画社会を推進するための講座など学習機会の充実 | ⑭地域活動における男女平等参画の促進 |
| ②学校教育の中で男女平等教育の実施 | ⑮保育園・学童保育所の待機児童の解消 |
| ③多様な性への理解促進 | ⑯多様な保育（病児保育、夜間保育など）サービスの実施 |
| ④リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する意識啓発・情報提供 | ⑰介護をする人の負担軽減 |
| ⑤メディア・リテラシーを育成するための講座や研修の実施 | ⑱多様な働き方に関する情報提供 |
| ⑥女性リーダーを育成するためのセミナーや研修の実施 | ⑲DV未然防止の啓発事業や予防教育 |
| ⑦政策・方針決定の場への女性の参画促進 | ⑳関係機関や近隣自治体と連携したDVの相談体制強化 |
| ⑧防災分野で男女平等の視点を生かす取組 | ㉑DV被害者の自立支援 |
| ⑨就職支援講座や合同説明会など女性の就労・再就職への支援 | ㉒性犯罪・性暴力防止に向けた取組 |
| ⑩相談会やセミナーの実施、資金の融資あっせんなど女性の起業支援 | ㉓性・年代別のニーズに応じた健康支援 |
| ⑪男女間で等しい労働環境の整備 | ㉔市職員の男女平等意識づくり |
| ⑫ワーク・ライフ・バランスの意識啓発 | ㉕立川市女性総合センター・アイムの充実 |
| ⑬男性の家事・育児・介護への参加促進 | ㉖ひとり親、生活困窮の状態にある方への支援 |

満足度・重要度それぞれのスコアを算出し、4つのゾーンに分けて散布図を作成しました。

それぞれ、「重要／満足である」を2点、「どちらかといえば重要／満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「どちらかといえば重要でない／不満」を-1点、「重要でない／不満である」を-2点として、合計値を有効回答数で除して重要度・満足度をそれぞれ算出しました。



Aゾーンは、重要度が平均を超えて市民ニーズがあるにもかかわらず、満足度が平均以下の項目となっており、優先的な改善が求められている項目群です。

今回の調査結果でAゾーンは【⑪男女間で等しい労働環境の整備】と【⑫ワーク・ライフ・バランスの意識啓発】と【⑬男性の家事・育児・介護への参加促進】と【⑮保育園・学童保育所の待機児童の解消】と【⑯多様な保育（病児保育、夜間保育など）サービスの実施】と【⑰介護をする人の負担軽減】と【⑱多様な働き方に関する情報提供】と【⑲DV未然防止の啓発事業や予防教育】と【⑳関係機関や近隣自治体と連携したDVの相談体制強化】と【㉑DV被害者の自立支援】と【㉒性犯罪・性暴力防止に向けた取組】と【㉓ひとり親、生活困窮の状態にある方への支援】の12項目となります。

10. 立川市第7次男女平等参画推進計画で掲げた指標と目標値

立川市第7次男女平等参画推進計画では、計画の進捗状況や達成度を確認するため、基本テーマごとに指標と目標値を設定しました。その一部に、本調査の結果から達成度を確認できる項目があるため、以下の表にまとめています。

夫婦間における各行為について暴力だと思ふ人の割合は、いずれの項目も目標値までは到達していませんが、平成27年度よりも改善が見られます。

女性総合センター・アトムカウンセリング相談の周知度は目標値に到達していないものの、周知度は向上しています。

過去2年間にドメスティック・バイオレンスの被害を経験した人の割合は、根絶できなかったものの、女性・男性ともに割合が減少しています。

一方で、配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに（誰かに）相談した人の割合については減少しています。

指標	基準値 (平成27年度)	目標値 (令和6年度)	調査の結果 (令和4年度)
夫婦間における ①「平手で打つ」 ②「殴るふりをして脅す」 ③「交友関係を細かく監視する」 ④「家計に必要な生活費を渡さない」 の各行為について暴力だと思ふ人の割合	①75.1% ②64.6% ③48.9% ④62.8%	①100.0% ②100.0% ③100.0% ④100.0%	①91.7% ②80.4% ③57.1% ④75.3%
女性総合センター・アトムカウンセリング相談の周知度	20.9%	50.0%	30.5%
配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに（誰かに）相談した人の割合	54.2%	80.0%	18.9%
過去2年間にドメスティック・バイオレンスの被害を経験した人の割合※	男性 7.6% 女性 20.5%	根絶を目指す	男性 6.5% 女性 13.7%

※問14-1及び問15-1のどちらか片方でも、「被害があった（身体的暴行）」「被害があった（心理的攻撃）」「被害があった（性的強要）」「被害があった（経済的圧迫）」のいずれかを回答した方の割合です。

11. 自由意見

(1) 自由意見の概要

自由意見としてご記入いただいた内容を、「立川市第7次男女平等参画推進計画」の内容に基づいて分類したところ、次のような件数となりました。

男女平等参画推進に関する内容

基本テーマ	施策と事業	件数
Ⅰ 男女平等参画と人権の意識づくり	Ⅰ－1 男女平等参画の意識づくり	27
	Ⅰ－2 人権の意識づくり	9
Ⅱ あらゆる分野での男女平等参画の推進	Ⅱ－1 政策・方針決定の場への女性参画の促進	6
	Ⅱ－2 女性のチャレンジへの支援	6
Ⅲ 男女が働きやすい環境づくりの推進	Ⅲ－1 男女の雇用機会と待遇の均等の確保	1
	Ⅲ－2 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり	2
	Ⅲ－3 男女の多様な働き方のための子育て支援	11
	Ⅲ－4 男女の多様な働き方のための介護支援	0
	Ⅲ－5 多様な働き方への支援	2
Ⅳ 配偶者等からの暴力の防止	Ⅳ－1 暴力の未然防止と早期発見	5
	Ⅳ－2 相談体制の充実	2
	Ⅳ－3 被害者の自立の支援	0

その他の内容

基本テーマ	施策と事業	件数
アンケート調査関連	アンケートそのものについて	16
	アンケートへの感想	14
	回答の難しさについて	12
	インターネット回答の実施について	5
市政や施策について	市政について	19
	家計・経済の問題	7
	子育て支援	6
	広報活動について	4
	社会課題について	3
	住みやすさについて	3
その他		15
特にない		2

(2) 自由意見の詳細 (男女平等参画推進に関する内容)

I-1 男女平等参画の意識づくり

性別	年齢	内容
男性	20代	平等も難しく、男性と女性で向いていること向いていないこと等あると思うので、絶対平等というのも難しいと思います。ただ、それを除いて同一賃金同一労働などは守られるべきだと思います。
男性	30代	平等という言葉が平等ではなくなっている場合もあるという事を忘れてはいけない。意見欄が少なすぎる。書ききれない。そんなくだらないアンケートなんてするな。
男性	30代	男女平等参画が、女性の社会進出ありきの議論になっていないだろうか？男性の不利益にフォーカスが当たっているだろうか？社会進出を望まずに、専業主婦(夫)になりたい方々の意見を無視していないだろうか？この点も意識した上で、より良い立川市を目指して頂きたい。
男性	50代	平等という概念を画一する事自体は、不可能と感じます。性別が違うという「違い」を認め合い、認識しあえる社会。利潤追求が、最優先されるロジックも見直されると良いのかと思いました。
男性	60代	性差が解った上での平等は必要です。男性が子供を産むことはできません。
男性	60代	市議会の女性議員の比率の高さは全国自治体でもトップクラスだと思うのだが、そのわりに男女平等参画はおくれているのでは？今の日本では学校給食も男女平等参画のかたちの1つでは…
男性	70歳以上	男女平等と言う言葉に、個人的には違和感を感じます。性格差があるのに平等に扱う事自体、個人的には差別と考えます。達成した物に対して効果・価値を公平に評価することを心掛けてました。そのことが、男女間の格差をなくすものと考えています。
女性	30代	男女平等の問題とLGBTのセクシャル・マイノリティの問題は分けて考えるべきではないかと感じた。平等であるべき問題であることは共通しているが、前者は歴史的背景からくる、経済的・社会的格差、後者は人権の問題ではないかと感じた。
女性	40代	男女平等にするのは大事な事だと思うが、平等にすればいいということではなく、性別にとらわれることなく、平等になればいいなと思います。
女性	40代	立川市は国立市や武蔵村山市などの近隣都市に比べて、男女平等参画事業に対する内容が少し時代遅れな気がします。啓発事業を増やして欲しいです。
女性	40代	女性は妊娠・出産がある為、一概に男女平等という働き方は難しいし、逆に女性を苦しめる事になりかねない側面にあると思う。
女性	40代	男女平等とやたら言われているが、そもそも男性と女性は生物学的に異なるため全てを平等にすることは難しいと思う。お互いがお互いの欠点を補うことができる社会になることこそ、重要であると思う。

性別	年齢	内容
女性	50代	男だから女だからという言葉がなくし、人として平等な世の中になって欲しいです。
女性	50代	男女をくらべると、どうしても女性は月のものがあるので、ゴミが増えます。立川市はゴミが有料。女性だからどうしてもゴミが増えてしまうのに、お金を払って捨てなければいけないのは納得いかない。オムツは無料なのに、これは有料なのは何故？
女性	50代	男女平等とはいえ、「平等」の捉え方が漠然としていて、結局は都合の良いように処理されているように感じる。本当に「平等」を目指すならば、男性の育休だけでなく、女性特有の身体の不快などで仕事を休むべきでもない。ただのご都合主義になっているようでは意味がないし、そもそも平等の前に女性の職場での同性同士のいじめに対処すべき。
女性	50代	若い時は「女だから」と言われることに不満を持っていましたが、60を前に女性は体力的に男性と同じに働く事は難しいと感じています。(個人差はあると思いますが) 男の役割、女の役割とそれぞれが出来る事を行えばいいと思っています。必ずしも男女平等が正しいとは思いません。
女性	50代	暴力いじめの経験がある人を、市職員にすべきではない。なんでも平等がいい訳ではない。生物学的な体のつくりや役割(妊娠・出産)があるのだから。義務と権利を混同してはいけない。基本的人権を守るためにも、暴力(加害者の人権)や性認識(性的なものをごっちゃにしない)については注意して取り組むべき。想像力(他人の痛みや立場環境生い立ち…)のない人に改革はできない。
女性	50代	この様なアンケートが有ること事態が男女平等では無いんだなと改めて感じました。女性は人間を作っているんだからむしろ、女の人の方が上でもいいんじゃないですか?? だったらそこを男性も認めて互いに尊重するべきだと思います。
女性	60代	夫婦はお互いに助け合って生活できればいいと思う。
女性	60代	男女、マイノリティを意識しすぎているが、各個人が生活し易くするべき。だから男女平等参画課もただの平等課にした方がいい。
女性	70歳以上	男女平等が全てに広がると良いです。仕事、育児、夫婦、老人介護、女はやって当たり前となっているし、暴力もあります。自分の生活だけを見ていける日は、いつ来るのでしょうか? いつも家族にしばられ続ける日々です。特に主人に! (もう無理です。命の時間がないですもの。)
女性	70歳以上	日本は世界全体からみて、男女平等が全ての面で遅れております。多方面の女性進出を望んでおります。これからの若者が前向きに生活出来ることを願っております。
女性	70歳以上	若者だけでなく、高齢女性にも関心持ってもらいたい。
女性	70歳以上	男女平等参画の予算10兆円もあるのに反対します。男女平等参画法律に反対します。そういう予算を減額し、国防費にまわすべき。日本人は差別意識は薄い。

性別	年齢	内容
女性	70歳以上	「女男平等参画」については、男性はもちろん現状女性自身にもその意識（権利や責務）、向上ニーズがある様思われます。ジェンダーフリー意識を広く市民・社会に啓蒙醸成が、より格差や差別のない共生社会の実現だと思えます。
女性	70歳以上	男女間の平等について…体力の差、生理、更年期の不調等の配慮は必要です。全て平等…能力の差はありません。多様な考えは大切ですが、不快に思う方の考えまで、否定も差別だと思えます。多様な性は個人的な問題です。他人がYES、NOではないと思えます。
女性	70歳以上	「男女平等参画調査において」の趣旨も有効と思うが、この件については具体的な1つの案件の調査が有効だと思う。男女平等は国民の周知であるから、今後は深い心底にあるものの調査が改善があるとするなら意味があると思う。

I-2 人権の意識づくり

性別	年齢	内容
男性	30代	男性の育休推進と待機児童の解消の問題がよくなれば、女性も職場復帰しやすくなると思う。LGBTやDVに関しては、少数のケースにどこまでリソースを割くかが大事だと思う。
男性	50代	立川市でも同性パートナーシップ・ファミリーシップ制度の導入を検討していただきたいです。よろしく願いいたします。
男性	50代	アンケートに答えるにあたってネットで検索したら、立川市がパートナーシップ制度を導入していないと知って恥ずかしい。アンケートの前にやることあるのでは？
男性	50代	言葉のハラスメント意識向上、相手を言葉できずつけてしまう。
男性	60代	LGBTは差別されるべきではないが、推奨されるものでもない。あまり詳しい知識を子供に教えるべきではないと思う。他人からLGBTであることを疑われて怒ることは差別にあたるのだろうか？
女性	20代	男性、女性と分けられた質問内容（例えば、女性の〇〇を～）など。もう少し全体的に気を配って問を考えてほしい。友人にジェンダーレスの人が多いので、もっと深く理解をもって下さい。
女性	30代	[再掲] 男女平等の問題とLGBTのセクシャル・マイノリティの問題は分けて考えるべきではないかと感じた。平等であるべき問題であることは共通しているが、前者は歴史的背景からくる、経済的・社会的格差、後者は人権の問題ではないかと感じた。

性別	年齢	内容
女性	50代	[再掲] 暴力いじめの経験がある人を、市職員にすべきではない。なんでも平等がいい訳ではない。生物学的な体のつくりや役割（妊娠・出産）があるのだから。義務と権利を混同してはいけない。基本的人権を守るためにも、暴力（加害者の人権）や性認識（性的なものごとっちゃにしない）については注意して取り組むべき。想像力（他人の痛みや立場環境生い立ち…）のない人に改革はできない。
女性	70歳以上	[再掲] 男女間の平等について…体力の差、生理、更年期の不調等の配慮は必要です。全て平等…能力の差はありません。多様な考えは大切ですが、不快に思う方の考えまで、否定も差別だと思えます。多様な性は個人的な問題です。他人がYES、NOではないと思えます。

II-1 政策・方針決定の場への女性参画の促進

性別	年齢	内容
男性	30代	問20選択肢7に関して、女性の参画を促進することが重要かどうかを、この紙面で聞く前に、さっさと取り組むべきである。様々な視点、考えから、より良い政策が生まれ、偏りをなくすることが大切なのに、立川市はまだその程度の設問に満足しているようだがっかり。
男性	60代	男女平等参画は、市長をトップとした市全体の取り組みでの対応が、必要と考えています。
男性	60代	[再掲] 市議会の女性議員の比率の高さは全国自治体でもトップクラスだと思うのだが、そのわりに男女平等参画はおくれているのでは？今の日本では学校給食も男女平等参画のかたちの1つでは…
女性	20代	女性リーダー育成、促進は重要と思うとともに、なりたい人がなるべきであり、性差はいらなと思う。女性が下火なのが現状だが、そこに「女性」を強調する必要性はあるのでしょうか？
女性	30代	市役所の管理職がおじさんばかりなのをまず変えないと、政策が変わらないと思います。また、男性が家庭進出しても、その支援が全くないのは逆に不平等では。（こんにちちは赤ちゃん訪問でパパにお話は聞かないなど）
女性	40代	立川市職員の男女比率、管理職役員などの男女比、有給所得率、男性・女性ともに育休の取得率の現状と今後どう変えていくのか、教えて欲しい。自ら率先して公表すべきです。自治会の男性主体運営がとても嫌。女はお茶汲み、酌のためにいるのではない。

Ⅱ－２ 女性のチャレンジへの支援

性別	年齢	内容
男性	40代	男性も女性も、1度正規社員から離れると復帰が困難という現状を改善すべき。育休のとりづらさや女性の復職のハードルの高さの一因になっていると思う。言葉狩りのような形だけの男女平等よりも、実効性のある施策を望みます。
女性	20代	女性は30代以降になると、職を見つけて働くことが難しくなっているのが現状なので、就職先を増やしたり（ここでいうものでなければ、この意見はなかったことにして下さい。）、女性も活躍できるような場所や物も増やせていけたら良いかと思われます。
女性	30代	ファミサポや子育て広場の利用、子供の予防接種を他市でも出来るようにしてほしい。（保育所の他市利用も）保育所などの拡充も大切だが、子供を無理なく育てられることも、女性のキャリア継続に繋がると思う。
女性	30代	F4の質問でmainは大学院で研究しながら、非常勤で週2日働いている（都内+他道府県）のが事実です。社会人（とりわけ女性）が大学院で研究する（またそれを継続することの）機会は十分に開かれているとは言いがたい。
女性	30代	世の中から暴力が無くなり、女性も安心して長く勤務できる環境が整い、安心して子育てもできる世の中になる事、災害に強い街づくりを希望しています。環境整備をよろしくお願い致します。
女性	40代	女性が早く社会復帰出来る為に、学童を増やして下さい。市長さんは何をやっているのか…。働く子を持つ女性は、皆立川は子を育てにくいと言ってますよ。

Ⅲ－１ 男女の雇用機会と待遇の均等の確保

性別	年齢	内容
男性	20代	[再掲] 平等も難しく、男性と女性で向いていること向いていないこと等あると思うので、絶対平等というのも難しいと思います。ただ、それを除いて同一賃金同一労働などは守られるべきだと思います。

Ⅲ－２ ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり

性別	年齢	内容
女性	20代	夫の賃金が低く、長時間残業をしないと家計が成り立たないため、結果的に私（妻）が家事を担うことになっており、フルタイムで働くことが難しい。既婚男性に家事や育児をさせようとするならまず賃金上げで残業をしなくても良い環境を作って欲しい。

性別	年齢	内容
女性	70歳以上	[再掲] 男女平等が全てに広がると良いです。仕事、育児、夫婦、老人介護、女はやって当たり前となっているし、暴力もあります。自分の生活だけを見ていける日は、いつ来るのでしょうか？いつも家族にしばられ続ける日々です。特に主人に！（もう無理です。命の時間がないですもの。）

Ⅲ－３ 男女の多様な働き方のための子育て支援

性別	年齢	内容
男性	30代	[再掲] 男性の育休推進と待機児童の解消の問題がよくなれば、女性も職場復帰しやすくなると思う。LGBTやDVに関しては、少数のケースにどこまでリソースを割くかが大事だと思う。
男性	40代	[再掲] 男性も女性も、1度正規社員から離れると復帰が困難という現状を改善すべき。育休のとりづらさや女性の復職のハードルの高さの一因になっていると思う。言葉狩りのような形だけの男女平等よりも、実効性のある施策を望みます。
女性	20代	産休や育休。仕事は休みではあるが、産休や育休中（子育ては仕事するより辛いこと沢山ある。）休めているわけでもなく、子育てにお金はかかるのにももらえるお金が減る事、本当に納得できない。育休満期とりたいのに、金銭的な面でとれないのは本当に嫌です。
女性	30代	双子を出産しました。共働きの為にとても大変でした。父親は仕事で遅い為、平日は一人で全てこなしており、かなりきつかったです。双子の会もありましたが、正直私にはあいませんでした。立川で一つでなく、地域ごとに集まったりできたら良かったです。それと、双子の支援が少しあれば良いなと思います。
女性	30代	[再掲] ファミサポや子育て広場の利用、子供の予防接種を他市でも出来るようにしてほしい。（保育所の他市利用も）保育所などの拡充も大切だが、子供を無理なく育てられることも、女性のキャリア継続に繋がると思う。
女性	30代	[再掲] 市役所の管理職がおじさんばかりなのをまず変えないと、政策が変わらないと思います。また、男性が家庭進出しても、その支援が全くないのは逆に不平等では。（こんにちは赤ちゃん訪問でパパにお話は聞かないなど）
女性	30代	市役所で働く方々の育休取得率（男性）を増やし、公表してほしいです。立川にある企業の育休取得推進につながると 생각합니다。（すでに公表していたらすみません。）

性別	年齢	内容
女性	40代	立川市は便利な街であるけれど、住むには不便が少しあります。例えば、子供の医療費助成、他の自治体は高校生まで無償化が進んでいるところが多いが、立川市は小学生から一部負担で所得制限あり。我が家は夫の単身赴任で会社からの手当が多く、所得が増えた為に、何かと所得制限にひっかかり、医療費や手当の対象から外されてしまいます。国が決めた事は仕方ないですが、自治体でももう少しフォローして欲しい。色々新しい公営の建物が立っているの、財源はあるのかなと思いました。
女性	40代	女性がほとんどの職場で、私自身は子供が居ないため、他のスタッフのお子さんが熱を出したなどで休まれると、他への負担が大きく、結果子供がいない人や独身の人への負担がいつてしまう。子育てを周囲で支えるにも限度があり、毎回はこちらも辛くなる。子供が熱を出した時などの不測の事態でも、男性が対応（父親）できるようになって欲しい。
女性	40代	[再掲] 女性は妊娠・出産がある為、一概に男女平等という働き方は難しいし、逆に女性を苦しめる事になりかねない側面にあると思う。
女性	40代	[再掲] 立川市職員の男女比率、管理職役員などの男女比、有給所得率、男性・女性ともに育休の取得率の現状と今後どう変えていくのか、教えて欲しい。自ら率先して公表すべきです。自治会の男性主体運営がとても嫌。女はお茶汲み、酌のためにいるのではない。

Ⅲ－４ 男女の多様な働き方のための介護支援

自由意見なし

Ⅲ－５ 多様な働き方への支援

性別	年齢	内容
男性	40代	[再掲] 男性も女性も、1度正規社員から離れると復帰が困難という現状を改善すべき。育休のとりづらさや女性の復職のハードルの高さの一因になっていると思う。言葉狩りのような形だけの男女平等よりも、実効性のある施策を望みます。
女性	30代	[再掲] F4の質問でmainは大学院で研究しながら、非常勤で週2日働いている（都内+他道府県）のが事実です。社会人（とりわけ女性）が大学院で研究する（またそれを継続することの）機会は十分に開かれているとは言いがたい。

IV-1 暴力の未然防止と早期発見

性別	年齢	内容
男性	30代	[再掲] 男性の育休推進と待機児童の解消の問題がよくなれば、女性も職場復帰しやすくなると思う。LGBTやDVに関しては、少数のケースにどこまでリソースを割くかが大事だと思う。
女性	50代	①男が女へ暴力をする、根本の原因を解決する仕組みが重要と考える。お金の教育問題か、格差問題なのかを調査して対策をとるべき。②子供を産むのは女性のみ、働くことも重要だが、子供への愛情不足で、今後の日本の子供達が少し心配。
女性	50代	心理的攻撃は、過去の事がフラッシュバックしたり、恐怖で辛い思いを何度も繰り返す。私の夫は自制心を抑えることは出来ないと思います。
女性	60代	もっと絵とか入れながら見やすい誌面にしてほしい。身の回りにはDVの人がいたり聞けけれど、本人達はとても辛そう。許せないと思うが女性だけが悪いワケでもないと思う。
女性	60代	相談したことがあるが、髪を引っ張られたり、けられたり、物を投げつけられることはなくなったが、夫は外では優しく人にわからないように、陰湿な暴力にかわった。くつ底にねじくぎをうたれたり、飲食物に何か入れられたり、無視されたり、経済的な圧力を受けたりするようになった。毎日用心しながら暮らしています。

IV-2 相談体制の充実

性別	年齢	内容
女性	50代	私は長年DVに苦しみ、相談機関、保護を経て立川市に引っ越してきました。自殺を考えたり、相手を殺そうと考えたり本当に長年悩みましたが、今では子供と平穏に暮らせています。DVに苦しむ母子がいない世の中になるよう願っています。
女性	50代	30年前にDVの相談ができる所があったならば、被害を受け続けることもなかったでしょう。気軽に駆け込みできる場所を作って欲しい。

IV-3 被害者の自立の支援

自由意見なし

(3) 自由意見の詳細（その他の内容）

アンケートそのものについて

性別	年齢	内容
男性	20代	15ページの質問24については、聞くまでもなく、意識を持っていること自体当たり前だと思います。このアンケートを配布している時点で、市職員全体で持っていないならおかしいです。
男性	30代	[再掲] 問20選択肢7に関して、女性の参画を促進することが重要かどうかを、この紙面で聞く前に、さっさと取り組むべきである。様々な視点、考えから、より良い政策が生まれ、偏りをなくすることが大切なのに、立川市はまだその程度の設問に満足しているようだがっかり。
男性	30代	[再掲] 平等という言葉が平等ではなくなっている場合もあるという事を忘れてはいけない。意見欄が少なすぎる。書ききれない。そんなくだらないアンケートなんてするな。
男性	40代	何故、世帯主のみのアンケート？男女平等についてなら、妻にもアンケート調査すべきでは？意味不明。偏見のアンケート結果を求めているのか？
男性	50代	問14について、例えば、2年以上前に離婚等をして現在は配偶者がいない人で、かつてはDVを受けていた人がいた場合、「5. 被害がなかった」を選択せざるを得ませんが、被害経験がないと見放すことが正しい状況把握とならないのでは？と思いました。この「2年間の被害」（経年変化をみるため？）という限定された状況把握という趣旨とは思いますが。
男性	60代	子供食堂とかヤングケアラーについても、取り上げて欲しかった。
男性	70歳以上	ほとんどの問いに関心なし。私のアンケートの答えは参考にしない方が良いかと思います。
女性	40代	無作為なので驚きました。主人にも送ってほしかったです。提案を記入する箇所があれば、有職者や経験者の方からもっと情報を得られたのではないかと思います。
女性	50代	[再掲] ①男が女へ暴力をする、根本の原因を解決する仕組みが重要と考える。お金なのか教育問題か、格差問題なのかを調査して対策をとるべき。②子供を産むのは女性のみ、働くことも重要だが、子供への愛情不足で、今後の日本の子供達が少し心配。
女性	50代	[再掲] この様なアンケートが有ること事態が男女平等では無いんだなと改めて感じました。女性は人間を作っているんだからむしろ、女の人の方が上でもいいんじゃないですか？？だったらそこを男性も認めて互いに尊重すべきだと思います。
女性	60代	依頼かがみ文の裏に、相談窓口の案内をプリントして下さって助かります。また、いろいろな角度からの質問により、今後幅広い観点からの意見が市政に生かされることが期待できると思いました。

性別	年齢	内容
女性	60代	[再掲] もっと絵とか入れながら見やすい誌面にしてほしい。身の回りにはDVの人がいたり聞くけれど、本人達はとても辛そうだ。許せないと思うが女性だけが悪いワケでもないと思う。
女性	70歳以上	男女平等参画は、老若男女全てが関係し、問題も教育から介護まで多岐にわたると考えています。その市民アンケートの内容としては、質問に片寄りがあると感じられました。
女性	70歳以上	80才近くの人にも必要でしたか？
女性	70歳以上	2000人を無作為に抽出と書いてあるが、アンケート調査のたびに良く来る。ふしぎに思う？
女性	70歳以上	[再掲] 「男女平等参画調査において」の趣旨も有効と思うが、この件については具体的な1つの案件の調査が有効だと思う。男女平等は国民の周知であるから、今後は深い心底にあるものの調査が改善があるとすれば意味があると思う。

アンケートへの感想

性別	年齢	内容
男性	30代	アンケートを役立てていただければ幸いです。
男性	50代	・本件アンケートの様な取組は、とてもいいと思います。・立川市民であることに、私も妻も子供達も大変満足です。・立川市の取組を市民に広く知ってもらう事が大事だと思います。
男性	60代	本アンケートは、今後の社会において、大切なテーマである。立川市が先頭に立ち牽引すべきである。
男性	60代	アンケート調査、ありがとうございました。
男性	70歳以上	少しでもアンケートが役に立ち、前進することを期待しています。
女性	30代	アンケート調査お疲れ様です。お役に立てましたら幸いです。
女性	40代	立川市の男女平等参画について、もっと勉強していきたいと思いました。有難うございました。
女性	40代	このアンケートはとても良い計画と思いました。
女性	50代	アンケートの意見が、少しでも反映されますように…
女性	50代	特にありません。結果HPで見させていただきます。とりまとめ、大変と思います。お疲れ様です。
女性	50代	お疲れ様です。本音でお答え致しましたので、ご立腹にならない様、よろしくお願い申し上げます。
女性	60代	自分にとっては急な(突然)アンケートだったので、参考になったか分かりませんが、こうして悩んでる方がいる事をもっと身近に真面目に思っていないといけないんだなあと思いました。有難うございました。

性別	年齢	内容
女性	70歳以上	初めて聞く言葉がいっぱいあり、追いついていけません。あまり頭がよくないので、テレビのニュースを見て、こんなことがあるんだと気付かされます。考え方が古いのだと思っています。今の時代の人たちには、やはり追いついていけません。
女性	70歳以上	お疲れ様です。世の中あまりに進んでいて、追いついて行くのが大へんです。色々勉強させて戴きます。有難うございました。

回答の難しさについて

性別	年齢	内容
男性	50代	各設問に関して、自分自身のことを答えるのか、世の中のイメージを答えるのか、よく分からなかった為、あいまいになってしまったと思う。
男性	50代	立川市がどのような活動をしているのか、具体的に把握できてないので、アンケートに記入しづらい。カテゴリを決めなくて、何でも相談出来る窓口があるといい。
男性	50代	・内容が一部難しかったです。
男性	70歳以上	事例の記載がなく、場面想定しにくい。質問が多くて回答に困ってしまう。最後まで趣旨を想定しても、深層にまで解決策にたどり着けないと感じました。中途半端な形づくりにしか思えません。体制見直してほしい。
男性	70歳以上	立川市の取組についての設問の満足度については、設問として不適であるような気がします。1～26すべてに精通している人への設問なら回答できると思いますが、一般市民の方々に問うことは無理です。→「わからない」という意味と「どちらともいえない」が同じではないと思うため。
女性	30代	分からない部分は飛ばして答えました。
女性	30代	問題に直面しないと満足度はよくわかりません。
女性	40代	保育園に預けるほど小さな子もいない、セクシャル・マイノリティの方も周りにいない、暴力について害を受けた経験もないのに、問18、20の様なその様な方の立場になって考えて答えるのは難しいと思いました。
女性	50代	あまりよく理解していない事に加え、カタカナの言葉の意味が理解出来ないなので質問への答えにむじゅんが出来てしまった。言葉のハードルは低い方がわかりやすいと感じます。
女性	60代	取り組みについての満足度については、その状況が分からない事が多く、どちらともいえないに偏ってしまいました。
女性	70歳以上	問20の質問が分かりにくかったです。満足度の選択が難しい。
自由記述	19歳以下	取組についての満足度ではそれぞれの現状をほとんど知らないため「どちらともいえない」の回答が多くなってしまった。

インターネット回答の実施について

性別	年齢	内容
男性	30代	このようなアンケートを紙でやるのは考えられない。インターネットで実施すれば、郵送も集計も不要。
男性	40代	今時手書きのみのアンケートを取るとか…コロナ禍でもこのスタイルを変えないということは、10年後も、100年後も紙でアンケートを取り続けるのでしょうか。別に構わないけど、デジタル化の取組も重要と思います。集計の手間を考えると、担当の方が気の毒です。お疲れ様です。
男性	50代	アンケートを統計的に扱うのなら、今更紙で郵送は時代遅れで税金の無駄。それより市民の困り事を直接聞き上げ、解決するためのもっと良い方法があるはず。コンビニ投書箱、Web上に電子投書を設けてはどうか？それでも解決する姿勢、努力がなければダメ。市役所職員の評価は、一番税金を使わずに成果をあげた人を給与面で評価すべき。そうすればアンケートなどせずに、行政として何をどうやるべきかおのずとわかるようになる。
女性	30代	市民の声を反映して頂き、有難うございます。今後はオンライン回答も併せてご検討頂きたいです。(SDGsの理念にも沿うと思います。)
女性	40代	ネットでできるアンケートの方が楽なので、ネットでできるようにして下さい。

市政について

性別	年齢	内容
男性	20代	若い人の意見をもっと反映するべき。年寄りの意見ばかり取り入れても市の未来が見えてこないし、無駄な出費に当たると感じる。若い労働者が日本を支えているからこそ、手当を増やしたり支援して欲しい。
男性	30代	上司のメンツのための仕事ではなく、本当に市民のためになる仕事をして下さい。
男性	40代	限られた財源を有効に活用するためにも、事業の選択と集中に努めるようお願いします。
男性	50代	[再掲] 立川市がどのような活動をしているのか、具体的に把握できてないので、アンケートに記入しづらい。カテゴリーを決めなくて、何でも相談出来る窓口があるといい。
男性	50代	[再掲] アンケートを統計的に扱うのなら、今更紙で郵送は時代遅れで税金の無駄。それより市民の困り事を直接聞き上げ、解決するためのもっと良い方法があるはず。コンビニ投書箱、Web上に電子投書を設けてはどうか？それでも解決する姿勢、努力がなければダメ。市役所職員の評価は、一番税金を使わずに成果をあげた人を給与面で評価すべき。そうすればアンケートなどせずに、行政として何をどうやるべきかおのずとわかるようになる。
男性	60代	くだらない事に税金使ってるんじゃないネ～。

性別	年齢	内容
男性	60代	[再掲] 本アンケートは、今後の社会において、大切なテーマである。立川市が先頭に立ち牽引すべきである。
男性	70歳以上	6月に義父が亡くなり市役所に行った時、受付や担当課の優しさや気転な対応に驚きました。ありがとうございました。今後も長く良い対応が続きますように、頑張ってください。
男性	70歳以上	[再掲] 事例の記載がなく、場面想定しにくい。質問が多くて回答に困ってしまう。最後まで趣旨を想定しても、深層にまで解決策にたどり着けないと感じました。中途半端な形づくりにしか思えません。体制見直してほしい。
男性	70歳以上	各政策の実施促進！！
女性	20代	アンケートによって、男女平等に力を入れていることを知りました。素晴らしい市に住む事が出来て、大変嬉しく思います。今後もより良い立川市になるよう願っています。職員さん、頑張ってください。
女性	30代	[再掲] 市役所で働く方々の育休取得率（男性）を増やし、公表してほしいです。立川にある企業の育休取得推進につながると思います。（すでに公表していたらすみません。）
女性	30代	[再掲] 世の中から暴力が無くなり、女性も安心して長く勤務できる環境が整い、安心して子育てもできる世の中になる事、災害に強い街づくりを希望しています。環境整備をよろしくお願い致します。
女性	30代	子育てをしている人や世帯だけが優遇されるのではなく、職場などでそれを支えてくれている独身だったり子供がいない人への支援も充実しないといけないと思います。ひとりも取りこぼしの無い、すべての人が幸せに生活できる様な立川市、社会を望みます。
女性	50代	住みやすい街づくりを宜しく願います。
女性	50代	[再掲] 暴力いじめの経験がある人を、市職員にすべきではない。なんでも平等がいい訳ではない。生物学的な体のつくりや役割（妊娠・出産）があるのだから。義務と権利を混同してはいけない。基本的人権を守るためにも、暴力（加害者の人権）や性認識（性的なものごとっちゃにしない）については注意して取り組むべき。想像力（他人の痛みや立場環境生い立ち…）のない人に改革はできない。
女性	50代	就労世代は地域のことが理解できにくいと思いました。市報など目を通していますが立川市が今、何を進めようとしているかまではわかりません。今回のアンケートを期に考えてみたいと思いました。介護のことは急務です。周りも多くが悩んでいます。よろしくお願いします。
女性	60代	シルバー人材センターの活用。専門知識、技術をもっている人がいるので、活用すべきだと考える。

性別	年齢	内容
女性	70 歳以上	今は何かと言えば「個人情報」ということで処理されてしまうので、難しい世の中です。役所に家族の事で聞きたい事があっても、「個人情報」の一言で終わってしまう。この個人情報の枠組等がある程度まで決めて欲しいと思う事がある。色々お世話になっているのに、好き勝手言って申し訳ございません。

家計・経済の問題

性別	年齢	内容
男性	20 代	[再掲] 若い人の意見をもっと反映するべき。年寄りの意見ばかり取り入れても市の未来が見えてこないし、無駄な出費に当たると感じる。若い労働者が日本を支えているからこそ、手当を増やしたり支援して欲しい。
男性	30 代	色々アンケートがありましたが、手取りのお金が増えればそれなりの問題は解決すると思います。住民税が…
男性	50 代	貧富の差が色々な問題を発生させている。
女性	20 代	[再掲] 産休や育休。仕事は休みではあるが、産休や育休中（子育ては仕事するより辛いこと沢山ある。）休めているわけでもなく、子育てにお金がかかるのにももらえるお金が減る事、本当に納得できない。育休満期とりたいのに、金銭的な面とれないのは本当に嫌です。
女性	30 代	働き盛りの世代や独身の人にも恩恵がある社会であってほしい。今でこそ給付型の奨学金があるが、頑張っている世代は苦しいばかりである。
女性	40 代	ワーキングプアの人にも、何か支援があっても良いと思います。
女性	70 歳以上	ひとり親で年金が減ってきた。8月より1万と少し減ってきた。病院にも行けず、総入れ歯も何10万とするが入れられない。病院にも行けない。もう少し、ひとり親としての年金を増やして欲しい。減るばかりで、うんざりです。

子育て支援

性別	年齢	内容
男性	60 代	女性が安心して子供を産み育てる環境、社会が求められる。子供への虐待や子供の貧困などあってはならない。
女性	30 代	[再掲] 双子を出産しました。共働きの為にとっても大変でした。父親は仕事で遅い為、平日は一人で全てこなしており、かなりきつかったです。双子の会もありましたが、正直私にはあいませんでした。立川で一つでなく、地域ごとに集まったりできたら良かったです。それと、双子の支援が少しあれば良いなと思います。
女性	30 代	[再掲] ファミサポや子育て広場の利用、子供の予防接種を他市でも出来るようにしてほしい。（保育所の他市利用も）保育所などの拡充も大切だが、子供を無理なく育てられることも、女性のキャリア継続に繋がると思う。

性別	年齢	内容
女性	30代	子育て中なので子供向けの支援を充実させてほしい。(公園の草をこまめに刈ってほしい。休日の一時保育が一ヶ所は少なすぎる。)例えば、グリーンスプリングスなどは、外から人を呼ぶ施設ではなく、市民が便利に暮らせるような施設にしてほしかったです。
女性	40代	[再掲] 女性が早く社会復帰出来る為に、学童を増やして下さい。市長さんは何をやっているのか…。働く子を持つ女性は、皆立川は子を育てにくいと言ってますよ。
女性	40代	[再掲] 立川市は便利な街であるけれど、住むには不便が少しあります。例えば、子供の医療費助成、他の自治体は高校生まで無償化が進んでいるところが多いが、立川市は小学生から一部負担で所得制限あり。我が家は夫の単身赴任で会社からの手当が多く、所得が増えた為に、何かと所得制限にひっかかり、医療費や手当の対象から外されてしまいます。国が決めた事は仕方ないですが、自治体でももう少しフォローして欲しい。色々新しい公営の建物が立っているので、財源はあるのかなと思いました。

広報活動について

性別	年齢	内容
男性	50代	[再掲]・本件アンケートの様な取組は、とてもいいと思います。・立川市民であることに、私も妻も子供達も大変満足です。・立川市の取組を市民に広く知ってもらう事が大事だと思います。
女性	40代	工事現場やごみ収集など、多くの男性の方々が女性よりもずっと過酷な業務に就いて、安全で快適な生活を支えて下さっていることをもっと啓蒙していただけると、前提条件の偏りが解決され、より建設的な議論ができると思います。
女性	60代	新聞より、街の中に広告、映像で大切なお知らせ告知する。商業施設内に広告が誰でも見られる場所があれば。(字が小さくて見づらい新聞いらない)
女性	70歳以上	アトムが女性の相談の場であり、活動のきっかけづくりを提供する場としての拠点としてのPRが不十分だと思います。情報誌をなかなか読みきれないのです。

社会課題について

性別	年齢	内容
女性	30代	[再掲] 子育てをしている人や世帯だけが優遇されるのではなく、職場などでそれを支えてくれている独身だったり子供がいない人への支援も充実しないといけないと思います。ひとりも取りこぼしの無い、すべての人が幸せに生活できる様な立川市、社会を望みます。

性別	年齢	内容
女性	50代	公的機関で働く非正社員は、任期（有期）雇用だが、期限後の働き方については、退職の選択肢ではなく、継続も希望できる（選択肢・環境・組織など）といいと思います。
女性	70歳以上	現在の社会状況・企業の考えを、国全体で変えていかなければ、日本の少子化は止まることはない。

住みやすさについて

性別	年齢	内容
男性	40代	他県から仕事の都合で異動して1年経ちましたが、立川市は住みやすく、治安が良く、いい街だなと思っています。これからもよろしくお願い致します。
男性	50代	[再掲]・本件アンケートの様な取組は、とてもいいと思います。・立川市民であることに、私も妻も子供達も大変満足です。・立川市の取組を市民に広く知ってもらう事が大事だと思います。
女性	50代	[再掲] 住みやすい街づくりを宜しく申し上げます。

その他

性別	年齢	内容
男性	30代	税金を払っている方が冷遇されるのを辞めていただきたい。
男性	40代	[再掲] 何故、世帯主のみのアンケート？男女平等についてなら、妻にもアンケート調査すべきでは？意味不明。偏見のアンケート結果を求めているのか？
男性	40代	提出が遅くなり、申し訳ありません。
男性	50代	個人的な意見になります。自分は羽田空港に40年正社員で通勤しています。時代とともにコンプライアンスが激変しています。日々勉強させてもらっています。
男性	50代	ガンバレ
男性	60代	男女平等参画、国、都、立川市における連携及び住み分け、これらが、一市民からすると入り乱れて、余計わかりにくくなっている。
男性	60代	?が多い。片寄っているのでは。
男性	70歳以上	日本人の意識を変えていくことは大変なこと。長い年月が必要か？
男性	70歳以上	どのような状況であれ、不安はつきものです。生活することにツナワタリ的な毎日はさげられないでおります。
女性	40代	夫婦間だけでなく、義父母と同居でのトラブル（ハラスメント）も外から分かりづらく、辛い思いをしています。自営業だと外へ出ることも少なく孤独です。

性別	年齢	内容
女性	50代	[再掲] ①男が女へ暴力をする、根本の原因を解決する仕組みが重要と考える。お金なのか教育問題か、格差問題なのかを調査して対策をとるべき。②子供を産むのは女性のみ、働くことも重要だが、子供への愛情不足で、今後の日本の子供達が少し心配。
女性	50代	個人情報保護法ができてから、人とのつながりが切れてしまった様な気がします。在宅ヘルパーとしても、これは上に報告した方が良いのか、言っ てはいけないのかの判断に迷います。
女性	70歳以上	男女差からくる問題は多々あると思います。答えもなかなか出づら いと思いました。
女性	70歳以上	[再掲] 男女平等参画の予算10兆円もあるのに反対します。男女平等参 画法律に反対します。そういう予算を減額し、国防費にまわすべき。日本人は 差別意識は薄い。
女性	70歳以上	期日が過ぎましたが、提出します。

特にない

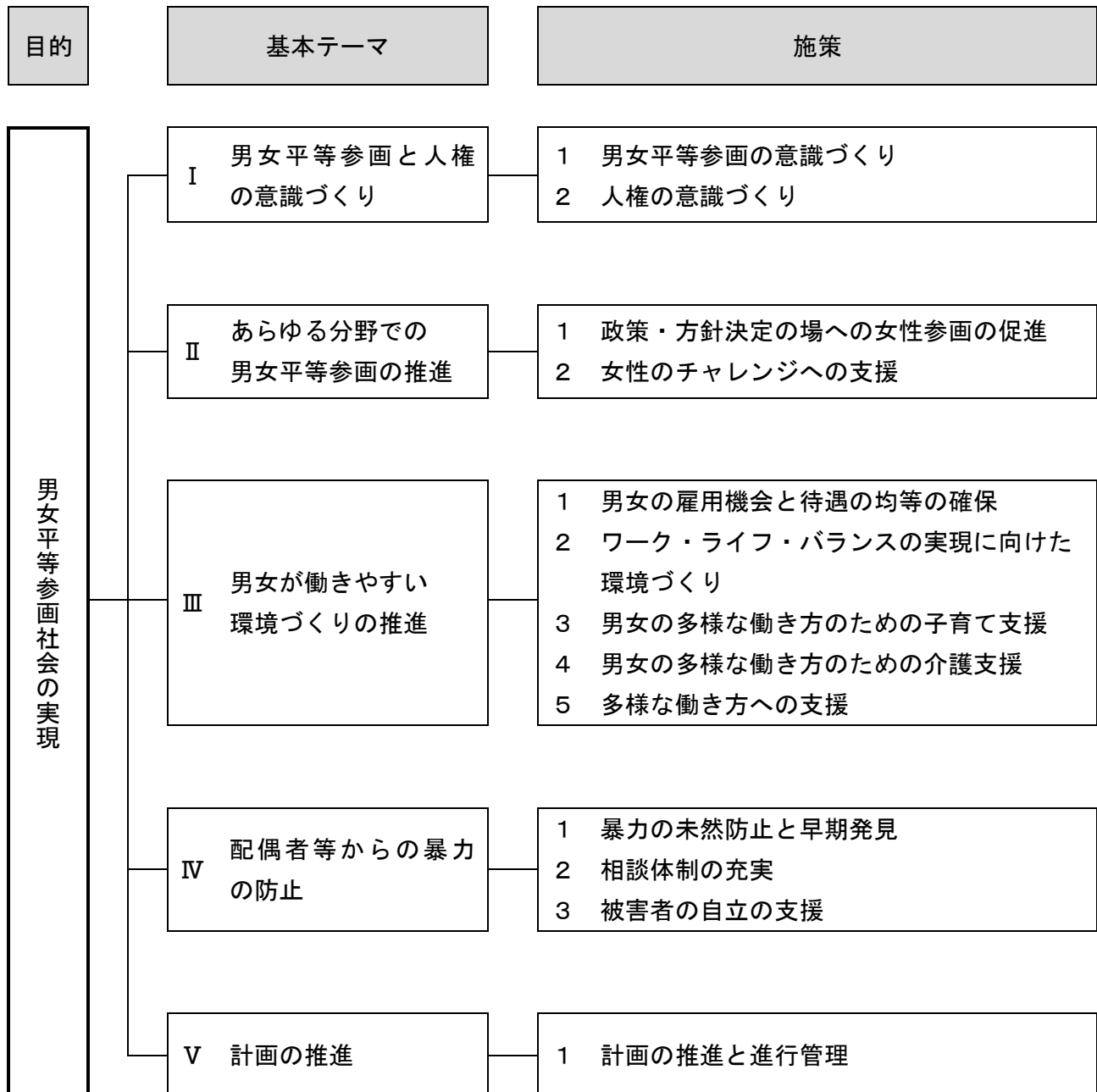
性別	年齢	内容
男性	70歳以上	特にありません。
男性	70歳以上	なし

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 立川市第7次男女平等参画推進計画のテーマ別に見るポイント

立川市第7次男女平等参画推進計画を2020年6月に策定して以降、次の施策体系図に基づき、各種取組を推進してきました。

次期計画策定にあたっての基礎資料とするため、今回の調査結果から、今後の男女平等参画の推進に向けた具体的な取組を示す基本テーマⅠ～Ⅳに関連する内容を抜粋し、方向性を検討する際に留意すべきポイントをとりまとめました。



基本テーマⅠ 男女平等参画と人権の意識づくり

基本テーマ	施策
I 男女平等参画と人権の意識づくり	1 男女平等参画の意識づくり 2 人権の意識づくり

<調査結果から見るポイント>

- ① 社会のさまざまな場面で男性が優遇されていると感じる方が多いものの、学校教育や地域活動の場では、男女平等と感じる方が半数を超えている。これら2つの場について立川市は国や都と比べても、男女平等と感じる方が多い。(問5)
- ② 結婚や子育てに対する多様な価値観が30～40代を中心に浸透している。子育てについては、男性・女性ともに夫婦に関わるべきだと多くの方が感じている。(問6、問20)
- ③ 市の男女平等参画に関する施設・取組の認知度はいずれも低い。特に、男性や若年層の認知度が低い。(問7)
- ④ 男女平等参画やセクシュアル・マイノリティに関することばは、認知が浸透しているものも見られる一方、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」や「SOGI」のように普及していないことばも見られる。(問8、問16)
- ⑤ 自身や周囲の性のあり方について悩んでいる(いた)方が一定数見られる。こうした中で、セクシュアル・マイノリティの方が医療や死別、住宅のことで課題に直面していると理解している人は少ない。(問17、問18)

<参考にした調査結果>

設問	内容
問5 P20～P26	<u>男女平等参画に関する意識について</u> <ul style="list-style-type: none"> • 全ての項目で『男性優遇』が『女性優遇』を上回る • 『男性優遇』は【⑤政治】が86.0%、【④社会通念・慣習・しきたり】が79.7%、【⑦社会全体】が76.0%と7割を超える • 『女性優遇』は【①家庭生活】のみが14.4%と1割を超える。国・都と比べても高い • 「平等になっている」は【③学校教育】のみが77.0%と7割を超えて高い。国・都と比べても高い
問6 P27～P28	<u>結婚、家庭、離婚などの考え方について</u> <ul style="list-style-type: none"> • 「結婚する・しないは個人の自由である」が91.0%、「結婚しても子どもを持つかどうかは個人の自由である」が80.8%、「母親も父親も子育てにかかわるべきである」が79.5%、「結婚してもうまくいかなければ離婚してもよい」が66.3%、「結婚しても夫婦別姓を選択できてよい」が53.8%と5割超え • 「母親も父親も子育てにかかわるべきである」は女性が83.9%、男性も73.9%と7割超え • 「結婚しても夫婦別姓を選択できてよい」は50代以下の全ての年齢で5割超え

設問	内容
問7 P29～P31	<p><u>立川市の男女平等参画に関することからの認知度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「知っている」は【①立川市女性総合センター・アイム】が49.0%、【②情報紙「アイム」】が31.0% 【③男女共同参画都市宣言（平成8年10月2日）】と【④立川市男女平等参画基本条例（平成19年6月25日）】と【⑤立川市男女平等参画推進計画（令和2年6月）】は「知っている」が1割未満 「知らない」の割合を性別で見ると、いずれの項目も男性が女性を上回る 年齢で見ると、いずれの項目も40代以下は「知らない」が高い
問8 P32～P34	<p><u>男女平等参画に関することばの認知度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「知っている」は【④DV（ドメスティックバイオレンス）】が91.3%、【①ジェンダー】が82.3%と8割越え 【⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】は「知っている」（7.0%）が1割未満とわずか 【②性別役割分担意識】と【⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】は「知っている」が「知らない」を下回る 年齢で見ると、【⑨リプロダクティブ・ヘルス／ライツ】の「知らない」は20代（82.9%）と40代（80.4%）と50代（81.0%）が8割超え
問16 P74～P76	<p><u>セクシュアル・マイノリティに関することばの認知度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「知っている」は【④ゲイ（Gay）】が90.8%、【③レズビアン（Lesbian）】が90.5%、【⑤バイセクシュアル（Bisexual）】が78.7%、【⑥トランスジェンダー（Transgender）】が78.2%と7割超え 【⑨SOGI】（2.5%）と【⑩アウトティング（Outing）】（8.0%）と【⑪アライ（Ally）】（3.3%）は「知っている」が1割未満
問17 P77～P78	<p><u>性のあり方についての悩みの有無</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 回答を合計した『悩んでいる（悩んだことがある）』は12.7%
問18 P79～P80	<p><u>セクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上での課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）」が80.0%、「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）」が76.8%と7割越え
問20 P83～P88	<p><u>立川市の男女平等参画に向けた取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 【②学校教育の中で男女平等教育の実施】と【⑬男性の家事・育児・介護への参加促進】は『重要』が8割近く

基本テーマⅡ あらゆる分野での男女平等参画の推進

基本テーマ	施策
Ⅱ あらゆる分野での 男女平等参画の推進	1 政策・方針決定の場への女性参画の促進 2 女性のチャレンジへの支援

<調査結果から見るポイント>

- ① 女性が働き続けることの障害には、育児などの家庭に関すること、育児休業や再就職などの職場環境に関するものがそれぞれあげられた。また、障害だと感じていることとして男性・女性間のギャップがあるのは家族の介護・看護だった。今後の取組としても介護負担軽減を重要と考える意見が最も多くなっているが、現状の不満度は最も高くなっている。(問4、問20)
- ② 政治の場は、男性が優遇されていると感じる方が特に多くなっている。国や都と比べても高くなっている。(問5)
- ③ 地域活動の場は男女平等と感じる方が半数を超えており、国や都よりも高くなっている。一方で、防災に対して女性の視点を入れるべき等のすべての選択肢で回答が半数を超えた。中でも、安心して過ごせる避難所運営に関して女性のニーズが高くなっている。(問5、問19)

<参考にした調査結果>

設問	内容
問4 P17～P19	<u>女性が働き続けることの障害になっている理由</u> <ul style="list-style-type: none"> • 「育児」が67.5%、「育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分」が51.2%と5割超え • 「家族の介護・看護」は女性が51.6%と、男性(38.7%)を12.9ポイント上回る
問5 P20～P26	<u>男女平等参画に関する意識について</u> <ul style="list-style-type: none"> • 【⑤政治】を地域別に見ると、立川市は国・都と比べて『男性優遇』が86.0%と最も高い • 【⑧地域活動】で「平等になっている」が5割超え。国・都と比べても立川市が高い

設問	内容
問 19 P81～P82	<p><u>防災に関する男女平等参画に向けた取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「防災計画に男女両方の視点を入れる」が 75.3%、「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」が 74.3%、「防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う」が 61.2%、「災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する」が 58.7%、「避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する」が 57.2%、「男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する」が 55.8%、「町内会・自治会や地域の自主防災組織など運営に男女がともに参画する」が 50.3%と 5 割超え 性別で見ると、「女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う」は女性が 78.5%と、男性（69.3%）を 9.2 ポイント上回る
問 20 P83～P88	<p><u>立川市の男女平等参画に向けた取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 『重要』は【⑰介護をする人の負担軽減】が 89.7%、【⑮保育園・学童保育所の待機児童の解消】が 82.0%、【⑳性犯罪・性暴力防止に向けた取組】が 81.8%、【②学校教育の中で男女平等教育の実施】が 79.2%、【㉑DV被害者の自立支援】が 78.5%、【⑬男性の家事・育児・介護への参加促進】が 78.3%と続く 『満足でない』は【⑰介護をする人の負担軽減】（36.8%）のみが 3 割超え

基本テーマⅢ 男女が働きやすい環境づくりの推進

基本テーマ	施策
Ⅲ 男女が働きやすい環境づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 男女の雇用機会と待遇の均等の確保 2 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり 3 男女の多様な働き方のための子育て支援 4 男女の多様な働き方のための介護支援 5 多様な働き方への支援

<調査結果から見るポイント>

- ① ワーク・ライフ・バランスの推進には家族の理解・協力が必要という回答が最も多い一方で、長時間労働の削減、有給休暇の取得促進、職場や上司の理解・教育、柔軟な働き方など、職場環境の改善に関する意見も多く見られた。女性では家族の理解・協力を求める意見が特に多くなっている。また、子育て世代の30代では仕事と育児・介護との両立支援が半数を超えている。(問2)
- ② 働きやすい社会をつくるためには、もっとワーク・ライフ・バランスを推進する意識が浸透すること、多様な働き方が選べることなどの意見が多くなった。特に、20代で労働時間の短縮などの多様な働き方を選べる必要があると感じているものが多い。また、家庭や職場に女性が働き続けられる雰囲気があることが必要と考える人が男性にも半数近くいる。(問3)
- ③ 職場は、男性が優遇されていると感じる人が国や都と比べても高くなっている。(問5)

<参考にした調査結果>

設問	内容
問2 P11~P13	<p><u>ワーク・ライフ・バランスの推進に必要なこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 「家族の理解・協力」が55.0%、「長時間労働の削減」が52.5%、「有給休暇の取得促進」が49.8%、「職場や上司の理解・教育」が48.0%、「フレックスタイムやテレワーク勤務などの柔軟な働き方」が46.2%と続く • 「仕事と育児・介護との両立支援」は30代(58.3%)が5割超え
問3 P14~P16	<p><u>働きやすい社会をつくるために必要なこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 「仕事も家庭も大切にするという意識が社会に浸透すること」が67.5%と最も高く、次いで「男女ともに労働時間の短縮など多様な働き方を選べること」が57.2%、「家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること」が53.2%、「ワーク・ライフ・バランスを推進する人や企業が増えること」が52.5%と5割超え • 「家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること」は女性が59.4%と高くなっているものの、男性でも44.8%と4割超え • 「男女ともに労働時間の短縮など多様な働き方を選べること」は20代が82.9%と8割超え

設問	内容
問5 P20～P26	<u>男女平等参画に関する意識について</u> ・ 【②職場】の「男性優遇」が国・都と比べて高い

基本テーマⅣ 配偶者等からの暴力の防止

基本テーマ	施策
Ⅳ 配偶者等からの暴力の防止	1 暴力の未然防止と早期発見 2 相談体制の充実 3 被害者の自立の支援

<調査結果から見るポイント>

- ① 夫婦間での行為について、身体的暴力や性的暴力については多くの方が正しく認識できているものの、監視や無視については暴力と認識できている人が少ない。(問9)
- ② 男女間の暴力を防止するために、身近な相談窓口の拡充が求められている反面、既にあるこれらの窓口の認知度は低くなっている。中には、相談したかったがしなかったという人も見られた。相談しやすくするためには、安全やプライバシーの確保、保護機能の強化、PRの強化、LINEなどへの対応、対応時間の拡充など、様々な視点での体制強化が望まれている。(問10～問13)
- ③ 暴力被害を受けたという方が一定数見られた。被害を受けても、配偶者やパートナーと別れなかった、様々な理由から相談をためらったという人がいるため、暴力の根絶や被害の早期発見・早期対応に向けた体制整備が必要となる。(問14/15-1～問14/15-5)
- ④ 夫婦間における各行為について暴力だと思う人の割合は、いずれの項目も目標値までは到達していないが、平成27年度よりも改善が見られる。(目標値)
- ⑤ 女性総合センター・アトムカウンセリング相談の周知度は目標値に到達していないものの、周知度は向上している。(目標値)
- ⑥ 過去2年間にドメスティック・バイオレンスの被害を経験した人の割合は、根絶できなかったものの、女性・男性ともに割合が減少している。(目標値)
- ⑦ 配偶者等から暴力被害にあった人のうち、どこかに(誰かに)相談した人の割合については減少している。(目標値)

<参考にした調査結果>

設問	内容
問9 P35～P46	<p><u>夫婦間での行為における暴力としての認識</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 「暴力にあたると思う」は【③身体を傷つける可能性のある物でなぐる】が98.1%、【⑤刃物などを突きつけて、おどす】が96.7%、【②足でける】が94.8%、【⑪いやがっているのに性的な行為を強要する】が92.0%、【①平手で打つ】が91.7%と続く • 【⑧交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】は「暴力にあたると思う」(57.1%)が5割台、【⑦何を言っても長期間無視し続ける】(63.4%)が6割台と低い

設問	内容
問 10 P47～P49	<p><u>男女間の暴力を防止するために必要な対策・体制</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 80.8%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 65.7%、「加害者への罰則を強化する」が 65.2%、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」が 56.2%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 51.3%と 5 割超え
問 11 P50～P51	<p><u>男女間の暴力に関する相談窓口の認知度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「警察署（交番）」が 73.0%、「立川市の市民相談室」が 42.8%、「立川市女性総合センター・AIMでのカウンセリング相談」が 30.5%と 3 割超え 「相談できる機関・施設があることを知らなかった」は 8.5%
問 12 P52～P53	<p><u>利用したことのある相談窓口について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「暴力を受けていないため、相談する必要がなかった」が 73.2%、「相談したかったがどこにも相談しなかった」が 3.7%、「警察署（交番）」が 2.8%、「立川市の市民相談室」が 1.8%、「警視庁総合相談センター」が 1.2%と続く
問 13 P54～P55	<p><u>被害者が相談しやすい体制を作るために必要なこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」が 82.0%、「被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす」が 63.5%、「相談窓口や利用できる支援について、もっと PR する」が 60.7%、「LINEなどの SNSでの相談ができるようにする」が 55.3%、「夜間休日などの緊急対応を充実させる」が 53.3%と 5 割超え 「LINEなどの SNSでの相談ができるようにする」は女性が 61.2%と、男性（47.9%）を 13.3 ポイント上回る 年齢で見ると、「LINEなどの SNSでの相談ができるようにする」は 20 代が 80.5%と最も高く、30 代以上は年齢が上がると割合が減少する
問 14-1 P57～P58	<p><u>配偶者からの被害経験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 選択肢を合計した『被害があった』は 16.9%
問 15-1 P66～P67	<p><u>交際相手からの被害経験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 選択肢を合計した『被害があった』は 6.6%
問 14-2 P59	<p><u>配偶者から被害を受けたときの行動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相手と別れた」が 24.5%、「別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった」が 58.5%、「別れたい（別れよう）と思わなかった」が 15.1%
問 15-2 P68	<p><u>交際相手から被害を受けたときの行動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相手と別れた」が 42.8%、「別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった」が 42.9%、「別れたい（別れよう）と思わなかった」が 14.3%

設問	内容
問 14-3 P60～P61 問 15-3 P69～P70	<p><u>配偶者と別れなかった理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が 25.8%、「経済的な不安があったから」が 22.6%、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が 9.7%、「世間体を気にしたから」が 3.2% <p><u>交際相手と別れなかった理由</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「経済的な不安があったから」が 33.2%、「これ以上は繰り返されないと思ったから」が 16.7%、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」と「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が 16.7%
問 14-4 P62 問 15-4 P71	<p><u>相談の有無（配偶者からの被害）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談した」が 18.9%、「相談しなかった」が 75.4% <p><u>相談の有無（交際相手からの被害）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談した」が 35.7%、「相談しなかった」が 57.2%
問 14-5 P63～P64 問 15-5 P72～P73	<p><u>相談しなかった理由（配偶者からの被害）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 40.0%、「相談するほどのことではないと思ったから」が 32.5%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 27.5%、「他人を巻き込みたくなかったから」が 22.5% <p><u>相談しなかった理由（交際相手からの被害）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「相談するほどのことではないと思ったから」が 50.0%、「自分にも落ち度があると思ったから」が 25.0%、「相談する人がいなかったから」が 25.0%、「相談しても無駄だと思ったから」が 12.5%、「他人を巻き込みたくなかったから」が 12.5%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 12.5%
問 20 P83～P88	<p><u>立川市の男女平等参画に向けた取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 『重要』は【⑰介護をする人の負担軽減】が 89.7%、【⑮保育園・学童保育所の待機児童の解消】が 82.0%、【⑳性犯罪・性暴力防止に向けた取組】が 81.8%、【②学校教育の中で男女平等教育の実施】が 79.2%、【⑬男性の家事・育児・介護への参加促進】が 78.3%と続く

立川市 男女平等参画についての市民アンケート調査 (令和4年度調査)

この調査に記入された内容については、統計以外の目的に使ったり、他にもらしたりすることはありませんので、ありのままを記入してください。

<調査項目>

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. ワーク・ライフ・バランスの推進について | 6. 配偶者等からの被害経験について |
| 2. 男女平等参画に関する意識について | 7. セクシュアル・マイノリティについて |
| 3. 夫婦間での行為における暴力としての認識について | 8. 防災に関する男女平等参画に向けた取組について |
| 4. 男女間の暴力を防止するために必要なことについて | 9. 立川市の男女平等参画に向けた取組について |
| 5. 男女間の暴力に関する相談窓口について | 10. あなたご自身について |

ご記入にあたって

1. 封筒のあて名の方ご本人がお答えください。ご家族の方などが、代わりにご記入なさらないようにお願いします。
2. 調査は無記名方式で行い、回答結果は全て統計的に処理し、他の目的には一切使用しません。
3. ご記入いただいたこの調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、**10月28日(金)までに**ポストに投函してください。
(切手の貼付や差出人の記入は不要です。)

調査対象者について

令和4年9月15日現在、市内にお住まいの18歳以上の方の中から、
2,000人を無作為に抽出してお願いしています。
その後、転居など異動されている場合でも、ご本人のお手元に届きましたら、
ご回答をお願いいたします。



(お問い合わせ先)

立川市総合政策部男女平等参画課

〒190-0012 立川市曙町2-36-2 立川市女性総合センター・アイム5F

電話 042-528-6801 FAX 042-528-6805

1. ワーク・ライフ・バランスの推進について

問1 あなたの生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味、学習等）」の優先度について、あなたの希望及び現実にもっと近いものをそれぞれ選んで口の中に記入してください。（①～②それぞれ1つ記入してください。）

	記入欄
①希望	
②現実	

「①希望」「②現実」のそれぞれについて、以下の選択肢1～7から1つ選び、記入欄に番号を記入してください。

選択肢	
1	「仕事」を優先
2	「家庭生活」を優先
3	「個人の生活」を優先
4	「仕事」と「家庭生活」を優先
5	「仕事」と「個人の生活」を優先
6	「家庭生活」と「個人の生活」を優先
7	「仕事」「家庭生活」「個人の生活」のすべて

問2 「仕事」と「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味、学習等）」のバランスをうまくとるために必要なことは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○をしてください。）

1	長時間労働の削減	
2	有給休暇の取得促進	
3	仕事と育児・介護との両立支援	
4	フレックスタイムやテレワーク勤務などの柔軟な働き方	
5	保育・介護施設や福祉サービスの充実	
6	職場や上司の理解・教育	
7	「男は仕事、女は家庭」という風潮や固定観念の改善	
8	家族の理解・協力	
9	外部サービスの活用（家事代行サービス、ベビーシッターなど）	
10	特に必要なことはない	
11	その他（	）

問3 働きやすい社会をつくるために必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- 1 仕事も家庭も大切にするという意識が社会に浸透すること
- 2 家庭や職場に結婚・出産後も女性が働き続けられる雰囲気があること
- 3 男女ともに労働時間の短縮など多様な働き方を選べること
- 4 保育園などの子育て支援を充実させること
- 5 ワーク・ライフ・バランスを推進する人や企業が増えること
- 6 育児・介護休業制度を普及・充実させること
- 7 職場での男女の能力評価、昇進、待遇の格差をなくすこと
- 8 男性による家事・子育て・介護をすすめること
- 9 女性のための再雇用制度を充実させること
- 10 特に必要なことはない
- 11 その他 ()

問4 女性が長く働き続けることを困難に感じたり、障害になっている理由はどんなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- 1 育児
- 2 子どもを預けるところがない
- 3 家族の介護・看護
- 4 子どもの教育
- 5 家事
- 6 転勤
- 7 家族の無理解
- 8 職場での結婚・出産退職の慣行
- 9 育児休業や再就職など、長く働き続けるための職場の条件・制度が不十分
- 10 昇進・教育訓練などでの男女の不公平な扱い
- 11 女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方
- 12 困難、障害になるものはない
- 13 その他 ()

2. 男女平等参画に関する意識について

問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(①～⑧それぞれに1つずつ○をしてください。)

	女性 が優遇 されて いる	女性 の方が やや優 遇され ている	平 等にな って いる	男性 の方が やや優 遇され ている	男性 が優遇 されて いる
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育	1	2	3	4	5
④ 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑤ 政治	1	2	3	4	5
⑥ 法律や制度	1	2	3	4	5
⑦ 社会全体	1	2	3	4	5
⑧ 地域活動	1	2	3	4	5

問6 結婚、家庭、離婚などの考え方は様々ですが、あなたはどのように思いますか。

(あてはまるものすべてに○をしてください。)

1 結婚する・しないは個人の自由である
2 結婚しても子どもを持つかどうかは個人の自由である
3 母親も父親も子育てにかかわるべきである
4 結婚してもうまくいかなければ離婚してもよい
5 結婚しても夫婦別姓を選択できてよい
6 いずれも思わない

問7 立川市の男女平等参画に関する次のことがらやことばを知っていますか。

(①～⑤それぞれに1つずつ○をしてください。)

	知 って いる	聞 いた こと はあ る	知 らな い
① 立川市女性総合センター・アイム	1	2	3
② 情報紙「アイム」	1	2	3
③ 男女共同参画都市宣言（平成8年10月2日）	1	2	3
④ 立川市男女平等参画基本条例（平成19年6月25日）	1	2	3
⑤ 立川市男女平等参画推進計画（令和2年6月）	1	2	3

問8 男女平等参画に関する次のことばを知っていますか。

(①～⑨それぞれに1つずつ○をしてください。)

	る 知 つて い	と 聞 いた こ と は あ る	知 ら な い
① ジェンダー	1	2	3
② 性別役割分担意識	1	2	3
③ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
④ DV (ドメスティックバイオレンス)	1	2	3
⑤ デートDV	1	2	3
⑥ JKビジネス	1	2	3
⑦ ダイバーシティ (多様性)	1	2	3
⑧ SDGs	1	2	3
⑨ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3

3. 夫婦間での行為における暴力としての認識について

問9 あなたは、①～⑭のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(①～⑭それぞれに1つずつ○をしてください。)

※「夫婦」には、事実婚(婚姻届を出していない婚姻関係)や別居中の夫婦も含まれます。

	う た 暴 た る 力 と に 思 あ	い も ど も い ち え え ら な と	わ た 暴 な る 力 い と に 思 あ
① 平手で打つ	1	2	3
② 足でける	1	2	3
③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3
④ なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑤ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
⑥ 大声でどなる	1	2	3

	う た 暴 る と 思 あ	い も い え な	ど ち ら と	わ た 暴 る と 思 あ ない
⑦ 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3	
⑧ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3	
⑨ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	
⑩ 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3	
⑪ いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	
⑫ 避妊に協力しない	1	2	3	
⑬ 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3	
⑭ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う	1	2	3	

4. 男女間の暴力を防止するために必要なことについて

問10 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(あてはまるものすべてに○をしてください。)

1	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
2	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
3	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
4	加害者への罰則を強化する
5	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
6	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
7	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
8	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取りしめる
9	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
10	特に必要なことはない
11	その他（ ）

5. 男女間の暴力に関する相談窓口について

問11 男女間の暴力に関する相談窓口として、あなたの知っている相談先はどれですか。
(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- | | | |
|---|----------------------------|---|
| 1 | 立川市女性総合センター・アイムでのカウンセリング相談 | |
| 2 | 立川市の市民相談室 | |
| 3 | 東京ウィメンズプラザ（女性用、男性用） | |
| 4 | 東京都女性相談センター | |
| 5 | 警察署（交番） | |
| 6 | 警視庁総合相談センター | |
| 7 | DV+（内閣府のSNS相談） | |
| 8 | 相談できる機関・施設があることを知らなかった | |
| 9 | その他（ | ） |

問12 男女間の暴力に関する相談窓口として、あなたが利用したことのある相談先はどれですか。
(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- | | | |
|----|----------------------------|---|
| 1 | 立川市女性総合センター・アイムでのカウンセリング相談 | |
| 2 | 立川市の市民相談室 | |
| 3 | 東京ウィメンズプラザ（女性用、男性用） | |
| 4 | 東京都女性相談センター | |
| 5 | 警察署（交番） | |
| 6 | 警視庁総合相談センター | |
| 7 | DV+（内閣府のSNS相談） | |
| 8 | 相談したかったがどこにも相談しなかった | |
| 9 | 暴力を受けていないため、相談する必要がなかった | |
| 10 | その他（ | ） |

【問14-1で「1」～「4」と回答した方にお聞きします】

問14-2 あなたは、被害を受けた時、どうしましたか。（該当するもの1つに○をしてください。）

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1 相手と別れた | →問14-4へ |
| 2 別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった | →問14-3へ |
| 3 別れたい（別れよう）と思わなかった | →問14-4へ |

【問14-2で「2 別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった」と回答した方にお聞きします】

問14-3 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（該当するもの1つに○をしてください。）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 相手の反応が怖かったから | 6 周囲の人から、別れることに反対されたから |
| 2 経済的な不安があったから | 7 相手が別れることに同意しなかったから |
| 3 世間体を気にしたから | 8 子どもがいるから、子どものことを考えたから |
| 4 相手には自分が必要だと思ったから | 9 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから |
| 5 これ以上は繰り返されないと
思ったから | 10 その他（ ） |

【問14-1で「1」～「4」と回答した方にお聞きします】

問14-4 被害を受けたことについて、相談機関や知人など誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（該当するもの1つに○をしてください。）

- | | | | |
|--------|-------|-----------|---------|
| 1 相談した | →問15へ | 2 相談しなかった | →問14-5へ |
|--------|-------|-----------|---------|

【問14-4で「2 相談しなかった」と回答した方にお聞きします】

問14-5 相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○をしてください。）

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思ったから | 6 他人を巻き込みたくなかったから |
| 2 相談しても無駄だと思ったから | 7 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 3 自分さえ我慢すれば、このままやっていける
と思ったから | 8 相談したことがわかると仕返しを受け
ると思ったから |
| 4 自分にも落ち度があると思ったから | 9 その他（ ） |
| 5 相談する人がいなかったから | |

交際相手からの被害経験について

問15 あなたは現在交際相手がいる、または過去に交際相手がいきましたか。（該当するもの1つに○をしてください。）

1 いる／いた	→問 15-1 へ
2 いない	→問 16 へ

【問15で「1 いる／いた」と回答した方にお聞きします】

問15-1 あなたはこの2年の間に、交際相手から身体的暴行や心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫のいずれかをされたことがありますか。

（あてはまるものすべてに○をしてください。）

1 被害があった（身体的暴行）	→問 15-2 へ
2 被害があった（心理的攻撃）	→問 15-2 へ
3 被害があった（性的強要）	→問 15-2 へ
4 被害があった（経済的圧迫）	→問 15-2 へ
5 被害がなかった	→問 16 へ

※身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの体に対する暴行を受けた

※心理的攻撃：人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

※性的強要：いやがっているのに性的な行為を強要された

※経済的圧迫：生活費を渡してもらえない、貯金を勝手に使われたり、外で働くことを妨害された

【問 15-1 で「1」～「4」と回答した方にお聞きします】

問15-2 あなたは、被害を受けた時、どうしましたか。（該当するものに○をしてください。）

1 相手と別れた	→問 15-4 へ
2 別れたい（別れよう）と思ったが別れなかった	→問 15-3 へ
3 別れたい（別れよう）と思わなかった	→問 15-4 へ

【問15-2で「2 別れたい(別れよう)と思ったが別れなかった」と回答した方にお聞きします】

問15-3 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 相手の反応が怖かったから | 6 周囲の人から、別れることに反対されたから |
| 2 経済的な不安があったから | 7 相手が別れることに同意しなかったから |
| 3 世間体を気にしたから | 8 子どもがいるから、子どものことを考えたから |
| 4 相手には自分が必要だと思ったから | 9 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから |
| 5 これ以上は繰り返されないと考えたから | 10 その他() |

【問15-1で「1」～「4」と回答した方にお聞きします】

問15-4 被害を受けたことについて、相談機関や知人など誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(該当するもの1つに○をしてください。)

- | | |
|---|--|
| 1 相談した <input type="checkbox"/> →問 16 へ | 2 相談しなかった <input type="checkbox"/> →問 15-5 へ |
|---|--|

【問15-4で「2 相談しなかった」と回答した方にお聞きします】

問15-5 相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思ったから | 6 他人を巻き込みたくなかったから |
| 2 相談しても無駄だと思ったから | 7 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 3 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから | 8 相談したことがわかると仕返しを受けると思ったから |
| 4 自分にも落ち度があると思ったから | 9 その他() |
| 5 相談する人がいなかったから | |

7. セクシュアル・マイノリティについて

問16 セクシュアル・マイノリティに関する次のことばを知っていますか。

(①～⑪それぞれに1つずつ○をしてください。)

	知っている	聞いたことはある	知らない
① 性自認	1	2	3
② 性的指向	1	2	3
③ レズビアン (Lesbian)	1	2	3
④ ゲイ (Gay)	1	2	3
⑤ バイセクシュアル (Bisexual)	1	2	3
⑥ トランスジェンダー (Transgender)	1	2	3
⑦ LGBT	1	2	3
⑧ LGBTQ+	1	2	3
⑨ SOGI	1	2	3
⑩ アウティング (Outing)	1	2	3
⑪ アライ (Ally)	1	2	3

※「セクシュアル・マイノリティ」とは

性のあり方が多数派に対して少数とされる人々。LGBT等の人々に使用することが多い。性的少数者、性的マイノリティと呼ばれることもある。

問17 あなたは今まで自分が性のあり方について悩んだり、周りの人が悩んでいるのを見聞きした経験がありますか。(あてはまるものすべてに○をしてください。)

1	性自認について悩んでいる (悩んだことがある)
2	性的指向について悩んでいる (悩んだことがある)
3	カミングアウトを受けて悩んでいる (悩んだことがある)
4	アウティングをされて悩んでいる (悩んだことがある)
5	周りの人が性自認、性的指向、カミングアウト、アウティング等について悩んでいる (悩んでいたことがある)
6	そのような経験はない
7	その他 ()

問18 あなたはセクシュアル・マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思いますか。（あてはまるものすべてに○をしてください。）

- 1 学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール）
- 2 就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度）
- 3 住宅（住宅の入居拒否）
- 4 医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）
- 5 民間サービス（家族と同等のサービス提供、家族割引、生命保険の受取など）
- 6 死別（葬儀への出席、遺産相続）
- 7 直面している課題は無いと思う
- 8 その他（ ）

8. 防災に関する男女平等参画に向けた取組について

問19 防災活動や災害発生時の対応にも男女平等参画の視点が必要だと言われています。今後、防災分野で男女平等参画の視点を生かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○をしてください。）

- 1 防災や復興対策会議など方針決定の場を男女両方が担う
- 2 防災計画に男女両方の視点を入れる
- 3 町内会・自治会や地域の自主防災組織など運営に男女がともに参画する
- 4 災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映する
- 5 避難所でのリーダーや炊き出しなど役割を性別で固定せず分担する
- 6 男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加する
- 7 女性、子ども、高齢者、障害者及び要介護者等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行う
- 8 特に必要はない
- 9 その他（ ）

9. 立川市の男女平等参画に向けた取組について

問20 男女平等参画の推進に向け、今後立川市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(①～⑾それぞれに対して、重要度、満足度のあてはまるものに1つずつ○をしてください。)

重要度、満足度のそれぞれに○を1つずつ	重要度					満足度				
	重要である	どちらかといえば重要	どちらともいえない	どちらかといえば重要でない	重要でない	満足である	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満である
例 ○○の充実	1	2	3	④	5	1	②	3	4	5
① 男女平等参画社会を推進するための講座など学習機会の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 学校教育の中で男女平等教育の実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 多様な性への理解促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関わる健康と権利）に関する意識啓発・情報提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤ メディア・リテラシーを育成するための講座や研修の実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥ 女性リーダーを育成するためのセミナーや研修の実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦ 政策・方針決定の場への女性の参画促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧ 防災分野で男女平等の視点を生かす取組	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨ 就職支援講座や合同説明会など女性の就労・再就職への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩ 相談会やセミナーの実施、資金の融資あっせんなど女性の起業支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪ 男女間で等しい労働環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

重要度、満足度のそれぞれに○を1つずつ	重要度					満足度				
	重要である	どちらかといえば重要	どちらともいえない	どちらかといえば重要でない	重要でない	満足である	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満である
⑫ ワーク・ライフ・バランスの意識啓発	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑬ 男性の家事・育児・介護への参加促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑭ 地域活動における男女平等参画の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑮ 保育園・学童保育所の待機児童の解消	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑯ 多様な保育（病児保育、夜間保育など）サービスの実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑰ 介護をする人の負担軽減	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑱ 多様な働き方に関する情報提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑲ DV未然防止の啓発事業や予防教育	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑳ 関係機関や近隣自治体と連携したDVの相談体制強化	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉑ DV被害者の自立支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉒ 性犯罪・性暴力防止に向けた取組	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉓ 性・年代別のニーズに応じた健康支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉔ 市職員の男女平等意識づくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉕ 立川市女性総合センター・アイムの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
㉖ ひとり親、生活困窮の状態にある方への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

10. あなたご自身について

F 1 あなたの性別は何ですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 男性	2 女性	3 ()
------	------	-------

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 19歳以下	4 40代	7 70歳以上
2 20代	5 50代	
3 30代	6 60代	

F 3 あなたの婚姻状況はどれですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 未婚	2 既婚(事実婚を含む)	→F3-1へ	3 離別	4 死別
------	--------------	--------	------	------

【F 3で「2 既婚」と回答した方にお聞きします】

F 3-1 あなたとあなたの配偶者の就労状況はどれですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 両方就労している	2 どちらか片方が就労	3 どちらも就労していない
------------	-------------	---------------

F 4 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 正規社員(常勤)	F 4-1へ
2 非正規社員(非常勤・パートタイム・アルバイトなど)	F 4-1へ
3 自営業(事業の経営者・家業の手伝い・内職など)	F 4-1へ
4 学生	F 4-1へ
5 専業主婦(夫)	
6 無職	
7 その他の仕事()	

【F 4で「1」～「4」と回答した方にお聞きします】

F 4-1 あなたの通勤・通学先は次の中のどれですか。(該当するもの1つに○をしてください。)

1 立川市内	3 都内23区
2 立川市以外の都内市町村	4 他道府県

最後に、何かご意見がありましたらご自由にお聞かせください。

----- -----

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れ、令和4年10月28日(金)までに郵送してください。

立川市 男女平等参画についての
市民アンケート調査
《 報 告 書 》

発 行	立川市総合政策部男女平等参画課 令和5（2023）年6月 所在地：〒190-0012 立川市曙町 2-36-2 立川市女性総合センター・アイム 5F T E L : 042-528-6801
-----	--



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用